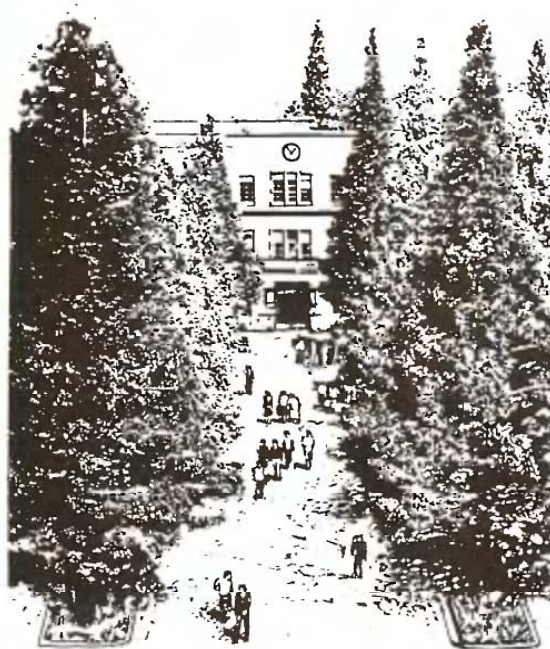


現代日本における エリート形成と高等教育

麻生 誠・山内 乾史〔編〕



広島大学 大学教育研究センター

現代日本における
エリート形成と高等教育

麻生 誠・山内乾史〔編〕

1994

広島大学 大学教育研究センター

目次

	頁
序章 問題意識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・麻生 誠・山内乾史	1
第2章 男性エリートの社会的構成と意識・・・・・・・・・・・・・・・・山内乾史	5
第3章 女性エリートの社会的構成と意識・・・・・・・・・・・・・・・・冠野 文	25
終章 展望と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・麻生 誠	53
引用・参考文献目録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	59
付録1 1992年度 男性エリート調査 エリート・タイプ別集計表・・・・・・・・	69
付録2 1992年度 女性エリート調査 エリート・タイプ別集計表・・・・・・・・	91

序章 問題意識

本研究はわが国のエリートの教育的、社会的形成のあり方を究明することを目的としている。特に、麻生が1978年度に行った日本のエリート形成の研究成果との比較を意図している。本研究では、社会的出自、教育背景と過程、職業達成、技能、価値意識等の側面からエリート形成の問題にアプローチを試みる。特に1978年度の調査と比べて、今回は、現代社会においてますます重要な役割を果たすようになったテクノ＝ビュロクラートの問題や、エリートの価値意識の問題を調査に組み入れると同時に、新制教育制度と旧制教育制度のエリート形成機能の比較——とりわけ、高等教育の機能の比較——に焦点を当てて、エリート形成の特徴を外的、内的の両面から明らかにしようと考えた。

さらに、従来のエリート研究がパワー・エリート研究に偏り過ぎたことを考慮して、女性エリートや芸術家等の表出的エリートなどの調査もあわせて行った。今後も継続的に調査を行い、わが国のエリート形成の時系列的研究の成果を蓄積していこうと考えている。

本書は高等教育研究叢書シリーズの一冊として出版されることもあり、上述の目的のうちでも、特にエリート形成と高等教育の機能の関連に力点をおいている。ここで本調査の背景について少し説明を加えておこう。

周知の通り、明治期の学制発布以降、旧制の学校教育制度は複線型をとり、その中には「国家有為の人材の育成」を意図的に目指して、「旧制中学→旧制高校→帝国大学」に代表されるエリート・コースが存在した。しかし、戦後の学制改革にともなう単線型の新制学校教育制度の発足、高等教育の大衆化にともない、高等教育のエリート形成に果たす役割は大きく変化したと考えられるが、この潮流の中でのエリート形成と高等教育との連関について、考察した論稿は極めて少ない。本研究は過去に編者らが行ってきたエリート形成に関する実証的研究の一環をなし、時系列的な観点から高等教育のエリート形成機能の変化を明らかにすることを目指すものである。さらにまた、戦後の男女平等の理念は、教育や職業、さらにはより広い社会活動への女性の進出を生んだ。この女性解放の新潮流がわが国のエリート形成に及ぼす影響を分析することも本稿のいま一つの大きな課題である。

麻生の著書『エリートと教育』（福村出版、1967年刊）では、1903（明治36年）年以降の『人事興信録』（人事興信所）を用いて、エリートの外的属性を時系列的に検討するとともに、『私の履歴書』（日本経済新聞社）などを用いて、内的特性をも検討している。

この研究スタイルには諸々の批判があるものの、エリートの形成過程の研究を行う以上、重要なアプローチの一つではある。本書で分析される調査データもこの研究の一環である。1977年から1978年にかけて大阪大学人間科学部教育社会学研究室において、二つの調査を行った。一つは、「社会リーダーの職業と教育に関する意見調査」であり、もう一つは「女性リーダーの家庭と職業に関する意見調査」である。前者については、1975年度版の『第28版 人事興信録』より男性を無作為に2000名抽出し、1978年12月に郵送法による質問紙調査を行ったものである。有効回答数は1304、回収率は65.2%であった。このデータを用いた論稿としては、麻生の手による「現代日本におけるエリート形成 — 『学歴エリート』を中心にして —」（『創立十周年記念論集』、1983年）および『日本の学歴エリート』（玉川大学出版部、1991年）、黒岡千佳子による「わが国における大企業ビジネス・エリートと中企業ビジネス・エリート」（『大阪大学教育社会学・教育計画論研究集録』第3号、1982年）に部分的にまとめられている。一方、後者については、やはり1975年度版の『第28版 人事興信録』に掲載されている女性全516名を対象として、1977年6月に郵送法による質問紙調査を行ったものである。有効回答数は163、回収率は31.6%であった。このデータを用いた論稿としては、黒岡千佳子「わが国における現代女性エリートの意識と実態」（『大阪大学教育社会学・教育計画論研究集録』第2号、1981年）、および「わが国における女性高等教育の発展と女性エリート形成」（『教育学研究』第48巻第1号、1981年）にまとめられている。

だが、これらの調査の基礎集計表、自由記述などについては十分に整理されておらず、一部の資料については残念なことに散逸したものさえあったが、今回の調査を行うにあたり、これらの資料を可能な限り収集し、集計しなおした。これらすべてを近く公刊する最終報告書に掲載する予定である。

さて、今回行った調査は上述の調査を引き継ぐものである。男性については「社会リーダーの職業と教育に関する調査」、女性に関しては「女性リーダーの職業と教育に関する調査」と題して、いずれも1991年度版の『第36版 人事興信録』をもとにして1992年9月に行われた。前者については、無作為に抽出された男性2000名に対して郵送法により質問紙調査を行い、宛先不明、本人病死等による無効発送43票を除く有効発送1957票のうち、84

9票を回収した。つまり実質回収率は43.4%である。一方、後者については、全1006名に郵送法により質問紙調査を行い、無効発送22票を除く有効発送984票のうち、301票を回収した。つまり、実質回収率は30.6%である。この二つの調査のエリート・タイプ別の基礎集計表は巻末に掲載してある。自由記述欄については最終報告書に委ねたい。

また、本研究を行うにあたり、エリート研究に関する文献を可能な限り収集し、その成果を巻末の引用・参考文献目録にそのまま列挙した。したがって、本書で引用していないもの、参考にしていないものも含まれていることをご了解いただきたい。

なお、今回の調査研究はカシオ科学振興財団より助成金を受けて行われた「日本のエリート形成に関する教育社会学的研究」（平成3年度）の中間報告書である。この研究の組織は、研究代表者・麻生 誠（大阪大学人間科学部教授）、共同研究者・木村涼子（大阪大学人間科学部助手）、山内乾史（広島大学大学教育研究センター助手）、研究協力者・冠野 文（大阪大学人間科学研究科大学院生）となっている。カシオ科学振興財団編『平成5年年報』（カシオ科学振興財団発行）には「日本のエリート形成に関する教育社会学的研究」と題する報告が上記4名の連名によりまとめられている（103頁～104頁）。その後分析を繰り返してまとめあげたものが本書である。同名の最終報告書及び補足の資料集は前述のように大阪大学人間科学部教育計画論講座より、近く発刊される予定である。

最後に、本研究を行うにあたり、福岡教育大学の秦政春助教授には1975年データの分析に際して、山内が九州大学大型計算機センターにおいてご指導いただくなど何かとお世話になった。ここに記して謝意を表したい。

（麻生 誠・山内乾史）

第2章 男性エリートの社会的構成と意識

本章では、現代日本における男性エリートの社会的構成と意識について、過去の諸調査の成果等と比較しながら、その特徴を論じていきたい。

ここで用いるデータは、1992年夏に大阪大学人間科学部教育計画論講座が麻生誠教授を代表として行った「社会リーダーの職業と教育に関する調査」のデータである。なお、1978年にも同様の調査を大阪大学人間科学部教育社会学講座が行っており、その分析結果の一部は麻生の手により、『大阪大学人間科学部創立十周年記念論集』（1983年刊）所収の「現代日本におけるエリート形成 — 『学歴エリート』を中心として — 」という論稿にまとめられている。この二つの調査を比較検討しつつ、エリートの社会的構成の基盤に変化が起きているのか、あるいは起きていないのか、を明らかにし、さらにそれらエリートはいかなる国家的、社会的ビジョンを有するのかを検討していきたい。本題に入る前に両調査を比較することの具体的な意味について簡潔に述べておきたい。

第二次世界大戦後半世紀近く経た現在、各界指導者層の社会的構成上いくつかの変化が見られるようになってきた。例えば、政界におけるように、世襲の傾向が強まりつつあるのではないかと、という指摘がある。戦後の農地改革、財閥解体など、特定個人が有する特権をその子弟が直接世襲しないように、いくつかの注目すべき改革がなされてきた。日本社会学会が主導してきたSSM調査は1955年から1985年まで10年おきに4度にわたり大規模な全国調査を行い、日本社会の階層間移動の増大を指摘してきた。この結果こそは一連の改革の果実なのであった。しかし、現在、一億総中流化の傾向が指摘される傍らで、資産格差の拡大なども指摘され、現実に各界に世襲的傾向が目立つようになりつつある。1985年のSSM調査の報告書においても、この傾向の予兆が読みとられ、問題提起がなされている。本章の課題の一つはエリートの社会的構成の変化を検討することによって、エリートの社会的再生産傾向が通説通りに確認できるのかどうか、ということである。この問題はエリートの社会的代表性の問題として古くからエリート研究においては問われてきた問題である。

また、1978年調査の時には、サンプルの大半が旧制教育制度の卒業生であったのが、1992年調査の時点では新制教育制度の最初の卒業生が60歳以上に達し、エリート・サンプル中にもかなりの比率を占めるようになった。これら新旧教育制度の卒業生間で、その輩出基盤には何らかの差異があるのか、また意識面で両者に顕著な差異が認められるのかどうか、は極めて興味深い問題である。というのは、新制教育制度が発足したときの、その根底にあった考えは、民主的な、平等な教育制度を志向するというものであったからである。戦前の明らかに国家・社会のニーズに応じた人材を育成するという教育体系（エリート教育をそのうちに含む）と正反対の志向を持つこの新制教育制度によって選抜されてきたエリートはいかなる社会的背景を持ち、いかなる意識を持つのか、またそれが旧制教育制度によって選抜されたエリートといかに異なるのか、という課題がここから提起されてくることになる。この課題には、民主的なエリートは民主的な教育制度によって選抜・育成可能なのか、という問題にこたえるべき鍵が隠されている。

以上二つの課題を念頭において以下の分析を進めるべきであるが、紙幅の都合、及びデータ自体の制約などもあり、上述の課題を十分な形で検証することは困難であり、本章は二つの課題の内、主として前者に重点をおきくことになる。後者については、1975年データと1991年データの二時点間比較という形で検討することを御諒解いただきたい。本章では、特に学歴構成に力点をおいて検討していきたい。

なお、ここで用いるコーホート区分については、以下の通りである。第Ⅰ期は1904（明治37）年以前に出生した者、第Ⅱ期は1905（明治38）年から1914（大正3）年に出生した者、第Ⅲ期は1915（大正4）年から1925（大正14）年に出生した者、第Ⅳ期は1926（大正15／昭和元）年から1931（昭和6）年に出生した者、第Ⅴ期は1932（昭和7）年以降に出生した者である。また、エリート・タイプについては、「ビジネス・エリート」、「政治家・官僚」、「教授・教育家」、「芸術家」、「専門職エリート」、および「その他」というカテゴリーを設け、さらに「ビジネス・エリート」を企業規模によって「大企業ビジネス・エリート」と「中小企業ビジネス・エリート」に分類した。ただし、企業規模不明のものが多くあり、これらの者は「その他ビジネス・エリート」に分類した。また、「専門職エリート」には、技術者、弁護士、医者などが含まれる。本章では紙幅の都合から、特に次の七項目を重点的に検討していきたい。すなわち、①職業別・年齢別構成、②出身地、③学歴、④現在の地位を目指した時期、⑤成功観・人生観、⑥エリートの出身家庭、⑦エリートの家庭である。

第1節 現代男性エリートの社会的構成

それでは、具体的に分析結果を検討していこう。ただし、文中の図表については、特に断らない限り、いずれも後掲の基礎集計表を参照されたい。

①エリートの職業別・年齢別構成

まず、最初に『人事興信録』を台帳にして集計した、エリートの職業別構成の変遷を検討しておこう。表2-1-1を参照されたい。最も古い『人事興信録』は1903（明治36）年に発行されている。1903年当時、最も数量的に多いエリートはビジネス・リーダー（24.0%）と華族（21.5%）であった。他にも官僚と軍人がかなりの比率を占めている。しかし、当然のことながら、ここにみられるカテゴリーのうち、華族、軍人、あるいは地主などは現代においてはすでに該当者はいない。1903年から1915（大正4）年にかけて大きな変化があり、ビジネス・リーダーが24.0%から65.1%へと2.5倍以上増加し、その一方で華族が1%未満にまで減少している。また、軍人も3%、官僚も半減するなどエリートの中でのマジョリティーをビジネス・リーダーがこの時点ですでに占めてしまうのである。1903年以降の変化については、教授・教育家の増加が最も特徴的である。これは大学の大衆化による、大学教授（あるいは管理職）の増大をそのまま反映するものである。ここ最近のエリート構成の変化について、注目すべき点は官僚の激減である。逆にビジネス・リーダーは漸増し、1991（平成3）年では78%をも占めている。

次に、コーホートについてであるが、先に述べたコーホート区分に基づいて職業タイプの年齢構成を見てみよう。表2-1-2によると、構成が高齢者に偏っているのが教授・教育家と芸術家、若年者に偏っているのがビジネス・エリートと政治家・官僚である。ちなみに平均年齢を算出してみると、大企業ビジネス・エリート60.8歳、中小企業ビジネス・エリート63.2歳、その他ビジネス・エリート62.3歳、政治家・官僚62.6歳、教授・教育家71.9歳、芸術家68.3歳、専門職エリート66.6歳、その他69.0歳となっている。全体の平均年齢は63.8歳である。これら平均年齢を1975年のものと比較してみると、全体の平均年齢は64.4歳であったから、やや若返ったことになる。特に平均年齢がここ15年で低下しているのは、大企業ビジネス・エリート（64.3歳→60.8歳）、政治家・官僚（66.2歳→62.6歳）である。逆に平均年齢が上昇しているのは、教授・教育家（67.0歳→71.9歳）である。

表2-1-1 男性エリートの職業構成の変遷 (1903年~1991年)

職業	年度	1903年		1915年		1928年		1942年		1955年		1964年		1975年		1991年	
		N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
官 僚		39	19.5	32	10.7	33	11.0	89	14.9	80	13.3	55	9.0	72	5.6	11	1.3
ビジネス・リーダー		48	24.0	195	65.1	193	64.3	350	58.4	370	61.6	421	70.4	948	73.5	647	77.9
地主		10	5.0	10	3.3	20	6.7	47	7.8	0	---	0	---	0	---	0	---
軍 人		30	15.0	9	3.0	8	2.7	15	2.5	0	---	0	---	0	---	0	---
教授・教育家		8	4.0	16	5.3	21	7.0	35	5.8	64	10.7	72	12.5	156	12.1	40	4.8
医 者		6	3.0	4	1.3	3	1.0	24	4.0	10	1.7	6	1.0	20	1.6	10	1.2
護 士		0	---	4	1.3	0	---	3	0.5	13	2.2	13	2.2	42	3.3	34	4.1
芸 術 家		0	---	0	---	0	---	2	0.3	17	2.8	4	0.7	13	1.0	14	1.7
宗 教 家		0	---	1	0.3	0	---	2	0.3	2	0.3	3	0.5	0	---	0	---
文化・リーダー		0	---	0	---	2	0.7	3	0.5	3	0.6	11	1.8	0	---	0	---
政 治 家		8	4.0	1	0.3	1	0.3	3	0.5	29	4.8	10	1.1	12	0.9	8	1.0
華 族		43	21.5	20	0.7	13	4.3	11	1.8	0	---	0	---	0	---	0	---
そ の 他		8	4.0	8	2.7	6	2.0	16	2.7	12	2.0	5	0.8	26	2.0	67	8.1
総 計		200	100.0	300	100.0	300	100.0	600	100.0	600	100.0	600	100.0	1289	100.0	831	100.0

(註) 麻生(1991)より再掲、加筆。

表2-1-2 男性エリートの平均年齢

	1975 (N)	1991 (N)
大企業ビジネス・エリート	64.3(464)	60.8(156)
中小企業ビジネス・エリート	62.8(458)	63.2(282)
その他ビジネス・エリート	-----	62.3(164)
政治家・官僚	66.2(82)	62.6(19)
教授・教育家	67.0(156)	71.9(39)
芸術家	70.5(10)	68.3(12)
医療エリート	68.1(20)	-----
弁護士その他	67.2(69)	-----
専門職エリート	-----	66.6(51)
その他	-----	69.0(72)
総計	64.4(1259)	63.8(795)

(註) 麻生(1991)より再掲、加筆。

表2-1-3 男性エリートの世代別構成 (1975年データと1991年データの比較)

職業タイプ	誕生年代	~1904	1905~ 1914	1915~ 1925	1926~ 1931	1932~	N A	
大企業ビジネス・エリート	1975	10.3	36.6	43.3	6.9	0.4	2.5	100(476)
	1991	0.0	1.2	12.0	31.1	49.1	6.6	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	1975	13.6	35.3	34.5	11.4	2.1	3.0	100(472)
	1991	0.6	3.6	35.4	35.4	29.9	8.4	100(308)
政治家・官僚	1975	17.9	35.7	38.1	3.6	2.4	2.4	100(84)
	1991	0.0	5.3	26.3	21.1	47.4	0.0	100(19)
教授・教育家	1975	21.2	46.2	25.6	5.1	1.9	0.0	100(156)
	1991	2.5	25.0	45.0	25.0	0.0	2.5	100(40)
芸術家	1975	38.5	23.1	38.5	0.0	0.0	0.0	100(13)
	1991	0.0	28.6	14.3	14.3	28.6	14.3	100(14)
専門職エリート	1975	24.2	33.9	29.0	3.2	6.5	3.2	100(62)
	1991	0.0	17.0	28.3	28.3	22.6	3.8	100(53)
その他	1975	31.7	39.0	19.5	0.0	0.0	9.8	100(41)
	1991	0.0	17.1	40.8	19.7	17.1	5.3	100(76)
その他ビジネス・エリート	1975							
	1991	1.2	4.7	22.7	22.7	44.2	4.7	100(172)
総計	1975	14.9	37.0	36.2	7.7	1.6	2.6	100(1304)
	1991	0.6	6.8	23.3	29.0	33.9	6.4	100(849)

次に、年齢構成を世代交代という点から検討してみよう。表2-1-3を参照されたい。いずれのタイプのエリートにおいてもかなりの世代交代が起こっているが、特に大企業ビジネス・エリートではその傾向が著しい。逆に世代交代が比較的起こっていないタイプは教授・教育家である。第二次世界大戦後から1975（昭和50）年頃までが、戦前からリーダーの位置にあり続ける者と戦後躍進してきた若い世代とがとってかわった時期であるのに対し、1975年頃から現在まではそれらのエリートと新制教育制度の卒業生とがとってかわった時期なのである。

表2-1-4 エリート全体の出身地域構成の変化（%）（再集計）

	北海道	東北	関東	中部	北陸	関西	中四国	九州	海外	N A	% (N)
1975年	2.6	4.5	25.6	11.0	5.3	26.9	11.3	7.9	2.8	2.0	100.0(1304)
1991年	3.1	5.2	27.9	12.7	3.3	22.5	12.1	8.7	3.3	1.2	100.0(849)
1991年カード・データ	3.1	5.0	29.4	16.0	3.3	19.0	12.9	9.9	0.4	1.5	100.0(2000)

②エリートの出身地

表2-1-4に示したのは、エリートの出身地である。ここでいう出身地とは、小学校時代を過ごした地域のことである。また、欄外にカード・データとあるのは、『人事興信録』より抽出した2000サンプル分の出生地を調べたものである。また、表註にもある通り、ここでいう、「関東」とは東京を除く関東圏、すなわち、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川を指し、「近畿」とは大阪を除く近畿圏、すなわち、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山を指す。また、海外の出身者の全ては戦前期日本の旧植民地、すなわち樺太、満州、朝鮮、台湾の出身者である。カード・データの出身地の分布とサンプルの出身地の分布に大きな差異は認められない。先にも述べたように両者の出身地の定義はやや異なるが、サンプルの歪みが大きくはないということをこの事実から確認できる。そこでここでは849サンプル分のデータを中心にして検討していく。

まず、全エリートについてみていくと、東京出身者が18.4%とかなりの比率を占めており、これに関東、近畿、大阪の比率を加えると、半数に達する。つまり、日本のエリートの約半数が関東圏と近畿圏から集中的に供給されているということである。

これをエリートのタイプ別にみると、政治家については萬成(1965)の指摘にも見るとおり、都市的背景の薄い職業である。政治家などは国会議員でも、参議院比例代表区を除き、地方から選出されてくるのであり、政治家の多くが郷里（あるいはその近隣）から出馬するからである。東北、中国、四国、九州などの出身者が、このタイプのエリートにはかなり含まれている。また、芸術家についてはやはり萬成(1965)の指摘にも見るとおり、特に都市的背景の濃い職業である。

1975年のデータと比較してみると、東京・関東、大阪・近畿の出身者の増加、特に関西ブロックの出身者の増加が目立つ。減少しているのは、北海道、北陸などの地域である。

なお、出身地ではなく、現在の居住地の分布をみると、東京に31.7%、関東に21.8%と関東ブロックだけで過半数に達し、関西ブロックを含めると3/4以上に達する。エリートの分布は都市圏に著しく集中する傾向があるのである。

さて、出身地を市部と郡部との比率で検討すると（表2-1-5）、市部出身者が多いのは、教授・教育家であり、郡部出身者が多いのは政治家・官僚である。1975年と比べると、教授・教育家はよりいっそう市部の出身者が増加した（62.2%→70.0%）のに対し、政治家・官僚は郡部出身者が増加した（25.0%→42.1%）という結果は興味深い。芸術家は教授・教育家と類似の傾向を示す。

以上検討してきたように、出身地からみたエリートの供給基盤は、大都市圏集中の傾向をみせてはいるものの、エリートのタイプによってやや異なるのである。

③ 学歴

次に、学歴について検討してみよう。ここでは最終学歴だけではなく、中等教育学歴、専攻分野、成績、あるいは留学経験なども含めて総合的にエリートの学歴を検討したい。

まず、最終学歴の構成を検討してみたい。表2-1-6を参照されたい。初等教育の出身者が0.9%、中等教育の出身者が9.8%とあわせて約1割おり、あとはほぼ高等教育出身者である。高等教育出身者のなかでも東京（帝国）大学、京都（帝国）大学、あるいは早稲田大学、慶應義塾大学、あるいは北海道、東北、名古屋、大阪、九州、一橋などの旧制大学の出身者の比率がかなり高い。これらの大学の出身者を合計すると約46%にも達する。

この分布をエリート・タイプ別に検討してみよう。まず、東京（帝国）大学出身者が最も多いのは政治家・官僚で、31.6%をも占めている。次いで教授・教育家に多く27.5%である。逆に、東京（帝国）大学出身者が少ないのは、ビジネス・エリートと芸術家である。

表2-1-5 市部出身者の比率の比較 (%)

	1975年データ		1991年データ	
	市部	郡部	市部	郡部
大企業ビジネス・エリート	68.1	23.9	56.9	28.1
中小企業ビジネス・エリート	70.8	25.2	61.7	26.3
その他ビジネス・エリート			59.9	29.7
政治家・官僚	69.0	25.0	36.8	42.1
教授・教育家	62.2	34.6	70.0	22.5
芸術家	69.2	23.1	42.9	28.6
専門職エリート	71.0	22.6	49.1	39.6
全体	68.3	25.8	58.9	28.5

表2-1-6 1991年データのエリート全体の最終学歴構成 (%)

	初等教育	中等教育	専門学校 短期大学		大 学						留学	大学院	各種学校	軍関係	N/A	%(N)
			私立	官立	私立	官立	早慶 大大	東大	京大	旧大						
大企業ビジネス・エリート	0.6	6.0	1.8	1.8	15.6	15.0	13.8	19.8	8.4	14.4	0.6	0.6	0.0	0.0	1.8	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	1.0	13.6	3.9	9.4	18.5	11.0	10.1	12.3	3.6	11.0	0.0	2.9	0.3	1.9	0.3	100(308)
その他ビジネス・エリート	1.2	9.3	4.1	3.5	18.0	13.4	14.5	11.0	8.1	13.4	0.0	0.6	1.2	0.0	1.7	100(172)
政治家・官僚	5.3	26.3	0.0	0.0	10.5	5.3	0.0	31.6	10.5	5.3	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	100(19)
教授・教育家	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	12.5	0.0	27.5	22.5	25.0	0.0	7.5	0.0	0.0	0.0	100(40)
芸術家	0.0	7.1	7.1	21.4	14.3	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	100(14)
専門職エリート	1.9	3.8	7.5	1.9	17.0	15.1	0.0	17.0	11.3	9.4	1.9	9.4	1.9	1.9	0.0	100(53)
その他	0.0	9.2	3.9	9.2	13.2	3.9	13.2	23.7	5.3	9.2	0.0	3.9	0.0	2.6	2.6	100(76)
合計	0.9	9.8	3.5	5.8	16.4	11.7	11.0	16.0	7.1	12.2	0.2	2.6	0.5	1.2	1.1	100(349)

表2-1-7 1975年データのエリート全体の最終学歴構成 (%)

	尋常 小学校	初等 教育	実業 年 学 校	新制 高 校	旧旧 制制 中高 師 学校 範 校	非専 短 工門 期 学 大 校 学 ト	国専 立門 学 校	工専 リ門 学 ト 校	私 立 大 学	国 公 立 大 学	早慶 稲 応 田 大 学 学	文高 官等 系教 育	旧東一 七京橋 帝工大 国業学 大	なしA	%(N)
大企業ビジネス・エリート	0.0	0.8	3.4	0.0	1.7	5.3	16.8	2.5	8.2	3.2	11.1	0.6	45.0	0.4	100(476)
中小企業ビジネス・エリート	0.8	5.5	18.4	1.3	7.0	6.8	10.2	2.1	15.5	1.7	12.1	1.3	15.3	2.1	100(472)
政治家・官僚	0.0	1.2	3.6	0.0	7.1	1.2	4.8	0.0	10.7	2.4	6.0	1.2	60.7	1.2	100(84)
教授・教育家	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.6	8.3	2.6	6.4	5.8	5.1	0.0	68.6	1.3	100(156)
芸術家	7.7	7.7	15.4	0.0	0.0	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	23.1	15.4	100(13)
専門職エリート	1.6	1.6	1.6	0.0	1.6	6.5	3.2	1.6	22.6	3.2	11.3	0.0	45.2	0.0	100(62)
その他	0.0	2.4	4.9	0.0	2.4	4.9	9.8	0.0	29.3	2.4	12.2	0.0	22.0	9.9	100(41)
合計	0.5	2.6	8.5	0.5	3.9	5.1	11.7	2.1	12.1	2.8	10.4	0.8	37.5	1.5	100(1304)

ただし、エリート専門学校とは、東京高商、東京高工、東京高師、神戸高商、広島高師を指す。

旧制帝国大学、一橋、早慶大などの出身者の合計を求めてみると、政治家・官僚では47%、教授・教育家では75%にも達する。芸術家には早慶大出身者が多く、これと旧制帝国大学などの出身者を合わせた比率は43%になる。こういった大学の出身者が少ないのは、ビジネス・エリートと専門職エリートとである。大企業ビジネス・エリートの場合、この比率は56%であるが、中小企業ビジネス・エリートの場合には37%、専門職エリートの場合には38%である。

この傾向を1975年データと比較してみよう。表2-1-7を参照されたい。1975年データの場合には最終学歴のカテゴリーが若干異なる。例えば、エリート専門学校のカテゴリーには東京高商や東京高工が含まれている。だが、マクロな傾向を把握するには大きな支障はないだろう。さて、1975年データの場合には、初等教育出身者が3.1%、中等教育出身者が12.9%（ただし、旧制高校出身者を含む）となっており、1991年データの場合と大差はない。旧七帝大、東工大、一橋大、エリート専門学校、早慶大の出身者の合計は約50%に達し、やはり1991年データの場合と大差はない。

だが、以上の傾向をエリート・タイプ別に検討すれば1991年データの場合との差が明らかになる。例えば、1975年の場合であれば、大企業ビジネス・エリートは46%が旧七帝大・東京工業大・一橋大の出身であった。しかし、中小企業ビジネス・エリートでこれらの大学の出身者は15.3%しかいない。つまり、同じビジネス・エリートでも企業規模による学歴の差異がかなりみられたのである。実際、中小企業ビジネス・エリートのうち、実業学校・青年学校の出身者は18%もいる。ところが、1991年の場合には、上述のように中小企業ビジネス・エリートの場合にも旧七帝大を中心とするエリート大学の出身者が増加している。また、芸術家の場合、1975年には旧七帝大・東工大・一橋大の出身者は23%にしかならず、早慶大出身者も7.7%に過ぎない。だが、1991年には上述のようにかなりエリート大学の出身者が増加している。

つまり、最終学歴の構成について次のような変化の傾向を指摘できるのである。第一には、高学歴化がすでにある程度進行していたタイプのエリートについてはさらなる高学歴化が進行する傾向はみられなかったのに対し、高学歴化がまだあまり進んでいなかったタイプのエリートでは高学歴化が進行し、その結果、エリート・タイプ間の学歴水準の平準化が起こった。第二に、学歴水準の平準化とともに、エリート・タイプと大学タイプとの結びつきが強まった。つまり、旧七帝大出身者を中心とするエリート・タイプと、私立大学出身者を中心とするエリート・タイプに多様化する兆候がみられるのだ。

では、次に中等教育学歴について検討してみよう。これについては1991年分のデータしかないので、後継の基礎集計表を参照されたい。この表によれば、エリート・タイプ間の多様性は明らかである。例えば、教授・教育家の場合には、90%が旧制中学の出身（77.5%が旧制官立中学の出身）であり、さらに、25%がナンバー・スクールに進学し、37.5%がネーム・スクールを中心とする官立旧制高校に進学するなどしている。すなわち、大半が戦前の複線型教育制度の中で正系のエリート・コースを歩んだ、ということを示しているのである。旧制教育制度出身者が多数を占めるという点で芸術家は同じであるが、出身中学の中身がかなり異なる。つまり、官立中学の出身者は42.9%であり、21.4%が私立中学の出身なのである。旧制高校についてみても、86%が不進学である。

さらに、戦後の単線型教育制度の出身者を中心とするタイプのエリートでも内部に多様性がみられる。例えば、比較的若い世代が多いとされるビジネス・エリート内部でも大企業ビジネス・エリートと中小企業ビジネス・エリートの間には差がみられる。というのは、大企業ビジネス・エリートの場合には官公立普通高校の出身者が41.3%であるのに対して中小企業ビジネス・エリートの場合には27.3%に過ぎず、逆に中小企業ビジネス・エリートの場合には実業系の学校出身者が多くなっているのである。

表2-1-8 高等教育機関での専攻分野の構成比 (%)

	1 9 7 5 年 デ ー タ							1 9 9 1 年 デ ー タ						
	法 学	経 商 学	文 芸 学	理 学	工 学	医 薬 学	農 学	文 学	政 法 学	経 商 学	理 学	工 学	医 薬 学	農 学
大企業ビジネス・エリート	15.5	40.8	2.1	2.3	28.6	0.8	3.2	0.6	17.4	35.9	2.4	24.6	1.8	2.4
中小企業ビジネス・エリート	8.9	38.6	3.8	1.3	19.7	1.3	5.1	4.5	14.6	30.8	1.6	22.1	1.9	2.9
その他ビジネス・エリート								3.5	15.1	32.0	1.7	21.5	2.3	2.9
政治家・官僚	42.9	16.7	6.0	1.2	14.3	0.0	7.1	0.0	31.6	5.3	5.3	5.3	0.0	10.5
教授・教育家	10.9	5.8	26.9	13.5	18.6	7.7	9.0	10.0	7.5	12.5	17.5	20.0	12.5	12.5
芸術家	0.0	7.7	38.5	0.0	7.7	0.0	7.7	28.6	14.3	28.6	0.0	0.0	7.1	0.0
専門職エリート	43.5	16.1	1.6	0.0	1.6	32.3	0.0	3.8	47.2	9.4	0.0	13.2	15.1	0.0
全体	15.7	32.4	6.7	3.0	21.2	3.2	4.7	4.5	17.7	29.1	2.5	21.0	3.3	3.1

次に、高等教育機関での専攻を検討してみよう。表2-1-8を参照されたい。1991年データの場合には、エリートの29%が経済学・商学を、18%が政治学・法学を、21%が工学をそれぞれ専攻している。エリートのタイプ別にみても、大企業ビジネス・エリートと中小企業ビジネス・エリートはエリート全体の傾向とほぼ同様である。ただ、大企業ビジネス・エリートには社会科学系の専攻者がやや多く53%となっている（中小企業ビジネス・エリートの場合には45%）。政治家・官僚の場合には、政治学・法学を専攻した者が32%と際だって多く、他には農学を専攻した者が11%とエリート全体に比べて多くなっている点が目立つ。教授・教育家の場合には、社会科学系の専攻者が20%と少なく、文学、理学、農学、医歯学・薬学の専攻者が多くなっており、他のタイプのエリートとは大きく異なっている。芸術家の場合は文学を専攻した者が多い。専門職エリートの場合には、政治学・法学を専攻した者が47%となっており、経済学・商学を専攻した者は9%、他に工学や医歯学・薬学を専攻した者が15%前後づついる。これは専門職エリートとなっている者の約半数が弁護士であり、公認会計士、医師・薬剤師、エンジニアがそれに続いている、という状況を反映したものであると考えられる。

これを1975年データと比較してみると、エリート全体ではほとんど構成は変わらない。エリートのタイプ別にみても、ビジネス・エリートでは経済学・商学を専攻した者の比率が低下し（大企業ビジネス・エリート41%→36%、中小企業ビジネス・エリート39%→31%）、工学専攻者もやや減っている。教授・教育家については文学の専攻者の減少が目立つ（27%→10%）。専門職エリートでは工学専攻者の増加と（2%→13%）医歯学・薬学専攻者の減少とが（21%→15%）対照的である。

表2-1-9 留学経験の有無の比較 (%)

	1975	1991
大企業ビジネス・エリート	1.3	6.6
中小企業ビジネス・エリート	1.1	1.6
その他ビジネス・エリート		4.7
政治家・官僚	4.8	15.8
教授・教育家	24.4	47.5
芸術家	7.7	0.0
専門職エリート	3.2	20.8
全体	4.5	7.5

次に、留学の経験について検討してみよう。表2-1-9を参照されたい。1975年データの場合、外国留学を経験した者は4.5%であったのに対し、1991年データの場合には7.5%になっている。いずれのタイプのエリートでも増加が著しいが、特に専門職エリートと教授・教育家の留学経験者の増加が目を引く。

留学した国については、留学経験者の7割がアメリカ合衆国であり、1/4がヨーロッパである。ヨーロッパに留学しているのは大半が教授・教育家である。

また、留学先の学校は名門校と一般校が相半ばし、留学した者の内学位を取得した者は20%であり、学位取得には至らない者が大半である。

表2-1-10 学校時代の成績の比較(%)

①初等教育段階

	1975年					1991年				
	よたくでき	まあまあ	あきまりい	ぜんぜんい	N A	よたくでき	まあまあ	あきまりい	ぜんぜんい	N A
大企業ビジネス・エリート	75.0	18.3	4.2	0.4	2.1	76.0	17.4	5.4	0.0	1.2
中小企業ビジネス・エリート	63.6	23.1	6.8	0.4	6.1	69.8	26.8	1.9	0.6	1.6
政治家・官僚	83.3	11.9	1.2	0.0	3.6	57.9	36.8	0.0	0.0	5.3
教授・教育家	75.0	18.6	3.8	0.0	2.6	70.0	27.5	0.0	0.0	2.5
芸術家	61.5	15.4	0.0	0.0	23.1	42.9	35.7	21.4	0.0	0.0
専門職エリート	75.8	8.1	9.7	0.0	6.5	71.7	18.9	9.4	0.0	0.0
合計	71.2	19.1	5.1	0.3	4.3	68.1	24.9	4.2	0.5	2.4

②中等教育段階

	1975年					1991年					
	よたくでき	まあまあ	あきまりい	ぜんぜんい	N A	よたくでき	まあまあ	あきまりい	ぜんぜんい	非該当	N A
大企業ビジネス・エリート	48.5	40.3	7.6	0.4	3.2	48.5	45.5	4.8	0.0	0.6	0.6
中小企業ビジネス・エリート	39.2	40.7	8.1	0.6	11.4	34.4	52.9	8.4	1.3	2.3	0.6
政治家・官僚	59.5	26.2	8.3	0.0	6.0	52.6	31.6	5.3	0.0	5.3	5.3
教授・教育家	61.5	29.5	5.8	0.6	2.6	65.0	32.5	0.0	0.0	0.0	2.5
芸術家	7.7	30.8	23.1	0.0	38.5	35.7	50.0	7.1	7.1	0.0	0.0
専門職エリート	59.7	19.4	12.9	1.6	6.5	62.3	30.2	5.7	0.0	0.0	1.9
合計	47.3	36.9	8.1	0.5	7.1	41.7	47.3	7.1	0.7	1.6	1.5

③高等教育段階

	1975年					1991年					
	よたくでき	まあまあ	あきまりい	ぜんぜんい	N A	よたくでき	まあまあ	あきまりい	ぜんぜんい	非該当	N A
大企業ビジネス・エリート	31.5	45.8	11.3	1.3	10.1	26.3	50.9	13.2	1.8	7.2	0.6
中小企業ビジネス・エリート	18.2	34.5	9.1	1.3	36.9	14.3	56.2	12.3	2.3	13.3	1.6
政治家・官僚	42.9	39.3	7.1	0.0	10.7	21.1	42.1	0.0	0.0	31.6	5.3
教授・教育家	57.1	29.5	9.0	0.0	4.5	50.0	42.5	0.0	2.5	0.0	5.0
芸術家	23.1	38.5	0.0	0.0	38.5	14.3	50.0	21.4	7.1	7.1	0.0
専門職エリート	45.2	37.1	4.8	1.6	11.3	47.2	37.7	5.7	0.0	3.8	5.7
合計	30.9	38.5	9.8	1.0	19.8	23.0	50.8	11.4	1.9	10.5	2.5

最後に、在学中の成績に対する自己評価を検討してみよう。表2-1-10を参照されたい。1991年データでは、初等教育の段階では68%が「よくできるほうだったと思う」と答え、「ぜんぜんできなかったと思う」と答えた者はわずか0.5%であった。中等教育の段階になると、「よくできるほうだったと思う」と答えた者は42%に減少するが、「ぜんぜんできなかったと思う」と答えた者は0.7%に過ぎない。高等教育の段階になると、「よくできるほうだったと思う」と答えた者は23%になるが、「ぜんぜんできなかったと思う」と答えた者は1.9%に過ぎない。これをエリートのタイプ別に検討してみると、初等教育の段階で最も成績がよいのは、大企業ビジネス・エリート、教授・教育家であり、逆に成績が悪いのは芸術家と政治家・官僚である。だが、中等教育の段階になると、教授・教育家とならんで政治家・官僚は最も「よくできるほうだったと思う」者が多い。高等教育の段階になると成績がいいのは、教授・教育家と専門職エリートである。予想されることではあるが、教授・教育家はすべての教育段階で最も成績がいいタイプのエリートである。

さて、これを1975年データと比較してみよう。まず初等教育の段階では特に成績がいいのは1991年とは逆に政治家・官僚である。最も悪いのは中小企業ビジネス・エリートと芸術家である。中等教育の段階になると、教授・教育家と政治家・官僚、専門職エリートの出来がよく、悪いのはここでも中小企業ビジネス・エリートと芸術家である。高等教育の段階になっても、最も成績がよいのは政治家・官僚、教授・教育家、専門職エリートであり、最も成績が悪いのは芸術家と中小企業ビジネス・エリートである。これら各教育段階での成績の自己評価を学校への適応度とみなすならば、1975年のデータではいずれの学校段階でも適応しているのは専門職エリート、教授・教育家、大企業ビジネス・エリートであり、いずれの学校段階でも適応していないのは政治家・官僚、芸術家、中小企業ビジネス・エリートとなる。ところが、1991年データになると、教授・教育家のみがすべての教育段階において適応し、芸術家のみがすべての教育段階で適応していない。政治家・官僚はむしろ成績の悪いグループに入ることさえある。もっとも、『人事興信録』に掲載されるようなキャリア・エリートは東京大学法学部を中心とするエリート大学出身者がほとんどであり、学校適応は良好であったと推測される。つまり、比較的大衆的基盤から登場してくる党人派の政治家とエリート官僚の比率が変化したため、上述のような変化が見られたのではないかと考えられるのである。また、大企業ビジネス・エリートと中小企業ビジネス・エリートの間には大きな差異が認められるが、1975年から1991年にかけて（中小企業ビジネス・エリートの学校適応が良好になるという方向で）縮小している。

④現在の地位を目指した時期

現在の地位を目指した時期については35%が大学生の時、20%が青年期であり、おおむね56%が20代に決定している。ただ、これに関してはエリート・タイプ間で著しい相違がみられる。例えば、政治家・官僚では高校生の時点で決意した者が21%にのぼる一方、50代で決意した者も32%にのぼる。ここでいう50代での決意とは、他の職業からの政界への転身の決意であろうと思われる。また、教授・教育家の場合には、中学生の時点で18%が決意している。

⑤エリートの成功観・人生観

成功観については質問紙の中では、「現在の地位を築かれる上で重要だった」ものは何か、とたずねている。また、人生観については「幸せな人生をおくるにあたって」「現在のあなたにとって、大切だと思われるもの」を選ぶ、という形式をとっている。これらの項目を分析してみよう。

まず、成功観については、後掲の基礎集計表を参照されたい。13項目の内、最も重要であると考えられている項目は「たゆまない努力」である。「非常に重要である」と回答した者だけで69%に達し、「まあ重要である」と回答した者もあわせれば95%にもなる。これに次ぐ項目が「めぐまれた人間関係」という項目である。「非常に重要である」と回答した者は37%、「まあ重要である」と回答した者は49%となっており、あわせると86%になる。また、「知的能力」についても「非常に重要である」と回答した者は27%に過ぎないが「まあ重要である」と回答した者をあわせると88%になる。能力は努力よりもプライオリティーが低く、また、人間関係が重視されていることは、われわれが平生、日本的な風土として考えているものから予想される傾向ではある。それに対して、最も重要ではないと考えられている項目としては「配偶者の社会的地位や財産」があげられる。「全く重要でない」と回答した者だけで60%、「あまり重要でない」と回答した者をあわせると95%に達する。また、それに続く項目としては「有利な出身階層や世襲財産」、「父の期待や援助」、「母の期待や援助」、「巨大組織の力」といった項目があげられる。

やや予想外であったのは「親の躾や教え」が重要視されていることである。「非常に重要である」と答えた者は18%にすぎないが、「まあ重要である」と答えた者が50%おり、両者合わせると68%にも達する。一方、重要でないと考える者は25%である。

さて、これらの回答傾向をエリート・タイプとの関連でみると、まず「たゆまない努力」については、最も重要だと感じているのは教授・教育家である。このタイプでは、「非常に重要である」と回答した者は83%にも達し、残りの者も「まあ重要である」と回答している。逆に最も重要ではないと感じているグループは芸術家と専門職グループである。「知的能力」については芸術家に最も重要と考える者が多く、64%と群を抜いている。逆にそう考えない者が比較的多いのはビジネス・エリートと政治家・官僚である。興味深いのは、「社会のために生きようとする使命感」という項目で「非常に重要である」と答えた者が全体では28%だったのに対して、政治家・官僚では53%、専門職エリート、教授・教育家では43%に達していたということである。逆に使命感が比較的希薄なのはビジネス・エリートである。エリートに対する使命感の吹き込みはともすれば危険視されがちではあるが、使命感なきエリートが横行するとすればやはり問題であろう。いかにして民主的な価値観に立脚した使命感を養成できるか、今後のエリート教育の大きな課題と考えられるだろう。

「めぐまれた人間関係」を重視しているのは、政治家・官僚とビジネス・エリート、教授・教育家であり、逆にあまり重視していないのは芸術家と専門職エリートである。この結果は容易に予測されるとおりである。また「有利な学歴」という項目に対して教授・教育家の回答傾向が他と違うことである。全体では「非常に重要である」と回答した者が6%、「まあ重要である」と回答した者が40%であるのに対して、教授・教育家では前者が23%、後者が55%もいた。これらのエリート・タイプ間での回答傾向の相違は所属する組織の性格をもちろん反映しているのであるが、他面、エリートになるための必須条件と考えられているものがエリート・タイプ間でやや異なるということも示している。

さて、一方、人生観についてであるが、重視されている項目を列挙すると、「健康的な生活」82%、「妻の健在」68%、「やりがいある仕事」50%である。逆にあまり重視されていない項目としては「高い社会的地位」3%、「おもしろく変化に富んだ生活」3%、「宗教的救い」5%などが挙げられる。つまり、すでに名なり功遂げたエリートにとっては夫婦の健康とやりがいある仕事が大事なのである。全般的に、人生観については、エリート・タイプ間での分散は小さく比較的類似したビジョンを持っていると言えよう。興味ある傾向としては二つあげられる。一つは「平和な世の中」を望む者は全体では42%であるが、政治家・官僚には68%もいる。二つは「妻の健在」を望む者は先に述べたとおり、全体では68%であるが教授・教育家には80%もいることである。

⑥エリートの出身家庭

エリートの出身家庭について、ここでは両親の職業・学歴などを中心に検討したい。

まず、両親の職業について検討してみよう。後掲の基礎集計表では本人の職業と両親の職業の分類の際カテゴリーを同じにしておいた。これは最近再三指摘されている社会指導層の世襲傾向の増大を検討するためである。

さて、これによれば、父親がホワイトカラーであった者は45%である。ビジネス・エリートの両親については、大企業ビジネス・エリートでは43%、中小企業ビジネス・エリートでは52%、その他ビジネス・エリートでは47%となっている。つまり、ビジネス・エリートの場合には特にビジネス界出身の父親を持つ者が多いというわけではないのである。

次に、政治家・官僚の場合について検討しよう。エリート全体では父親が政治家・公務員であった者は12%であるが、政治家・官僚の場合には26%となっており、明らかに世襲傾向があることがわかる。逆に、父親がビジネス界出身である者は26%と少ない。

教授・教育家について検討しよう。エリート全体では教授・教育家を父に持つ者は5.5%なのだが、教授・教育家エリートについてみれば、12.5%が父と同じ職業についている。また、父が専門職であった者はエリート全体では6%だが、教授・教育家エリートの場合12.5%である。逆に、父親がビジネス界出身である者は35%とエリート全体より少ない。

次に芸術家であるが、エリート全体では父親が芸術家である者はわずか1%であるが、芸術家エリートの場合にはこの比率が21%にもなり、世襲傾向が最も顕著である。

その意味で専門職エリートも世襲傾向の比較的強い分野である。エリート全体は専門職出身の父親を持つ者は6%だが、専門職エリートについては17%と約3倍の比率である。

さて、次に母親の職業を検討しよう。エリート全体では73%が専業主婦か無職であり、有職者は約1/4である。最も有職者の多いのは政治家・官僚の母である。逆に最も有職者が少ないのは教授・教育家である。

つづいて、出身家庭の社会的・経済的地位の自己評価を検討してみよう。エリート全体については「中の上」に約半数が、「中の下」に約1/4が集中している。わが国エリートの社会経済的階層基盤が上層に偏っているわけでもないが、かといって完全に開かれているわけでもない、という古くから唱えられてきたシェーマは今日なお生きているわけである。エリートのタイプ別にみると、最も上層が多いのは教授・教育家であり、最も下層が多いのは政治家・官僚である。

教授・教育家の場合、上層・中層・下層の出身者の比率はそれぞれ20%、78%、3%となっている。政治家・官僚の場合には0%、73%、21%である。エリートのタイプによって社会経済的背景がいくぶん異なっているという事実は重要である。

次に両親の学歴を検討しておこう。予想されるとおり、父親についても母親についてもエリートの両親の学歴はかなり高い。エリート全体でみると、父親については初等教育卒34%、中等教育卒24%、高等教育卒39%であり、母親については初等教育卒38%、中等教育卒50%、高等教育卒9%である。エリートの両親の世代を考えれば、両親の学歴構成はかなり高くなっていると言えよう。エリートのタイプ別にみると、父親の学歴が高いのは、大企業ビジネス・エリートと教授・教育家であり、父親の学歴が低いのは政治家・官僚と芸術家である。母親の学歴が高いのは大企業ビジネス・エリートであり、母親の学歴が低いのは政治家・官僚と専門職エリートである。

⑦エリートの家庭

最後に、エリート自身の家庭について検討してみよう。まず結婚しているかどうか、を質問したところ、教授・教育家で一人未婚者がいた以外はすべて結婚を経験していた。また、初婚である者が89%、再婚である者が5%であった。また恋愛結婚か見合い結婚かについては、恋愛結婚が38%、見合い結婚が50%と見合い結婚がやや多かった。ただし、これに関してはエリート・タイプ間の差異がかなり大きい。最も恋愛結婚した者が多いのは政治家・官僚で63%である。逆に見合い結婚した者が最も多いのは専門職エリートである。

結婚の年齢については25歳～29歳という65%と圧倒的に多く、30歳～34歳という者が19%とこれに続いた。ビジネス・エリートは早婚、芸術家、専門職エリートは晩婚の傾向がみられるが、タイプ間の差異はさほど大きくない。

最後に妻の最終学歴については、初等教育卒がわずか2%、中等教育卒が52%、高等教育卒が43%とかなり高学歴である。政治家・官僚の妻の場合には中等教育卒68%、高等教育卒26%と高等教育卒がやや少なくなっているが、そのほかのタイプのエリートについては大きな差異は見られない。

以上、男性エリートの属性等について検討してきたが、一言で言えば、特に外的属性においてはかなり1975年調査の結果と符合しているが、激しい世代交代がこの15年に起こったことも事実である。巷間ささやかれるエリートの再生産傾向の増大といった傾向は特に観察されなかったし、エリートの高齢化傾向も見られなかった。

第2節 現代男性エリートの意識

1992年の調査ではエリートに対して社会観を深めるべく、ものの考え方についていくつかの質問を行っている。社会指導者がどのような世界観、社会観、国家観を持ち、どのような方向に社会を導こうと考えているのかという問題は、どの社会でもどの時点でもかなり重要な問題であるが、ことに今日のように五五年体制の崩壊、イデオロギーの揺らぎ、政界再編などの激動の時代には、特にその重要性は高まるのである。もちろん、われわれの調査で準備した質問項目は、社会指導者の世界観、社会観、国家観のごく一部について明らかにするに過ぎないものであり、もとより網羅的なものではない。また、現代のように一つの政治秩序が終焉し、つぎなる秩序がまだ確立していないという過渡的な段階には、当然エリート個々の立場も変動するわけであり、したがって調査の時点から1年半を経過した今日ここに見られる回答傾向が、その後変化する可能性は否定できるものではない。しかし、以下に述べるとおり、ここに準備した20の項目からも現代男性エリートの意識の大まかな傾向、およびエリート内部での多様性についていくつかの示唆を得ることができるのである。

表2-2-1はその回答結果を因子分析にかけたものである。ただし手法は主因子法、バリマックス回転によって行った。ここに析出された6本の軸の解釈はかなり難しい。まず、第1の因子は、改憲や天皇制に関する質問に対する反応傾向であり「新保守主義」と軸を命名できると思う。第2の因子は、自由主義経済、資本主義に関する質問に対する反応傾向であり、「経済体制」と命名できよう。すなわち、第1の因子が政治的な志向を表すのに対して、第2の因子は経済的な志向を表していると考えられるのである。第3の因子は「能力観」ともいうべき因子である。第4の因子から第6の因子までは命名するのは難しく、ここでは特に命名しないことにしておきたい。本節では紙幅の許す限り、因子分析の結果ばかりでなく、個々の項目に関する基礎集計を参照して検討していくことにしたいと思う。それではまず、エリート・タイプ別に因子得点を検討しよう。

第1軸に関しては、エリート・タイプによって回答傾向に大きな差がみられ、政治家・官僚と教授・教育家、芸術家とビジネス・エリートでは回答傾向が逆である。第2軸では教授・教育家と専門職エリートが特に強い反応を示す。第3軸では政治家・官僚が特に強い反応を示す。第5軸には政治家・官僚が、第6軸には教授・教育家が大きく反応する。

表2-2-1 男性エリートのイデオロギーの因子マトリックス (主因子法、バリマックス回転後)

	1	2	3	4	5	6
日本国憲法は時代にあわなくなったので改憲すべきである	0.674	0.084	0.096	-0.108	0.084	0.039
日本は軍事力を増強すべきである	0.629	-0.016	0.116	-0.120	0.055	0.088
国を愛する若者が減ったのは嘆かわしいことである	0.485	0.293	-0.060	-0.029	0.176	-0.246
天皇制は日本の政治的・文化的伝統として尊重すべきである	0.435	0.394	-0.051	-0.161	0.143	-0.135
福祉政策の拡充が財政赤字を引き起こしている	0.398	0.079	0.144	-0.140	0.103	0.166
母性保護措置は女性の就業機会を制限しているから全廃すべきである	0.215	0.149	0.048	0.189	-0.085	0.107
日本の経済力は多少の波はあっても今後も揺るがないだろう	0.019	0.532	0.044	0.066	-0.040	0.151
社会主義体制の崩壊は、資本主義の正当性を証明した	0.284	0.498	0.042	-0.126	0.111	0.052
男女雇用機会均等法の成立により雇用面での女性差別はほぼ解決された	0.134	0.231	-0.122	0.082	0.089	0.137
貿易摩擦に関するアメリカの日本批判の多くは不当である	0.002	0.225	0.001	-0.052	0.078	-0.030
人間の能力には個人差があるから全く平等な教育などありえない	0.158	0.100	0.670	-0.197	0.023	-0.102
生まれつきの能力の差は努力だけではいかんともしがたい	0.062	-0.035	0.527	0.015	0.074	0.153
女性の社会進出をもっと増やすために立法措置が必要である	-0.030	-0.078	-0.101	0.466	-0.223	-0.129
差別や貧困の原因は主に社会制度にある	-0.117	-0.104	0.052	0.432	-0.010	0.037
日本は外国人労働者を原則として受け入れるべきである	-0.084	0.002	-0.070	0.328	-0.103	-0.038
現在の大学間の格差をなくすべきである	-0.072	0.067	-0.184	0.278	0.125	-0.057
仕事上ものごとを考えたり人をまとめたりする能力は、生まれつき男性のほうがすぐれている	0.129	0.381	0.082	-0.056	0.498	0.149
子どもに手がかからなくなるまでは母親が育児に専念すべきである	0.155	0.083	0.035	-0.152	0.469	-0.024
地球環境問題はこれからますます深刻になり、人類の存亡にかかわる	0.048	-0.016	-0.000	0.256	0.085	-0.423
職場での採用や昇進は学歴に基づいて行われるべきである	0.110	0.099	0.069	0.027	0.099	-0.317

表2-2-2 エリート・タイプ別因子得点

	第1車組		第2車組		第3車組		第4車組		第5車組		第6車組		N
	MEAN	S.D.	MEAN	S.D.	MEAN	S.D.	MEAN	S.D.	MEAN	S.D.	MEAN	S.D.	
大企業ビジネス・エリート	-0.071	0.944	-0.104	0.989	-0.056	0.925	0.079	0.933	-0.025	0.954	-0.053	0.955	274
中小企業ビジネス・エリート	-0.066	0.921	-0.030	0.938	-0.058	1.071	0.053	0.963	0.181	0.955	-0.120	0.973	154
その他ビジネス・エリート	-0.156	0.940	0.023	0.877	0.066	0.950	-0.051	1.032	-0.099	1.061	0.035	0.917	154
政治家・官僚	0.517	1.074	-0.116	1.008	0.722	1.208	-0.246	1.372	0.349	1.168	0.357	1.010	16
教授・教育家	0.599	1.179	0.409	0.961	0.078	0.962	-0.283	1.097	0.257	1.055	0.206	1.176	32
芸術家	0.513	1.030	-0.020	1.329	-0.128	1.538	-0.063	0.560	-0.128	1.027	0.501	0.937	13
専門職エリート	0.259	1.227	0.375	1.154	-0.043	1.208	0.175	1.106	-0.217	1.082	0.074	1.388	46
その他	0.127	1.090	0.025	1.226	0.063	0.874	-0.272	1.087	-0.133	0.948	0.091	1.005	59

表2-2-3 学歴タイプ別因子得点

	第1車組		第2車組		第3車組		第4車組		第5車組		第6車組		N
	MEAN	S.D.	MEAN	S.D.	MEAN	S.D.	MEAN	S.D.	MEAN	S.D.	MEAN	S.D.	
初等教育・中等教育のみ	-0.133	1.002	-0.281	1.088	0.251	1.085	-0.148	0.923	-0.099	0.973	0.167	0.927	79
専門学校・短期大学	-0.167	0.868	-0.214	0.950	-0.002	1.003	-0.220	0.965	-0.363	0.794	0.011	1.056	67
私立大学	-0.030	0.966	0.025	0.984	0.220	1.041	-0.109	0.932	-0.158	0.982	0.040	1.053	121
国公立大学	0.103	0.971	0.010	0.734	0.022	0.971	0.122	0.988	0.122	1.121	-0.170	0.924	92
早稲田大・慶應義塾大	-0.073	0.953	-0.216	0.894	-0.006	0.956	-0.110	0.856	0.076	0.963	-0.095	0.958	86
東京大・京都大	0.122	1.113	0.123	1.118	-0.205	0.936	0.142	1.090	0.196	1.044	-0.115	1.055	171
旧帝大・一橋大・東京工業大	0.031	0.958	0.265	0.983	-0.053	1.032	-0.005	1.047	0.107	0.939	0.209	0.949	89
大学院・留学	0.178	1.059	0.339	0.904	-0.385	0.795	0.369	1.192	-0.090	0.983	0.033	1.035	21
その他	-0.609	0.936	0.146	1.007	-0.037	0.999	0.294	0.913	-0.224	0.907	0.230	0.884	15

個々の項目に対する回答傾向を見ていくと、エリートのタイプによって大きく回答傾向が分かれる項目は、(2)「福祉政策の拡充が財政赤字を引き起こしている」、(5)「人間の能力には個人差があるから全く平等な教育などありえない」、(6)「生まれつきの能力の差は努力だけではいかんともしがたい」、(10)「女性の社会進出をもっと増やすために立法措置が必要である」などである。具体的には、①(2)に対してはビジネス・エリート、政治家・官僚、専門職エリートに賛成する者が多く、教授・教育家、芸術家に反対する者が多い、②(5)に対しては政治家・官僚のみ反対する者が多い、③(6)に対しては芸術家と専門職エリートに賛成する者が多い、④(10)に対しては政治家・官僚のみ賛成する者が多い。

また、改憲や軍事力増強に対して政治家・官僚が、教授・教育家、芸術家などとともにかなり「ハト派」的な立場にいることも興味深い。こういった問題に対してもっとも「タカ派」的な立場にいるのはビジネス・エリートである。

次に、学歴タイプ別にみていこう。最も大きく反応がわかるのは、第3軸と第4軸である。第3軸では高学歴者のネガティブな反応と低学歴者のポジティブな反応、第4軸では高学歴者のポジティブな反応と低学歴者のネガティブな反応が非常に特徴的である。しかし、概して学歴別の差は「能力観」以外の項目については顕著ではなく、エリートのタイプ別の差の方が大きいと言えよう。

第3節 まとめ

以上の分析結果を簡潔に二つにまとめておこう。

まず、第一に、現代日本におけるエリートの社会的基盤については、大きな変化はみられないということである。ただし、学制の変化、高等教育の大衆化の影響もあり、教育的基盤は変化した。すなわち、これまで比較的高学歴者の少なかったタイプのエリートに高学歴社が増加していること、および高等教育学歴内部での多様化とエリート・タイプとがリンクしていることである。

第二に、現代日本におけるエリートの意識については、教授・教育家、芸術家が最も「ハト派」的な立場にあるのに対して、ビジネス・エリートが最も「タカ派」的な立場にある。政治家・官僚は、個別問題に応じて立場が異なり、改憲・再軍備などの問題に関しては意外なことに「ハト派」的な立場にある。概して、エリート・タイプと意識類型との対応関係は単純な関係ではなく、ねじれ現象がみられる。 (山内乾史)

第3章 女性エリートの社会的構成と意識

本章では、近年その動向が注目される現代女性エリートの社会的構成と意識について、とくに1977年に行われた「女性リーダーの家庭と職業に関する意見調査」と、1992年の「女性リーダーの職業と教育に関する意見調査」のデータを比較しながら論じていきたい。ここでいう女性エリートとは『人事興信録』掲載者として確定した。同興信録の掲載比率でみると女性は、1977年調査で用いた『第28版 人事興信録』では約0.6%、1992年調査で用いた『第36版 人事興信録』では約0.9%と漸増傾向はみられるものの、その数は圧倒的に多数を占める男性エリートからすると極めて少ない。だが、彼女ら及び多くの女性が職場へと進出し、意志決定場面においても徐々に参画が進んでいる。女性エリートの社会的構成と意識を明らかにすることは女性の将来をも占うものといえよう。なぜなら彼女らは現代日本における女性の地位と役割の問題をもっとも端的にあらわしていると考えられるからである。

第1節 女性エリート形成基盤の変化

1977年及び1992年調査の調査を行った2時点間で、女性エリートの形成基盤はどう変化したか、あるいは変化していないかをまず見ていくことにする。ここでは、1977年調査、1992年調査とも全対象者について『人事興信録』の記載事項をカード化して分析に用いた。

(注1)

①女性エリートの年齢構成

対象となった女性エリートの平均年齢は調査時の満年齢で数えて1977年で64.5歳、1992年で67.8歳といずれもかなり高い。平均の出生年でみると、前者は1912（大正元）年、後者は1924年（大正13）年となる。その年齢構成は表3-1-1に示すように1977年は最高齢93歳から最若齢35歳まで、1992年は98歳から37歳となっており、60歳以下の世代の比率

表3-1-1 年齢構成

	1992年調査	1977年調査
88歳—	5.0%	1.4%
87歳—78歳	16.6	10.4
77歳—67歳	30.3	33.0
66歳—61歳	21.6	18.1
—60歳	26.2	36.5
出生年不明	0.3	0.6
計	100(1008)	100(691)

表3-1-2 出身地

	1992年調査	1977年調査
北海道	2.7%	2.7%
東北	5.1	4.5
関東	6.3	7.2
東京	27.0	32.7
北陸	2.7	2.5
甲信越	4.1	4.2
東海	8.1	7.1
近畿	13.6	11.4
大阪	10.1	6.8
中国	5.1	7.8
四国	3.8	3.8
九州	5.9	5.6
海外	2.2	1.7
出身地不明	3.1	1.9
計	100(1008)	100(691)

(ただし、「関東」とは茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川を指し、「近畿」とは滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山を指す。)

表3-1-3 輩出比

	1992年調査	1977年調査
北海道	71.4	69.0
東北	53.4	45.2
関東	51.1	56.4
東京	378.7	513.6
北陸	80.0	70.3
甲信越	63.2	62.9
東海	80.8	71.2
近畿	146.5	120.2
大阪	207.8	154.3
中国	61.6	91.0
四国	75.5	70.9
九州	42.1	37.8
格差レバ	336.6	475.8

表3-1-4 現在地

	1992年調査	1977年調査
北海道	2.3%	1.4%
東北	3.3	1.9
関東	10.7	10.0
東京	43.8	58.9
北陸	0.6	0.4
甲信越	1.6	0.7
東海	6.3	3.9
近畿	14.4	11.4
大阪	8.9	5.2
中国	3.0	2.9
四国	1.7	0.6
九州	2.3	2.0
現在地不明	1.3	0.1
計	100(1008)	100(691)

でみると、1977年には36.4%だったのが1992年には26.2%と、女性エリートの高齢化がこの15年間でやや進行したといえる。また、世代交代という面からみると、1977年調査では明治生まれが51.5%、大正生まれが36.2%、昭和生まれが11.7%であったが、1992年調査ではそれぞれ16.4%、40.3%、43.1%と、この15年間のうちに女性エリートはほとんどが旧制世代であったものが、新制教育制度の世代が4割近くを占めるまでに変わった。

②女性エリートの出身地と地域移動

対象者の出身地は表3-1-2に示すとおりである。1977年には東京出身者だけで全体の三分の一を占めていたが、1992年には東京、大阪をあわせて三分の一強とやや東京への集中度が低下している。エリート供給の地域格差をみるため各地域の人口比と関連させた地域ごとの輩出比を求めた。これは対象者の平均の出生年にもっとも近い年度の国勢調査を用い、各地域別の人口比と女性エリートの出身地別の比率が一致した場合を100として算出したものである。これを表3-1-3に示した。輩出比の格差レンジでみると、1977年には475.8だったのが1992年には336.6と、エリート供給における地域格差が15年間で縮小したことがわかる。エリートの多産地域は1977年で東京が基準比の5.1倍、大阪が1.5倍、大阪を除く近畿が1.2倍と東京が圧倒的な輩出力を持っていたが、1992年には東京が3.8倍、大阪が2.0倍、近畿が1.5倍と、東京の優位は変わらないもののその相対的な輩出力は弱まっている。この15年間の変化を要約すれば、女性エリートの出身地域はいくらか分散したが、それは東京への一極集中から、東京と近畿という二極化の方向へすすんだということになる。さらに、エリートの出身地域が市部か郡部かに分けてみよう。同じ地域でも都市部か農村部かによって対象者の生育環境は異なると考えられるからである。これは1992年調査の質問紙回答者から得られた数値をもとに算出した。出身地が当時の市部だったとする回答が62.8%、郡部が16.6%、無回答が20.6%あったが、この無回答のうち東京出身者はほぼ市部出身と判断して加算すると市部出身者が約8割となる。これより、1925年度国勢調査による市部・郡部の人口比から算出した輩出比は、市部355.8、郡部22.3であった。女性エリートは圧倒的に都市部から供給されているのである。このような女性エリートの出身地にみられる特徴は、親の職業や学校教育機会、就職機会などに関連が深いものと思われる。

次いで女性エリートの地域移動をみておこう。出身地から現在地までの移動をすべて把握することは資料の関係で不可能だが、それでもある程度の傾向はみられる。表3-1-

4のように、現在地の分布は1977年で東京が約6割、1992年にはいくらか地域は分散するものの東京が約4割、2位の大阪で1割足らずと、女性エリートの活躍の場は東京近辺に集中している。こうした女性エリートの移動の様子をみるために出身地と現在地とをクロスさせてみた。その結果、1977年調査の場合は出身地域と同一の地域にとどまる「定着エリート」が全体の56.6%であり、出身地域をこえて移動する「流動エリート」が43.4%であった。これらの地域を都市部（ここでは便宜的に東京・関東＝首都圏、大阪・近畿＝関西圏とした）とその他の地域とにわけて詳しくみていくと、都市部への定着46.7%、その他地域への定着9.8%、都市部への流入39.1%、その他地域への流入4.3%となる。女性エリートは出身地域に定着する率が高く、移動した場合には都市へと流入する割合が多い。しかも女性エリートの出身地は都市部が優勢であるため、女性エリートの都市拘束性は高い。都市部定着に都市部への流入を加えると85.8%に達し、とりわけ首都圏でも東京は定着率、流入率ともにきわめて高い。1992年調査の場合は「定着エリート」が全体の61.2%であり、「流動エリート」が36.9%であった（現在地不明1.9%）。その内訳は、都市部への定着45.9%、その他地域への定着15.3%、都市部への流入31.3%、その他地域への流入5.7%である。女性エリートの都市拘束性はあいかわらず高いといえるが、都市在住率（＝都市部定着＋都市部流入）は77.2%と、1977年に比べいくぶん緩和された。

こうした変化は地方においても進学や就職の機会が増加したことの一因があると思われる。1977年調査の対象者の平均出生年は1912（大正元）年であり、1992年調査の対象者のそれは1924（大正13）年である。つまり前者が学齢期にあったのは戦前であり、後者の場合は高等教育の就学年齢にさしかかった頃に終戦を迎えている。両集団の就学機会はちょうど第二次大戦をはさんで大きく変わった。これは就職についてもあてはまるだろう。東京に典型的にみられるように、都市のメリットは女性にとって大きく、それは現在においても変わりはないといえるが、それでも地方に活動の基盤をもつ女性エリートはわずかずつとはいえ増加している。今後は女性エリートの都市拘束性はしだいに緩和されていくのではないかと思われる。

③学歴

学歴構成については、最終学歴を、高等教育学歴、中等教育学歴、初等教育学歴の3つに分類すると、1977年も1992年もその構成比は、高等教育学歴所有者が約半数、中等教育学歴所有者が約4割、残りが初等教育学歴所有者と学歴不明の者となっており、ほぼ同じであ

表3-1-5 最終学歴

	1992年調査	1977年調査
初等教育学歴	1.7%	2.0%
中等教育学歴/共学	7.4	2.6
"/別学	30.1	33.1
各種学校	4.0	3.0
私立専門学校,短大/共学	3.0	2.7
"/別学	12.4	20.3
官公立専門学校,短大/共学	2.3	4.2
"/別学	3.2	4.5
私立大学/共学	5.7	3.5
"/別学	4.4	2.0
国公立大学/共学	3.1	1.6
"/別学	0.5	0.1
早稲田大,慶応大	1.8	0.9
旧帝大,一橋大,東工大	3.5	2.9
留学(大学学部)	2.8	5.1
大学院	2.7	6.3
留学(大学院)	2.6	1.2
学歴不明	8.9	9.4
計	100(1008)	100(691)

表3-1-7 職業構成

	1992年調査	1977年調査
政治家・官僚	8.6%	10.3%
教授・教育家	14.1	19.7
芸術家	21.6	29.7
専門職エリート	5.5	11.1
ビジネス・エリート	50.2	28.8
その他	0.0	0.4
合計	100(1008)	100(691)

表3-1-6 コーホート別最終学歴

1992年調査 出生年	初等	中等	高等 I	高等 II	学歴 不明	計 % (N)
-1914	1.9	39.4	32.4	13.9	12.5	100(216)
1915-1925	2.0	43.6	29.4	15.2	9.9	100(303)
1926-1931	1.4	42.9	15.1	31.5	9.1	100(219)
1932-	1.5	31.5	10.9	51.7	4.5	100(267)

1977年調査 出生年	初等	中等	高等 I	高等 II	学歴 不明	計 % (N)
-1914	2.5	36.9	35.5	13.8	11.3	100(406)
1915-1925	2.2	37.9	35.2	18.7	6.0	100(182)
1926-1931	0.0	34.8	11.6	44.9	8.7	100(69)
1932-	0.0	24.1	13.8	55.2	6.9	100(29)

「高等I」とは専門学校、短大を指し、「高等II」とは大学、大学院を指す。

る。だが、その学歴水準については、とくに高等教育学歴の所有者において大きく変化している。高等教育学歴の内訳をみると、1977年には大学院修了2.0%、大学卒16.1%、専門学校・短大卒31.7%であったものが、1992年にはそれぞれ5.3%、21.8%、20.9%となった。さらにこれを設置主体別（国公立・私立）、教育形態別（共学・別学）に分けてみると表3-1-5のようになる。1977年には私立の別学専門学校卒が主流で、なかでも日本女子大学校、東京女子大学校、津田英学塾、神戸女学院など、日本の女性高等教育の草分けとなった名門校の出身者が多い。また官立の専門学校卒の場合も、東京と奈良の両女子高等師範学校の出身者が多い。戦前においては、こうした専門学校が女性にとっては正則ルートにおけるほとんど最高の学歴であり、女性の大学への受け入れは変則的に行なわれていたにすぎなかった。1977年調査の対象者の大半は旧学制の下で教育を受けており、このことが学歴構成にも反映されている。留学者が比較的多いこともこのあらわれといえるだろう。1992年調査では高等教育学歴における主流は共学の大学卒へとシフトした。これは女性エリートの世代交代と戦後の学制改革によるところが大きい。新学制になってからは戦前の専門学校が次々と大学へ昇格し、また女性にも大学への門戸が広く開かれた。進学機会ならびに進学先の拡大にともない、以前は相対的に大きなシェアを持っていた名門校のシェアは世代とともに縮小している。中等教育学歴所有者については、その大半が旧制の高等女学校卒である。1977年調査よりも1992年調査で共学形態が増加しているのは、新制高校の卒業生では共学形態のケースがほとんどだからである。ここにも、戦前には一般的だった男女別学が、戦後は男女共学を原則とする方向へ変化したことがあらわれている。

新学制のインパクトが女性エリートにとってどれほどのものであったかをみておこう。表3-1-6は、1977年調査対象者および1992年調査対象者の最終学歴をコーホート別にみたものである。各コーホートを構成する人数の比が1977年から1992年のあいだで変化しているのは先にも述べたとおりであるが、各コーホートに占める各学歴段階の修了者の比率は、昭和生まれの世代で大きく変わり、とくに中等教育段階の就学年齢において新学制を迎えた1932年以降の世代のコーホートでは大卒以上の学歴を持つ比率が半数を超え、専門学校・短大卒も含めると6割以上が高等教育学歴の所有者となっている。女性エリートの学歴は若い世代になるにつれ、旧学制において女性に開かれていた高等教育機関である専門学校、さらに新学制になってからは大学へと進む割合が増加していく。このように制度面での拡充に呼応して学歴水準の顕著な上昇がみられることから、女性エリート形成要因としての学歴の持つ意味が大きくなってきたことが推察される。女性一般にとって高等女

学校卒という中等教育の修了が最高学歴に等しかった頃にすでに何割かの女性エリートたちの学歴は専門学校や大学のレベルに達しており、全体として女性エリートは同世代の女性と比べるときわめて高い学歴の持ち主であった。ただ女性と男性とでは学歴のもつ意味が異なるという指摘がこれまでもなされてきており、男性にとっては地位の形成ないし獲得のための「手段的価値」をもっているのに対して、女性にとっては所属する社会階層の必要とする文化や教養をあらわす「象徴的価値」をもっているといわれる。女性エリートの学歴についても同様のことがいえるかもしれない。

④女性エリートの職業構成

対象者の職業や地位は複数にまたがる場合も多く、彼女らが様々な役割を担っていることがわかる。それらを基本的に『人事興信録』の第一番めの記載事項をもとに分類したが、分類の困難なケースも少なくなかったことをことわっておきたい。こうして得られた対象者の職業構成を表3-1-7のように大きく6つのカテゴリーに分けた。これをみると1977年には芸術家・作家が構成比で最大だったが、1992年にはビジネス・エリートがほぼ倍増し、他のカテゴリーは相対的に構成比を減少させている。この職業構成をもう少し詳しくみておこう。

政治家・官僚のカテゴリーには官僚、議員、元議員、運動団体リーダーなどが含まれている。1977年から1992年のあいだに国会議員が増えているが、その他のケースはやや減少した。国会議員に占める女性の割合はこの15年間にほぼ倍増しており、実数でみると1977年調査から1992年調査のあいだの変化と符合している。

教授・教育家のカテゴリーには大学の教授や研究者、また教職に携わる者、学校経営に携わる者などが含まれている。15年間の変化をみると、教員のなかでも教授職が減少しているのに対して名誉教授職にある割合が増え、エリートの高齢化が反映されたかたちとなっている。1977年には学校経営者と大学教授とがこのカテゴリーで2大シェアを占めていたが、1992年には割合は減少したものの学校経営者がトップ、次いで名誉教授が多数を占めている。学校経営者のなかには戦前から女性教育の発展に尽力してきた人びとも多い。また教育界は女性が職業を続けることのできる限られた領域の一つとして優秀な女性を集め、そこからさらに政治や社会運動へと活躍の場を移していった人も少なくない。女性が進学できた官立の最高学府が長く女子高等師範学校だったというのも教育界と女性エリートとの深いつながりをもたらしてきたといえよう。

芸術家・作家のカテゴリーには音楽家、画家、舞踊家、俳優などの芸術家、作家、評論家、マスコミ関係で活躍する者などが含まれる。1977年にはこのカテゴリーが構成比で最大だったが、1992年にはやや減少をみた。それでもこの領域は女性エリートを多く輩出している。芸術活動や文筆活動、マスコミへの登場などは人びとの心に大きな影響力を持ち、そうした活動そのものは各々の芸術家や作家の表現能力や個性によって評価されるところが大きい。自己表現においては性別は劣性とされるよりはむしろ有利にはたらく部分がある。人びとへの影響力の大きさの点でも芸術エリートは女性エリートとして特色ある存在といえよう。

専門職エリートのなかには医師、看護婦、弁護士などの専門知識・技能をもって活躍する者、またデザイナー、美容師などが含まれる。このカテゴリーが女性エリート全体に占める構成比は15年間に半減したが、弁護士、公認会計士、税理士、建築士など国家試験によって知識・技能を認められた者の割合は増加しており、性別による有利不利のない試験が女性エリートの輩出にはプラスにはたらいているのであろう。

ビジネス・エリートは15年間で構成比が大幅に増加した。『人事興信録』の記載事項からはすべての対象者について十分な情報は得られなかったが、約半数のビジネス・エリートについて記載事項からわかったのは、1977年調査から1992年調査のあいだに（a）企業内で被雇用者として昇進してきた者の増加、（b）企業の創業や設立に個人としてあるいは共同で携わった者の増加、そして（c）家業や夫業の継承のかたちでビジネス界に入った者の増加である。数の上で最大なのは（b）であるが、増加が急激なのは（a）である。女性エリートにおいては、ビジネス界への参入は以前は（c）のタイプが主流であった。しかし、女性エリートの高学歴化や法制上の条件整備も進んできており、今後は女性エリートの中でも（a）タイプ、すなわちビューロクラート型エリートや（b）タイプの創業者、独立者が増加してくるのではないかと思われる。

第2節 現代女性エリートの実態

前節では女性エリートの基本的な属性の変化を1977年調査と1992年調査との対比からみてきた。本節ではとくに1992年の質問紙調査に焦点をあて、女性エリートの実態と意識をみていきたい。なお本節では質問紙に回答があったケースのみを扱う。とくに断らないかぎり、文中のデータはいずれも巻末の集計表を参照されたい。

①出身家庭

女性エリートの出身階層を、本人の自己評価によってこたえてもらったところ、中流より上の階層で育ったケースが多いことがわかった。これを親の職業（本人15歳時）ならびに親の学歴という側面からみてみよう。女性エリートの父親は中小企業経営者がもっとも多く、次いで教員をのぞく公務員、教員、専門職の割合が大きい。父親の職業を出身階層の指標としても、やはり女性エリートは社会の上・中流家庭の出身者が多いことがわかる。母親は圧倒的に主婦あるいは無職というケースが多く全体の7割を占め、職業については教員がもっとも多い。女性エリートの出身階層の相対的な高さは、例えば教育機会などを多く与えることのできる経済力や娘を高等教育機関に進学させる進取の気性としてあらわれているといえるだろう。女性エリートの最終学歴を出身階層別にみても上層家庭の出身であるほど高等教育学歴の所有者が多く、出身階層が下がるほど中等教育までで終えている割合が増える。

次に親の学歴をみると、高等教育学歴、中等教育学歴、初等教育学歴の3分類で、父親の場合はそれぞれ46.2%、24.3%、22.3%、また母親はそれぞれ15.9%、53.8%、21.3%となっている。とくに母親の学歴に注目したい。女性エリートは彼女ら自身が同世代の女性に比べてひじょうに高い学歴の持ち主であることはすでに述べたが、彼女らの母親もこの世代にあっては相当高い学歴の持ち主である。母親の学歴の高さもまたその出身階層の高さと比例するものと思われ「戦前期の女性にとって中等教育ないし高等教育修了という学歴は、なによりも『中人以上ノ家ニ嫁』ぐための資格要件として必要であった」（注2）ことをあらわしているといえよう。その学歴のもつ意味はともかく、母親の学歴とその娘である女性エリートの学歴の関係をみると、母親の学歴の高さは父親のそれよりも女性エリートの学歴を規定する力が大きい。例えば表3-2-1にみるように、父親の最終学歴が初等教育学歴の場合に女性エリートが大卒以上の学歴を持つ割合は23.9%、父親が高等教育学歴を持っている場合にはその割合は45.3%と、レンジは21.4であるが、母親の学歴別にみると、母親が初等教育学歴の場合に女性エリート本人が大卒以上の学歴を持つ割合は15.6%、母親が高等教育学歴を持っている場合にはその割合は52.1%と、レンジは36.5である。女性エリートの形成にとって母親の存在は一つの重要なファクターなのだと考えられる。

比較的上層出身で高学歴の親をもった女性エリートは出身家庭においてどのような驍を

表3-2-1 親の学歴と本人の学歴の関係

1992年調査 父学歴別	初 等	中 等	高 等 I	高 等 II	学歴 不明	計 % (N)
初等	0.0	43.3	26.9	23.9	6.0	100(67)
中等	0.0	32.9	32.9	34.2	0.0	100(73)
高等	0.0	22.3	30.2	45.3	2.2	100(139)

1977年調査 母学歴別	初 等	中 等	高 等 I	高 等 II	学歴 不明	計 % (N)
初等	1.6	45.3	31.3	15.6	6.3	100(64)
中等	0.0	30.2	26.5	42.0	1.2	100(162)
高等	0.0	10.4	35.4	52.1	2.1	100(48)

表3-2-2 学歴別にみた初職

1992年調査	公務 ・ 政治	教育 関係	芸術 関係	専門 職	ビジ ネス	その 他	計 % (N)
中等	11.0	11.0	7.7	2.2	39.6	28.6	100(91)
高等 I	5.5	35.2	11.0	8.8	9.9	29.7	100(91)
高等 II	15.7	35.2	13.0	11.1	17.6	7.4	100(108)

うけてきたかを検討してみよう。家庭における子どもの躰は、積極的な関与をつうじて社会生活への適応やキャリア形成の方向を親の望ましいものへ促そうとすると考えられる。そこには出身階層や親の学歴が影響しているだろうか。出身家庭での躰について学校の成績や進学、友人関係、礼儀・規則を守ること、女らしさ、就職、結婚の6つの項目について、「かなり干渉する方だった」から「まったく放任だった」までの4段階で回答してもらった。

その結果をみると、この6項目のなかで女性エリートが強い干渉をうけているのはとくに礼儀・規則を守ることと女らしさの二つで、それぞれ34.6%、18.9%が「かなり干渉する方だった」と回答し、「どちらかといえば干渉する方」をあわせると、それぞれ78.1%、46.5%が干渉的だったとしている。反対に、放任的だったのは就職と友人関係、学校の成績や進学についてで、それぞれ65.2%、65.4%、58.8%（「まったく放任」+「どちらかといえば放任」）が放任の傾向だったと回答している。言い換えればこれらは本人に任されていたということでもあろう。つまり女性エリートは社会生活を営んでいく上での基本的な礼儀や日常習慣については厳格に躰られたが、行動や進路については本人の意向が尊重される環境だったようである。さらに母親の学歴別に躰の態度をみたところ、成績や進学、礼儀・規則、就職については母親が高等教育学歴を持っている場合に干渉的なケースが多かったが、女らしさに関しては母親が初等・中等教育学歴の場合に比べて放任的だった。成績や進学、就職というパフォーマンスへの干渉は娘のキャリア形成への積極的な関与とってよく、伝統的な女性役割の遂行について強く干渉しなかった態度とともに、女性エリートをうみだした家庭環境として特徴的なものと考えられる。それは、やはり高学歴であった母親自身が社会的に少数派であったこととも関連するのではないだろうか。

女性エリートの形成要因としての出身家庭の役割について1977年調査の分析で指摘されていたのは以下のことであった。女性エリートの階層的基盤は父親の職業を指標としてみると中小企業主と専門職に片寄った上層ないし中層であり、親との関係においてはとくに母親との良好な関係が築かれていた。出身家庭における躰に関しては、礼儀・規則、女らしさという表出的躰については厳しく、進路、成績、友人関係という道具的躰については表出的躰に比べれば放任的であった。また父親の職業を指標とする出身階層別にこれらの躰の態度をみると、専門職の家庭ではもっとも放任的であり、反対に父親が大企業の管理・経営者の家庭ではもっとも干渉的であった。すなわち、女性エリートは社会の比較的上層の、本人の意向を尊重する自由な雰囲気の中で育ったケースが多いと考えられ、女性エリート形成に出身家庭が果たしてきた役割には15年間で大きな変化はみられないといえ

よう。残念ながら、親の学歴との関係については前回調査の分析には含まれていないが、母親の学歴の高さ、また母親の影響には注目してよいと思われる。

②女性エリートの結婚と家庭

女性エリートのキャリア形成にあたっては結婚の選択も一つの重要なポイントとなろう。なぜなら、現在においては女性に期待される役割と家庭役割とがほぼ重なっており、仕事と家庭を両立させられるかどうかという問題はやはり女性の問題として考えられているからである。女性エリートの結婚歴はどのようなものだろうか。これをたずねた回答をみると、未婚が15.9%に対して既婚が78.1%（うち離別が8.0%、死別が37.9%）となっている。日本人の結婚行動が皆婚（ほとんどの人が一生に一度は結婚する）だといわれる特徴は、例えば1985年の国勢調査で65歳以上の女性の未婚率が1.7%という数字にもあらわされているが、これに比べると女性エリートの未婚率はかなり高いものといえる。最後の自由記述回答の中では「現状では結婚は不利」「男性と対等に生きていくためには結婚をしない、結婚をしても子どもを生まないという生き方を選択しなければならない現状…」「どうしてもやりたいことがあっても夫となる人がそれを認めぬ場合には結婚しない方がよい」「女性の社会進出には独身であるか或は母親になった場合子供を面倒を見てくれる人、精神的にみてくれる人がある場合でない…」などの指摘もあり、結婚は自分の選んだ人生にとってマイナスの要素として未婚を選んだというケースも含まれるようである。一方で「結婚はすべきです」「女性本来の大切な仕事である家庭の保全…」というように、結婚して家庭をまもることや子どもを産み育てることが女性の本分であるとする意見もあったが、未婚・既婚にかかわらず女性が社会で活動していくうえで結婚やそれに伴う家事や育児の負担はどうしても女性にかかってきがちであり「女性は家庭をもつとよほど夫の理解と協力がないと仕事を続けにくい」という回答がかなりみられた。この結婚歴をさらに職業タイプ別にみると、教授・教育家と芸術家・作家の場合に未婚率が高くそれぞれ3割にのぼっている。また芸術家・作家では離別のケースも多い。これらの職業においては上で述べたように結婚することと仕事とが両立しがたいところが大きいのかもしれない。

既婚の女性エリートには初婚年齢と夫の学歴をたずねた。結婚経験のある254名のうち、20歳までに35名が、21歳から25歳のあいだに123名が、26歳から30歳までに58名が結婚している。これは結婚経験者の85%にあたり、いわゆる「適齢期」に結婚している場合が多い。この数字は学歴別にみると、中等教育学歴の所有者では25歳までに78.1%が結婚している

が、高等教育学歴（専門学校・短大レベル）所有者では46.2%、高等教育学歴（大学以上のレベル）所有者では37.2%と、学歴段階が上がるにつれ婚期が遅まるのがわかる。これは学校修了時の年齢と関連しているとみてよいであろう。さらに夫の学歴については非該当をのぞき61.0%が高等教育学歴の所有者で、中等教育学歴と初等教育学歴の場合はそれぞれ11.0%、1.5%となっている。職業タイプ別では、政治家・官僚と専門職エリート、教授・教育家の夫は高等教育学歴の所有者が比較的多く、彼女ら自身の高学歴と比例しているといえる。女性エリート全体でその学歴別に夫の学歴をみると、妻-夫のペアでは高等-高等、中等-高等、中等-中等の組み合わせが9割以上で、妻と夫の学歴は同レベルか、夫のほうが高いレベルで「釣り合いのとれた」ものとなっている。

結婚した場合の夫との関係を既婚者に対して、彼女らが仕事や社会活動をしていくことについて夫の態度はどうだったかというかたちでたずねた。非該当（未婚）をのぞくと、4割以上のケースが「全面的に賛成、認めてくれた」という回答であり、条件付きの賛成も含めると半数以上は「理解ある」夫である。「全面的に反対」というケースは少なく、既婚女性エリートの夫は概ね妻の仕事や活動に対して肯定的であったといえよう。

さらに家事・育児についても具体的にたずねた。まず家事は未婚・既婚をとわず生活をしていく上で必要なことである。回答をみると、女性エリートは「主に自分がしているが手伝ってくれる人がいる」というケースが最も多く半数を占め、その場合、お手伝いさんを頼んだとする場合が多く、母や夫も含めた親族等が手伝っていた場合と半々になっている。次いで「主に自分一人がやっている」「自分はほとんどせず主に他人がやっている」と続く。この後者の場合もその人は誰かを問うと、お手伝いさんと親族等とに二分された。

「家族で分担している」という回答もみられるがごく少数である。つまり女性エリートは主に自分が家事をこなしていたが、その負担の軽減をはかるためにお手伝いさんをたのむか、親族の助けをかりることが多い。こうした選択は彼女らが経済的にも恵まれていたため可能だったと思われる。ちなみに未婚・既婚別では、未婚及び離別のケースでは「主に自分一人」が、その他の既婚のケースでは「主に自分だが手伝ってくれる人がいる」がそれぞれ大きな割合を占める。どくに既婚女性エリートは、家庭を維持するための家事の負担を他人の援助を得てこなしているケースが7～8割と多いのが目立つ。

育児については、子どもがいると回答があった場合にたずねている。子どもがいるという約7割のケースについて子どもの人数をたずねると、1人から3人という場合が大半だったが、なかには5人、6人という回答者もあった。育児にあたって仕事との両立が難し

いのはとくに小学校就学以前の段階だと考えられるので、その時期に仕事をどうしていたかをたずねた。その結果は「仕事を続けていた」場合がほとんどで、子育て中に仕事を中断したケースは少ない。また、仕事を始めた時期などの関係でその当時は仕事をしていなかった、あるいは養子の場合など小学校就学以前の子どもを育てた経験はないというケースも数例みられた。仕事を継続していた場合には子どもの保育をどうしていたかを問うと「お手伝いさん・ベビーシッターを頼んだ」がもっとも多く、次いで保育所とベビーシッターなどの二重保育が多い。他には母の援助を受けたり、自分が時間の都合をつけて面倒をみたりと、女性エリートは複数の保育者を確保しながら育児と仕事との両立をはかろうとしていた様子がわかる。この家事・育児の回答をみると、既婚女性エリートの場合、夫は理解ある人であったが、具体的な家事・育児の負担は妻である女性エリートの肩にかかっており、女性エリート自身も「仕事との両立はよほど恵まれた人でないと…」としながら頑張ってきたことがうかがえるのである。

結婚と家庭に関して、女性エリートの未婚率は1977年調査でも16.6%とかなり高いものであった。その初婚年齢は24歳までのいわゆる「適齢期」に49%が含まれていたのが、1992年調査では57%に増加した。夫の学歴はひじょうに高く、1977年調査においても夫婦とも高学歴であることが確認されている。その夫の、妻の仕事に対する態度はほとんどが肯定的であった。家事については、女性エリートの半数以上が「フルタイムのお手伝いさんがいた」と回答しており、未婚・既婚の別では「自分一人ですしていた」ケースが未婚者の場合もっとも多く、既婚者では7割のケースでフルタイムあるいはパートタイムの「お手伝いさんがいた」。これらをまとめていけば、女性エリートの結婚は未婚率では変化がみられないが、初婚年齢では女性一般の場合と大差がなくなってきたといえる。既婚の場合は「理解ある」配偶者を得ており、学歴の面でも女性エリートは「釣り合い」のとれた結婚をしている点は大きな変化がない。家事をどうしていたかをみると「お手伝いさん」を頼んでいたというケースが減少し、母や夫など親族の援助を求めたという割合が増えている。家事遂行の面では女性エリートのやや特殊ともいえる選択が、より「ふつうの」ものになってきたといえるのではないだろうか。

③学歴と職業

女性エリートの職業タイプ別に最終学歴をみると、もっとも学歴が高いのは教授・教育家と専門職エリートで、それぞれ8割以上の者が高等教育学歴を持つ。とくに教授・教育

家で留学者の比率が高いのは、まだ女性に大学進学が道が開かれていなかった頃に海外で学問を続けたというケースが多いことであらわれである。大学院進学者についても、その後研究職としてキャリアを築いたり、高度な専門的知識を得て後の職業に結びついている。これらの職業は「学位」や「資格」など、その判定を受ければ性別が不利な要因になることを軽減できると考えることもできる。一方、相対的に学歴が低いのはビジネス・エリートと芸術家・作家であるが、それでも旧制の高等女学校を中心とする中等教育学歴の所有者が多くを占める。また芸術家・作家の場合はフォーマルな学校教育を受けずに家庭教育を施されたケースや幼い頃から弟子入りなどで学校教育を経由していないケースがみられる。政治家・官僚の場合は東大および国公立大の出身者が多く、これはとくに官僚についてあてはまる。こうした職業と学歴の関係は初職選択の際によくあらわれている。表3-2-2は初めて就いた職業について学歴別にみたものである。公務員・政治家、専門職はいずれも大学以上のレベルの高等教育学歴所有者の比率が高く半数を越えている。一方でビジネス・エリートでは中等教育学歴所有者がもっとも多く、表にみるように「家族型」と「高学歴年功型」とに二分されてきていると考えられる。この中間に位置するのが教員と芸術家であり、前者については旧制世代からの層が比較的厚いため専門学校レベルと大学以上のレベルとが分けあい、後者については専門的な教育を受けた層とフォーマルな学校教育によらずに登場した層とに分かたれているのであろう。これから現職と学歴の関係に目を転じると、政治家・官僚、教授・教育家、専門職の各エリートのセレクションに高等教育学歴—とくに大学以上のレベル—が大きく関与していることが推察されるのである。

高等教育進学者について専攻分野もみておくと、非該当をのぞいてもっとも多い専攻分野は文学で約3割を占める。次いで法・政、家政、芸術がそれぞれ1割ずつを占める。これも職業タイプごとに特徴があり、文学専攻が最も多いのは教授・教育家、専門職エリートはその職業を反映して法・政、医歯薬が圧倒的に多く、芸術家・作家は文学とともに芸術学の専攻が多い。全体に目立つのは理・工系分野を専攻する割合がひじょうに低いことで、これはおそらくこの分野と結びついた職業領域が女性にはほとんど開かれていなかったこと、そのことと関連して女性が理・工系分野を学ぶ場が閉ざされていたことなどがあらわれているのだろう。

④現在の地位への道

女性エリートに現在の地位を築く上で重要だったのは何かとたずねた回答をみると、も

っとも重要だと選択された項目は「たゆまない努力」で65.1%が「非常に重要である」としており、「まあ重要である」をあわせるとほとんどの女性エリートが努力の重要性を認めている。次いであげられているのが「めぐまれた人間関係」「社会のために生きようとする使命感」「知的能力」でそれぞれ79.1%、72.8%、80.7%（「非常に重要」+「まあ重要」）が重要だとこたえている。半数以上の者が重要性を認める項目はほかに「ものごとくにクヨクヨしない性格」「親の教えや躰」「運の強さ」で、それぞれ重要だとする割合は69.1%、63.5%、65.1%となっている。反対に「あまり重要でない」「全く重要でない」という回答が多数を占めるのは「巨大組織の力」「配偶者の社会的地位や財産」「有利な出身階層や世襲財産」などである。

これらの回答をみると、女性エリートは現在の地位に至ったのは自らの努力や能力による着実な前進と人間関係や運のよさにめぐまれたことによると考えていることがわかる。女性エリートは個人的要因を重視しており、そのことは例えば有利な学歴よりも知的能力のほうを重視しているところにもあらわれている。別の言葉でいえば、自分の実力が重要なのであって、外面的な権威はその次だということであろう。

職業タイプによってこれらの回答にはいくつかの特徴的な違いがみられる。まずビジネス・エリートに目を向けると、彼女らは現在の地位を得るのに重要なこととして努力や人間関係のほかに有利な出身階層や配偶者をあげる割合が比較的高い。先にもビジネス・エリートには家業や夫業を継承するかたちでビジネス界に参入したケースが含まれることを指摘したように、女性ビジネス・エリートの一部は夫の早逝がなければ現在の地位にはなかったかもしれない。政治家・官僚では社会のためという使命感を非常に重要とする者が大半で、とくに議員など政治家に多い。政治家や官僚は政策決定に携わることで社会に対して大きな影響力を持ち、それだけ責任感や使命感を強く自覚してこの職業にのぞんでいるのであろう。巨大組織の力を重要とする割合も他の職業に比べて多く、これは政治家・官僚らにとって政党や省庁などの組織とのつながりが自分たちの地位と関わりが深いためだと考えられる。またクヨクヨしない性格の重要性が比較的多くあげられるのは、この職業領域が従来ほとんど男性に占められてきたところであり、細かいことを気にしていたら男性に伍してやっていくことなどできないという気持ちも含まれているのではないだろうか。専門職エリートの場合は父母の期待や援助をあげる割合が高い。彼女らの中には医師を志したのは親もまたその職業についていたからというように、親も専門職である場合が比較的多い。また上級の学校へ進学するにあたり、親の援助によってそれが可能になった

ケースもみられる。専門職エリートの学歴が高いことは先にふれたが、そこには親の協力や期待もまた強く反映されているのであろう。芸術家・作家の場合も親の期待や援助そして親の教えや躰が重要性の高い項目としてあげられている。子どもの芸術的な才能はまず親が認める場合が多いと考えられ、さらにその才能を伸ばすために親が励ましを与えるかどうか、才能を育てる教育を受けられるかどうかも親との関わりが深いと思われる。彼女らが芸術家として作家として成功することができたのは、もちろん個人の努力や才能もあるだろうが、それを育んだ親の存在もまた大きいものであろう。こういう事情がこの回答にはあらわれているのだと考えられる。

別にたずねた現在の職業や地位への道を進もうと決めた時期についてみると、大学時代・青年期という20代頃に進路を決めたケースが全体の3割余りを占め、一つの重要な時期となっているが、30代をすぎ、40代、50代での決意も少なくない。これらの回答は男性に比べて女性のキャリア・パターンが多様であることを物語っている。職業タイプ別に回答をみていくと、30代以降で現在の職業への道を決めたのはビジネス・エリートと政治家・官僚に多く、小中学生の頃から決めていたというケースは教授・教育家や芸術家・作家に多い。30代以降でというのは、政治家・官僚の場合は選挙への出馬を決めたり、昇進・昇格の時期であり、ビジネス・エリートの場合は夫の引退や死去にともない仕事につくことになった時期あるいは中高年になってからの就業決意などのケースなのだと考えられる。一方子どもの頃から現在の職業をめざしていたという芸術家や教育家の場合は、幼い頃から勉強が好きであったり、芸術的才能を認められて早くからその道に入ったのであろう。青年期に決めた場合は専門職エリートや教授・教育家に多くみられる。これは、専門的な知識や技能を身につけていく高等教育段階でその後の進路をはっきり決めていくケースが多いのだと考えられる。

子どもの頃の「将来の夢」をたずねると、女性エリートは現在必ずしもその職業についているわけではないが「～のような人になりたい」という夢をもっていた様子がわかる。教授・教育家や芸術家では子どもの頃に現在の職業への道を進むことを決めた割合が大きかったことが、この将来の夢にもあらわれている。女性エリート全体で「学校の先生」になりたいと思っていたケースがもっとも多いのは、女性エリートの子どもの時代に女性がつくことのできる職業としてまず思い浮かぶものだったという事情もあろう。実際に女性エリートは初職として教職に携わったケースも多いのである。彼女らは具体的に「キュリー夫人に憧れていた」「ソーニャ・コバレフスカヤのような学者」「野口英世のような人」

と実在した人物を思い描いてもいた。「とにかく勉強が好きでしたので…」とそれを職業にしたいという気持ちを持っていたケースもある。「学校の先生」が女性にとって実現可能性の高い職業だったというだけでなく、女性エリートはそれを夢で終わらせずに実現している。芸術家・作家の場合は「宮本百合子のような人、小説家」「画家」「当時の邦楽界の名手を目標としていた」など芸術の分野で活躍することを夢にしていたケースが多い。彼女らのうち芸術の方面へ進んだ者もまた多いのである。女性エリートにとって「子どもの頃の将来の夢」は、キャリア形成の導き手のような存在ともいえよう。他の回答をいくつかひろってみると「仕事をする女になりたいと思った」「自立したいと思っていた」「戦争中に子供時代を過ごしたので、生きている限り人の役に立つことをしたいと思った」「両親を早く亡くしたために、上手な立派な医者になりたいかった」というように、彼女らの現在の活躍にむすびつく内容や使命感にあふれた回答が散見できる。これらは地位形成にあたって重要だとされていた項目ともオーバーラップするものである。「よい奥さん、よいお母さんになることしか思っていなかった」「平和な家庭の主婦」「良妻賢母」などの回答もあったが、とくにこれは女学校などの教えがそうだったという場合や夫の没後に青天の霹靂で会社経営に携わることになったビジネス・エリートの場合が比較的多かった。

女性エリートの子どもの頃の夢には当時の教育状況や戦争の影響なども小さくはないが、彼女らの志向は家庭を守ることよりは、はるかに職業や社会へと向かっていた。彼女らはそれらの夢に向かってたゆまない努力を重ね、状況的にも恵まれて現在の職業あるいは地位へと歩んできたのである。

⑤女性として障害を感じたこと

現在トップの地位を占める女性エリートたちだが、職業や社会活動の上で女性として障害を感じることはあつたらうか。あるいはとくに障害を感じなかったであらうか。女性エリート形成の阻害要因になると考えられる7項目について彼女らがどの程度障害だと感じていたかをたずねた。これをみると女性エリートたちはむしろ「障害だと感じなかった」という割合が大きい。もちろん「障害だと感じた」ケースも少なくはないが、障害だと感じなかったというケースの多さからは、女性エリートは恵まれた存在であるということもできるかもしれない。

女性エリートが「障害だと感じた」割合が高かったのは「職場がひらかれていないこと」

と「家事や育児の負担」で、それぞれ34.6%、37.8%（「非常に障害だ」＋「かなり障害だ」）がそう答えている。職場については「その他」の回答で具体的にふれられている中でも「男性社会である」「許容された範囲内のみ進出が許されている」などの指摘があり、「男性優位」あるいは「男性中心」の考え方が支配的であることや「男性の嫉妬」が障害だという回答もあった。

職業タイプ別にみると、職場について障害を感じているのは政治家・官僚と専門職エリートで多い。これらの領域は多くが現在も男性が圧倒的多数を占めており、彼女らにとって女性の少なさが大きな障害と感じられた一因であろう。家事・育児の負担については「女性は家事・育児に専念するほうがよい」という「考え方」よりも実際の「負担」が大きいのだと思われる。これも障害だと感じている割合が高いのは政治家・官僚で、彼女らの進出領域が男性中心であるということとも深く関わっているようである。家事・育児にかんして政治家・官僚と対照的なのがビジネス・エリートである。これには彼女らのキャリア・ルートの相違も影響していると思われる。ビジネス・エリートの中に、育児のたいへんな時期はまだ仕事を始める前であったり、被雇用者としてではなく会社役員として経営者に連なっているケースもあり、家事・育児をこなすことと仕事とを無理なく両立させることのできたケースが相対的に多いのだと考えられる。逆にビジネス・エリートが障害だと考えるのは「女性が甘やかされて仕事に厳しさがもてないこと」である。これに関しては女性だからと周囲が難しいことは避けたり、女性本人が甘えて責任を持とうとしないといったことが「その他」の回答であげられている。男性中心の職場は女性に対して閉ざされていたり、開かれていても女性を特別扱いすることでむしろスポイルするという面を持っているといえよう。

次に学歴別にこの回答をみてみよう。とくに大学以上レベルの高等教育学歴をもつ女性エリートに注目してみたい。彼女らの中には戦後初めて東京大学へ入学した女性や大学院へ進学した女性などが含まれ、学歴レベルでは男性と肩を並べる、あるいは男性を凌駕する存在である。この高学歴女性エリートの回答は他の学歴段階（専門学校・短大レベルの高等教育学歴や中等教育学歴）と比べていくつか特徴がある。まず「教育を受ける機会が不利だったこと」、「女性が甘やかされて仕事に厳しさがもてないこと」では、3割が「全く障害だと感じなかった」としており、「あまり障害だと感じなかった」をあわせると6割以上が障害だと感じなかったと答えている。彼女らは苦労もあったかもしれないが、結果的に進学を果たし、男性にまけず進路をひらき、「初の女性〇〇」といった職場のパイオ

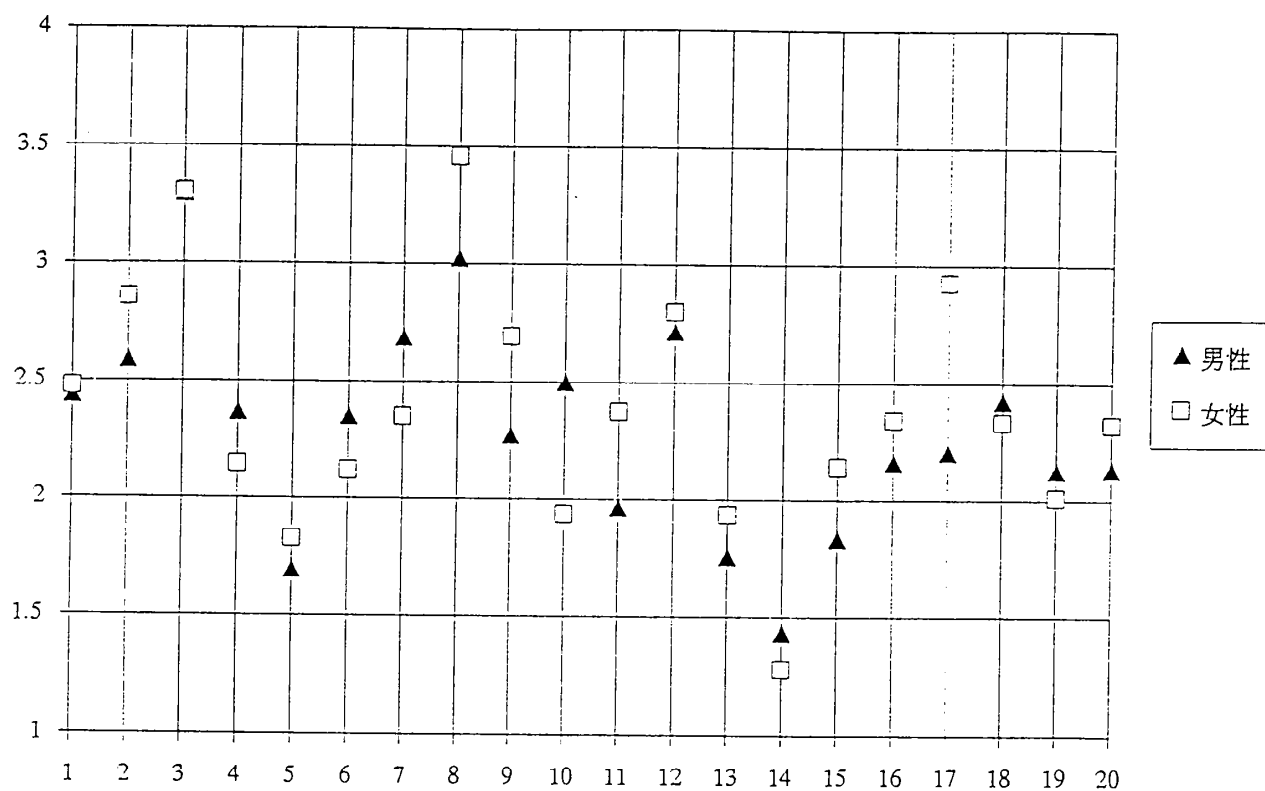
ニア的存在であったケースも多い。仕事の面では甘やかされるどころか男性並みの厳しさが求められたのではないだろうか。その彼女らは「職場がひらかれていないこと」「『女らしく』という雰囲気」については障害を感じたという割合が増える。男性に劣らぬ学歴をそなえた女性でもいざ就職の段階では、男性と同じ条件で採用されないケースが今現在も少なくない。まして平均年齢60歳をこえる女性エリートたちが高等教育の修了者として職場に入ろうとした頃の厳しさは想像に難くない。「その他」の回答では具体的に「ケミカルな男社会ということ」、「企業が女性については高卒しか採用しなかった、短大卒・大学卒は採用の対象とされなかったこと」、「男性支配社会」などと女性に対する職場の閉鎖性が障害としてあげられている。また男性と等しいかそれ以上の能力を求められる一方で、女らしくあることを要求されることも多かったのではないだろうか。それは職場の雰囲気を和やかにすることであったり、お茶くみや心配りであったかもしれない。仕事に打ち込もうとするときに「女らしく」と求められることは、ダブルスタンダードとして、彼女らにとっては障害だと感じられることが多かったのだと思われる。例えば「男子と同じに働いて、男として生きることが当分は必要である。…私は”男”を生きた…」という自由記述には、“女”を生きることによってはこの男性中心社会でやっていけないことが示されていよう。このことは「『女性の幸せは結婚にある』という考え方」「『女性は家事・育児に専念する方がよい』という考え方」が他のグループより高い割合で障害だと感じられているところにも見いだせよう。女性の場合、進学によって「婚期が遅れる」と言われる場合がある。大学出で仕事に邁進する女性は、それだけでこういった考え方にはあてはまらない存在である。言うなればこのような考え方は働く女性の意欲に水をさすものと捉えられよう。この高学歴グループでは同時にこうした考え方を全く障害だと感じなかった割合も高く、職場の雰囲気や人間関係によって、あるいは彼女ら自身の実績がそれらをしりぞけたといえるかもしれない。別にたずねた一般的な価値意識にかんしてもこのグループの回答には特徴的な項目が見いだせる。それらを短くまとめれば、彼女らは男性には負けないという強い自負を持ち、実力で評価されることを求めている。女性に対する固定的な考え方を否定しながら、依然職場での差別がなくなっていないことを実感してきている。彼女らの回答から、男性に劣ることはないと身をもって証明してきたはずの高学歴女性が、それにもかかわらず女性であるという理由で受けてきた差別や不合理な慣習に疑問を感じていることがわかる。これらの回答からもうかがえるように、女性エリートは勉学や仕事で努力を重ね、ある人は結婚を選ばず、また子どもを持った場合には育児や家事の

負担を代替者を求めて軽減するなどの選択をしている。そうした女性エリートそれぞれの人生航路の航海術が、全体としてみれば、むしろ障害だと感じることは少なかったという回答にあらわれているのだと思われる。

第3節 女性エリートの意識

エリートの意識を探るため、いくつかの意見に対する賛否をたずねた。質問項目は第2章でも扱った男性エリートに対するものと共通である。まず各質問項目について基礎的データをみておきたい。各項目について「強く賛成」または「強く反対」と態度を明確にしている割合をみると、「職場での採用や昇進は学歴に基づいて行われるべきである」と「日本は軍事力を増強すべきである」の2項目で「強く反対」がそれぞれ40.2%、51.2%、「地球環境問題はこれからますます深刻になり、人類の存亡にかかわる」で「強く賛成」が63.5%（さらに「強く反対」は0.0%）であった。これらの問題について女性エリートの関心が高いことをあらわしているのだと考えられる。これに対して他の項目では「やや賛成」または「やや反対」といくぶんゆるやかな態度があらわされている。男女を比べて目につくのが女性エリートの無回答率が高いことである。女性は他の設問においても全体に無回答率が高くその理由はこれと断定しがたい。だが、本設問の20項目の中で無回答率の高さをみると、男女とも「福祉政策の拡充が財政赤字を引き起こしている」と「母性保護措置は女性の就業機会を制限しているから全廃すべきである」の2項目が他より目立ち、これらの問題が福祉行政、労働行政における争点でもあることを考え合わせると、こうした無回答はどちらに賛成ともいいがたいという態度の保留なのであろう。結果をわかりやすくするために、回答項目の「強く賛成」に1点、「やや賛成」に2点、「やや反対」に3点、「強く反対」に4点を与えて、各質問項目の平均点を算出した。つまり点数の低いほうがそれぞれの意見に対して賛成の傾向が強いことをあらわしている。これを男女別に示したのが図3-3-1である。これをみると、男女で意見の隔たりがもっとも大きいのは「仕事上ものごとを考えたり人をまとめたりする能力は、生まれつき男性のほうがすぐれている」で、男性の方が賛成寄り、女性は反対寄りにあった。次いで「女性の社会進出をもっと増やすために立法措置が必要である」は女性が賛成寄り、男性が反対寄りで、以下意見の隔たりの大きい方から「日本は軍事力を増強すべきである」「日本国憲法は時代にあわなくなったので改憲すべきである」「子どもに手がかからなくなるまでは母親が育児

図3-3-1 意識における男女別平均点の分布



に専念すべきである」は、いずれも女性の方が否定的であった。中間よりどちらかの側で男女とも位置している場合に女性エリートと男性エリートのあいだでコンセンサスがあるものとみなすと、これら男女で隔たりの大きかった項目のうち「男性のほうがすぐれている」と「改憲すべきである」は男女でコンセンサスがなかった。他に「差別や貧困の原因は主に社会制度にある」も同様の項目であった。逆に男女でほぼ意見の一致している項目は「職場での採用や昇進は学歴にもとづいて行われるべきである」で、男女とも反対の側に位置している。順に男女で意見の隔たりが小さい方から「男女雇用機会均等法の成立により雇用面での女性差別はほぼ解決された」「母性保護措置は女性の就業機会を制限しているから全廃すべきである」「日本は外国人労働者を原則として受け入れるべきである」「貿易摩擦に関するアメリカの日本批判の多くは不当である」となっている。女性エリートと男性エリートは、現在の日本のシステムに関して、改革の必要を感じているもののみならずうまくいっているという評価を与えているといえるだろう。この結果には、男女ともビジネス・エリートが構成比で最大であることが関連していると考えられる。

次いでこれらの質問項目を用いて因子分析を行った。因子の抽出は主因子法を用い、軸の回転はバリマックス回転で行った。固有値1.0基準では6因子が抽出されたが、その結果を検討した結果、抽出する因子数を5に指定した。最終解は表3-3-1のとおりである。第1軸はこれを構成する10項目の内容から「新保守主義-伝統的性役割観」あらわすものと考えることができよう。第2軸は「能力主義」的態度をあらわすもの、第3軸は「実力主義」的態度をあらわすもの、第4軸は「現状改革」的な態度をあらわすもの、第5軸は「日本経済の現状肯定」的態度をあらわすものと考えられる。

因子分析をほどこした結果から、女性エリートの価値意識の特徴をまとめてみたい。女性エリートの場合、保守的志向をあらわす項目に伝統的性役割観をあらわす項目が加わって一つの次元を構成している。第2章でみたように男性の場合は「性別役割観」をあらわす項目が分かれて第5次元にあらわれたのと対照的に、女性エリートにとって性別特性や性別役割にかんする意識は明らかに重要度が高い。続いて出現する能力主義、実力主義の態度も、女性エリートにとって関心の高い項目であるといえる。これは能力や実力による評価が女性のエリートレベルへの参画に大きくあずかっているであろうことを示しているのだと思われる。いずれの軸子もこれまでみてきた形成要因や諸属性の分析と符合するもので、女性エリートの価値意識を特徴づけているといえよう。

数の上でも、影響力の上でも支配的な男性エリートに対して、女性エリートの意識面で

表3-3-1 女性エリートの意識の因子マトリックス (主因子法、バリマックス回転後)

	1	2	3	4	5
国を愛する若者が減ったのは嘆かわしいことである	0.716	0.277	-0.219	0.123	0.062
天皇制は日本の政治的・文化的伝統として尊重すべきである	0.657	0.176	-0.208	0.043	0.294
日本国憲法は時代にあわなくなったので改憲すべきである	0.657	0.032	0.023	-0.170	0.057
社会主義体制の崩壊は、資本主義の正当性を証明した	0.645	0.161	-0.188	-0.144	0.078
福祉政策の拡充が財政赤字を引き起こしている	0.614	0.253	0.061	-0.226	0.116
子どもに手がかからなくなるまでは母親が育児に専念すべきである	0.603	0.163	-0.107	0.186	0.157
仕事上ものごとを考えたり人をまとめたりする能力は、生まれつき男性のほうがすぐれている	0.587	0.075	0.009	0.069	0.133
日本は軍事力を増強すべきである	0.548	0.038	-0.051	-0.170	0.024
母性保護措置は女性の就業機会を制限しているから全廃すべきである	0.470	0.301	0.170	-0.233	-0.148
女性の社会進出をもっと増やすために立法措置が必要である	-0.317	-0.110	0.146	0.152	-0.221
人間の能力には個人差があるから全く平等な教育などありえない	0.301	0.777	-0.093	-0.005	0.010
生まれつきの能力の差は努力だけではいかんともしがたい	0.172	0.681	-0.114	-0.015	0.019
日本は外国人労働者を原則として受け入れるべきである	-0.129	-0.141	0.701	0.110	-0.035
職場での採用や昇進は学歴に基づいておこなわれるべきである	0.136	0.116	-0.138	-0.087	0.007
地球環境問題はこれからますます深刻になり、人類の存亡にかかわる	-0.287	0.026	0.056	0.520	-0.037
差別や貧困の原因は主に社会制度にある	-0.359	-0.062	0.266	0.410	-0.290
現在の大学間の格差をなくすべきである	-0.025	-0.217	0.203	0.345	-0.129
男女雇用機会均等法の成立により雇用面で女性差別は解決された	0.304	0.079	0.272	0.042	0.466
日本の経済力は多少の波はあっても今後も揺るがないだろう	0.069	0.062	-0.039	-0.069	0.440
貿易摩擦に関するアメリカの日本批判の多くは不当である	-0.010	0.083	0.082	0.142	-0.183

表3-3-2 エリート・タイプ別因子得点

	第 1 軸		第 2 軸		第 3 軸		第 4 軸		第 5 軸		N
	MEAN	S. D.	MEAN	S. D.	MEAN	S. D.	MEAN	S. D.	MEAN	S. D.	
政治家・官僚	0.898	0.895	0.810	1.082	0.075	0.942	-0.137	0.860	0.366	0.810	22
教授・教育家	0.276	0.811	-0.478	0.828	0.026	1.093	0.046	0.915	0.025	1.080	30
芸術家・作家	0.367	0.905	-0.227	1.019	-0.332	1.018	-0.380	1.124	0.238	1.016	23
専門職エリート	0.067	1.028	-0.122	0.749	0.415	0.318	0.128	1.247	0.342	1.098	15
ビジネスエリート	-0.426	0.904	-0.003	0.976	-0.036	0.927	0.700	0.988	-0.181	0.924	85
その他	-0.180	0.899	0.550	0.636	0.295	0.635	0.359	0.830	-0.574	1.345	7

表3-3-3 学歴タイプ別因子得点

	第 1 軸		第 2 軸		第 3 軸		第 4 軸		第 5 軸		N
	MEAN	S. D.	MEAN	S. D.	MEAN	S. D.	MEAN	S. D.	MEAN	S. D.	
初等教育学歴	-0.786	0.000	0.219	0.000	0.857	0.000	-0.395	0.000	-0.606	0.000	1
中等教育学歴	-0.258	1.031	0.323	1.029	-0.050	0.961	-0.204	0.854	-0.163	0.973	47
専門学校・短大	-0.320	0.862	-0.156	0.981	-0.001	1.063	0.019	0.887	-0.183	1.108	46
大学・大学院	0.371	0.928	-0.102	0.952	0.046	0.982	0.184	1.056	0.214	0.927	83
その他	-0.627	1.250	0.057	1.388	-0.460	1.273	-1.233	0.425	-0.222	1.068	5

の差異を浮かび上がらせているのは性別役割や性別特性にかんする態度であることがわかる。とくに単純集計でも明らかだったように男女差の大きかった5項目のうち、3項目までがこうした意見を表していることから、女性エリートは程度の差はあれ何らかのレベルで伝統的な女性役割観からははずれた考え方を持っているともいえよう。彼女らは全体として、男性の方がすぐれているという考え方を否定し、もっと女性の社会進出を増やすために立法措置も必要であると考え。そして母親が育児に専念すべきとの考え方には反対する。彼女らは女性の社会進出を是とする傾向が強く、現在の制度に対して否定的態度をあわせもっている。そこには、女性エリートが今もマイノリティであること、その現状を変えていくためにより積極的な方策が必要と考えていることがあらわれている。裏返せば、男性エリートは現在の制度からメリットを受けることが多く、それを維持することを望んでいることをあらわして、「男性優位の現状」がこの回答にも反映されているといえよう。

こうした意識はさらに職業タイプ別に特徴を示していた。表3-3-2は女性エリートの職業タイプ別に因子得点の平均点を示したものであるまず第1軸についてみてみよう。各グループの相対的な位置をみると、ビジネス・エリートがもっとも保守的な位置を占め、それとは反対側に政治家・官僚グループが位置し、それより内側に他の3グループが位置していた。ビジネス・エリートの相対的に保守的かつ伝統的性別役割分業に賛成的な傾向は、彼女らの中で比較的大きな一群を形成している「家族型」（とくに夫業継承型）の反映が原因の一つと思われる。このタイプの典型は良妻賢母として家庭を保持することが女性の本来の役割であるという考え方をもち、やむなく経営を引き継ぐことになったが、それは彼女らの積極的な意志ではなかったとする。1977年調査においても女性ビジネス・エリートの回答傾向が男性のそれにもっとも近いことが指摘されており、男性との関係においては対抗するよりもむしろ庇護を受けてきた存在として、価値意識の面でこのような結果となっているのかもしれない。一方、政治家・官僚は、とくに政治家においては社会党、共産党などの革新的な党派で女性議員が相対的に多数を占めていること、また官僚においては男性の中に紅一点で参入していったパイオニア的存在の女性がほとんどであることがこうした結果を説明するのではないだろうか。第2軸は能力主義をあらわすもので、因子得点の平均点をみると政治家・官僚グループの回答が大きく反対の側へ片寄り特徴的である。彼女らは能力の個人差は一定の範囲で認めつつ、そのことが「全く平等な教育などありえない」あるいは「努力ではいかんともしがたい」に結びつくところに対して否定的なのだと思われる。他のグループは政治家・官僚に比べて賛成的な一群を形成し、賛成の側

から教授・教育家、芸術家・作家、専門職エリート、ビジネス・エリートとなっている。こうした結果は「能力の個人差」に重きを置いた解釈だと思われ、形式的な平等よりは能力による評価がなされるべきだとして賛成の回答が与えられているのだと考えられる。第3軸は、実力主義に関する因子で、芸術家が賛成、専門職エリートが反対の側にあり、他のグループは中間的な位置にある。この反対方向は、形式主義と名づけてもよいであろう。実力による評価が芸術家にとっては大きな意味を持ち、形式にとらわれないことが重要だということをこの結果は示していると思われる。第4軸は、現状を改革する志向をあらわし、ここでは芸術家と政治家・官僚グループにおいて他に比べて改革の志向が強く示されている。第5軸の日本経済の現状肯定はビジネス・エリートがもっとも強く、政治家・官僚がそれと反対の位置を占めた。だが、第3軸、第4軸、第5軸では、先の2つの因子ほど職業別の傾向は顕著ではない。

学歴別でも意識に差がみられた。表3-3-3に示したとおり、こちらにも大きな差がみられるのは第1軸、および第2軸である。第1軸の因子得点の平均を学歴別にみると、専門学校・短大レベルの高等教育学歴をもつグループと中等教育学歴をもつグループが保守的な位置にあり、大学以上の高等教育学歴をもつグループはその反対側に位置していた。高等教育学歴所有者の中でも、専門学校・短大レベルと大学以上のレベルとで意識の隔たりが大きいのは、この年代の女性において大学あるいは大学院まで進学することは「女性の本分」とされた領域を大きく越えるものであったこと、言い換えれば意識の面では革新的といえるものを相対的に強く持っていることを示していると思われる。実際に大学へ進学した女性はその事実によっても、伝統的ないし保守的な意識を否定していったのではないだろうか。「大学に行くことと、…既定の役割定義の枠を越えた行動に出る可能性とが、密接に関連している」（注3）ということがいえるかもしれない。このような大学以上のレベルの学歴を有する女性は職業においては教授・教育家、専門職、政治家・官僚を代表として、女性エリートの価値意識を反映させてゆく存在となるだろう。第2軸に関しては、能力主義に賛成の側に高等教育学歴の所有者が、反対の側に中等教育学歴所有者が位置していた。あまり大きな差ではないが、能力主義への賛意は高学歴女性にとって、性別ではなく能力という点での評価を求める意識と考えられる。

以上検討してきた結果、女性エリートの意識タイプは職業によって規定される部分がかなり大きく、そこには間接的に学歴が介在しているように思われる。つまり女性エリートはその従事する職業をつうじて各々独自の影響力を発揮していると考えられよう。

エリートレベルにおける女性の量的な劣位性や他の様々な指標にみられる男性と比べた場合の女性の「遅れ」、さらに女性および女性の携わることどもへの否定的態度などは、女性を男性の後を追いかける存在とみなし、男性の在り方が目標であるとする傾向を強めてきた。男性のレベルに到達することが女性が男性と平等であるという目安になってきたともいえるだろう。それは一面の真実ではあるかもしれない。だが、これまで分析してきた結果からは、女性エリートが男性エリート化しつつあるというよりは一もちろん男性エリートの諸属性との差異がみられなくなってきた部分もあるのだが一彼女らが職業構成とキャリア・パターンの点で多様さをもち、男性エリートのどちらかといえば一様な輩出パターンとは好対照をなしていること、価値意識にも女性として、男性において支配的な価値観に収束することのない傾向がみてとれることを強調する方が妥当なように思われる。集団としてみた女性エリートは、ことばを与えるなら、男女共同参画型社会へ向けての先導的役割をそれぞれレベルは異なるけれども果たしているといえるのではないだろうか。その中でも政治家および官僚が女性エリート集団内では先導的な存在であると思われる。こうした女性エリートは量的には漸増傾向を示し、また大学へ進学する女性が戦後飛躍的に増大していることもあわせて、これから出現する女性エリートは、男性エリートの価値観に対立的な特徴を明らかにしながらさらに男女共同参画を推進していくであろう。またエリートレベルで登場する彼女らは、役割モデルとしての機能も果たし、女性エリートの予備軍である女性たちに希望と励ましを与えるであろう。

<注>

(注1) 1977年実施の調査においては、女性エリートは『第28版 人事興信録』からの全数抽出で516名とされていたが、改めて調べたところ、女性は全数で691名が抽出された。したがって、本章では1977年調査としてこの691名について再集計を行っている。

(注2) 天野正子、1987「婚姻における女性の学歴と出身階層—戦前期日本の場合—」
日本教育社会学会編『教育社会学研究』第42集、東洋館出版社、71頁。

(注3) ファー、スーザン J. (賀谷恵美子訳) 1989『日本の女性活動家』勁草書房、90頁。
(冠野 文)

終章 展望と課題

本報告書は『人事興信録』（人事興信所刊）に掲載されたひとびとを操作的にエリートと規定し、彼ら、彼女らを対象とした質問紙調査によって、わが国のエリートの社会的構成や社会的・教育的形成を実証的に明らかにしようとする一連の研究の最新の調査の結果からなる。

特に中心となっているのは、わが国の1978年度のエリートとその後14年を経た1992年度のエリートとの比較考察であった。この章ではその結果を要約してわが国のエリート層の展望を行い、次いでそのいくつかの問題について述べてみようと思う。

結論として現代日本におけるエリートの構成・形成にみられる大変化 — つまり構造的といえるような変動はみられなかった。

エリートの社会的基盤に関する変化は、戦争や革命のようなよほどの大きな社会変動でもない限り、10年程度の期間では前期の傾向の継続的發展や停滞が一部にみられるだけで、マイナーな変化が明らかになるにとどまるということは自明といえよう。もともとエリートの社会的基盤が安定しているからこそ、エリートとして存在し得るともいえるのである。私は30年、ほぼ一代を経るとエリートの社会的基盤にも大きな変化がみられると考えている。これは過去の私たちの研究からも実証されている。

それでも三つの方向に注目すべき変化が現れていることがわかる。

一つは、エリートの職業にみられるものである。ビジネス・エリートの構成比が78%へと増加を示している。これは、日本の社会が第二次世界大戦後の経済の高度—安定成長を通じて、経済のなかに組み込まれていった傾向を反映しているとみてよいであろう。このようなビジネス・エリートの寡占化現象は、日本の社会全体に経済的価値の優位性を刻印するように思われる。

二つには、戦後わが国の教育改革が及ぼした変化が注目される。第二次世界大戦前のわが国は、複線型学制のもとにあり、そこで特に国家によるエリート形成のための学校が多く存在していた。

なかでも中心的なものは、「旧制中学→旧制高校→帝国大学」というルートであった。このルートによってエリートとなれる者は経済的にみて中流階級以上の子弟に限られ、そうでない場合には抜群の知的能力を備えた者が旧藩主の奨学制度の支援などによって例外的に進学可能だったのである。このルートによるエリートは、1978年に全エリート中の38%を占めていただけではなく、彼らのエリート輩出率は群を抜いて高かったのである。比較的経済的に金のない階層に対しても軍事エリートや教育エリートの養成を目的とする陸軍士官学校や海軍兵学校、高等師範学校などの国家によるエリート養成学校が多数存在し、これらの機関は比較的経済的にめぐまれない階層の子弟に対しても開放的であった。

これら国家のエリートを国家が養成するという戦前のわが国のエリート教育システムは戦後の教育改革によって姿を消したのである。

学制は「6→3→3→4」という単線型のシステムに移り、新制の大学も医学部等の特別な専門教育を除き、画一的に4年制のシステムに再編成されたのである。

その上に続く大学院についても同様であった。このような教育の機会均等を理念とする戦後の教育改革は、その後教育の大衆化が進捗するなかでわが国のエリートの構成・形成に戦後45年を経てどのようなインパクトを与えたのであろうか。

新学制のインパクトは二つの側面からみられる。一つの側面は国家のエリート養成システムの廃止がわが国の代表的なエリート養成ルートであった「旧制高校→帝国大学エリート」の継続的供給を不可能にして、わが国のエリート集団の教育的連続性を喪失させたことである。学界に目をやってみよう。旧帝国大学を前身とする東大、京大をはじめとする七つの国立大学の学長のうち、東大のみが新学制出身の学長であり、他の六つはまだ旧制高校→帝国大学の卒業生であるが、彼らを最後としてこの学歴の者が学長となることはなくなる。このような現象は、ほかの経営、政治、専門職など他の領域においても生じてきている。1978年度エリートに比べ、1992年度エリートではこの傾向ははっきりとみられるのである。この現象をどう評価するかはむずかしいが、それはエリート研究としては避けて通ることができない問題であろう。

第二の側面は、新学制出身の若きエリートがどのような形でエリート層に進出してきているかの問題である。一口で言うとエリート層の学歴の高度化と多様化が促進された。高度化は、戦後の大学教育の大衆化によって、大学レベルの学歴をそなえたエリートが増加したことである。まず専門学校レベルの高等教育機関の卒業生にかわって、新制大学の学歴をそなえたエリートが増加し、また初等教育学歴や中等教育学歴のエリートは、ますます

す減少していったのである。高等教育の新制大学化は反面、旧帝大出身者がエリート層に供給されなくなった事態と表裏をなしており、一概に高度化とはいえず、旧制大学というエリート供給源を喪失したことは、このようなエリート学歴の低度化という事態とも重なっているのである。さらにまた大学院修了学歴が増加したことも、その数こそまだ少ないもののエリート層の学歴上昇として把握することができよう。旧制大学の教育年限は平均18年、旧制専門学校は平均14年であったのに対して、新制大学のそれは平均16年である。このことを考慮すると新制大学卒のエリートの増加は、今日のエリートの学歴構成をみる限り、エリート学歴の一般的な高度化ととらえてよいと思われる。

次にエリート学歴の多様化は戦前の旧学制出身と戦後の新学制出身のエリートの併存という形で現れた。たとえば東京帝国大学出身エリートと新制の東京大学出身エリートの併存、旧制の山口高等学校出身エリートと新制山口大学経済学部出身のエリートの併存という形態である。これは高等教育レベルのみでなく中等教育レベルにもみられる現象である。旧制中学校卒や旧制高等女学校卒と新制高校卒エリートの並存である。このような新旧学制エリートの並存さらには新旧エリートの交替がどのような分野や領域でどのようなリズムで生起しているのかを明らかにして、わが国の教育とエリート形成の分析を深めていく必要がある。

このような新旧学制の種々の並存現象にみられる多様化とは別に新学制においては新しい形の多様化がみられるようになった。戦後の新学制は多様な高等教育を単一的な新制大学へと編成した。この意味ではそれぞれに水準や形態を異にする戦前の高等教育機関を一元化したといえる。こうして制度的な観点からみると新学制エリートの高等教育学歴は著しく単純化したとみられる。だがエリートの卒業した新制大学の中身をみてみると、多様な個別大学や学部が量、質ともにみられるようになったのである。旧制の帝国大学や、早大、慶大などの著名大学を前身とする大学を卒業したエリートの数はそれほど減少したわけではないが、今までのエリートにはみられなかったような多くの大学・学部が顔を出しているのである。これを大学レベルの個別的な多様化の進行とよんでおこう。この多様化が新しいエリート形成に持つ意味は大きいと思われる。

最後には、女性エリートの増大が注目される。『人事興信録』をインデックスとして確定した女性エリートはこの十数年でほぼ倍増した。戦後日本におけるもっとも大きな変化の一つは法制度上、女性の権利がはっきりと確立されたことであり、女性エリートの参入によってこれらの変革のインパクトは大きく、その結果として彼女らの量的な増加傾向、

学歴水準の上昇、職業の多様化、また意識面での特徴が明らかである。

周知のとおり、女性にとって戦後の学制改革は教育機会の大幅な拡大をもたらすものであった。同時に教育上の原則としても男女平等がうたわれた。女性エリートの学歴水準の上昇にもそのあらわれをみることができる。高等教育段階でも以前は女性を変則的に受け入れていたにすぎなかった大学や大学院が開放され、男性と肩を並べて学ぶ女性は戦後一貫して増加、その伸び率は男性をはるかに上回っている。また戦前には「女性向き」の分野に集中しがちであった専攻分野も拡散傾向がみられ、職業の多様化との関連がうかがえるのである。世代交代にともない女性エリートにおいても高等教育学歴は普遍化し、官僚や教育界エリート、その他専門職エリートのセレクションには学歴が大きな役割を果たすようになってきている。

さらに男女平等は職業領域においてもすすんだといえよう。参政権を得ての公職参加は其中でも特筆すべきできごとであるし、職場における女性比率の上昇、意志決定場面への参画も遅々としているとはいえ、戦前に比べればはるかにすすんだ。

こうした女性エリートの進出は男女平等の理念とあいまって彼女らの意識を特徴づけているように思われる。戦後世代にとって女性の権利は自明のものとして存在した。高等教育を受けることも、職業的達成に邁進することも、制度的にさえぎられることはなくなったのである。彼女らにとって障害となるのはこれまで男性中心で動いてきた社会の慣習的部分である。女性エリートが性別役割や性別特性についての伝統的・固定的な考え方に否定的な傾向を示すのはそれらが彼女らの参入をさえぎる壁だからであろう。

また家庭役割を担う中心的存在として求められがちであるために、女性エリートにとって「女性であること」「家庭をもつこと」はネガティブにはたらいっている部分もあるが、家庭役割にのみ収束しない彼女らの存在は、固定的な性別役割分業ではなく、生活場面でも両性の参加が必要なことを目にみえる形で示したといえる。たとえば彼女らの輩出パターンの多様さには、男性エリートにはみられない職業的責任と家庭的責任との両立も反映されているのである。一方で未婚率や離婚率の高さにみられたように、女性エリートにとって軋みの大きい部分はあるが、女性の進出がすすむことによりいくつかの法制上の整備がなされたこと、男女の共同参画が理念として打ち出されたことは大いに評価しなければならない。

これから戦後世代が登場してゆくにつれて、女性エリートはさらに増加するであろう。彼女らの男女共同参画型社会へのリーダーシップは、男性エリートにも影響を及ぼすと同

時に、現在の社会の在り方をも変えてゆくものとなることが、本稿により明らかにされた男女エリートの価値意識の差異により予想される。

(麻生 誠)

引用・参考文献目録

〔邦文〕

- 阿部 四郎、1983「地方政治家研究(1) 市町村会議員」『法学』第47巻第3号、東北大学
法学会、35頁～90頁
- 間場 寿一、1960「日本社会党のリーダーシップの分析 — 中央執行委員会を中心として
—」『ソシオロジ』第7巻第3号、社会学研究会、55頁～82頁
- 天野 郁夫、1989『近代日本高等教育研究』玉川大学出版部
- 青木 昌彦、1973『ラディカル・エコノミックス — ヒエラルキーの経済学 —』中央公
論社
- 青沼 吉松、1965『日本の経営層 — その出身と性格 —』日本経済新聞社
- 荒井 克弘・山田 文康、1992「理工系大学院教育の評価と理工系人材の成長経験」『大
学研究』第9号、筑波大学大学研究センター、81頁～126頁
- アルク地球人ムック、1992『世界の名門校 — 事業継承と国際化時代の”帝王学” —』
アルク
- 麻生 誠、1960「近代日本におけるエリート構成の変遷」日本教育社会学会編『教育社
会学研究』第15集、東洋館出版社、148頁～162頁
- 麻生 誠、1963a「明治期における高等教育諸機関のエリート形成機能に関する研究」日
本教育学会編『教育学研究』第30巻第2号、109頁～124頁
- 麻生 誠、1963b「明治前期（揺籃期）高等教育の諸形態とそのエリート形成効果に関す
る研究」『日本育英会研究紀要』第1巻、69頁～95頁
- 麻生 誠、1963c「研究資料 エリートの社会階層的基盤」『教育の時代』9月号、34頁
～46頁
- 麻生 誠、1964「大正初期～昭和初期における高等教育機関のエリート形成機能に関す
る研究（その1）」『日本育英会研究紀要』第2巻、35頁～84頁
- 麻生 誠、1966「エリート形成と教育」『東京学芸大学紀要 第1部門』第18集、19頁
～45頁
- 麻生 誠、1967『エリートと教育』福村出版
- 麻生 誠、1968「指導者養成」清水義弘編『教育学叢書7 日本の高等教育』第一法規、
47頁～100頁
- 麻生 誠、1969a「社会指導者の英才教育体系」清水義弘・向坊隆編『教育学叢書14 英
才教育』第一法規、127頁～138頁
- 麻生 誠、1969b「英才・業績・社会」清水義弘・向坊隆編『教育学叢書14 英才教育』
第一法規、275頁～344頁

- 麻生 誠、1970『大学と人材養成 — 近代化に果たす役割 — 』中央公論社
- 麻生 誠、1972「高等教育とエリート養成」湯沢雅彦・副田義也・松原治郎・麻生誠編『社会学セミナー3 家族・福祉・教育』有斐閣、277頁～288頁
- 麻生 誠、1973「学歴社会とエリート」『厚生補導』8月号、10頁～21頁
- 麻生 誠編、1975『現代のエスプリ No.95 エリート』至文堂
- 麻生 誠、1975「概説・エリートとは何か」麻生誠編、前掲書、5頁～31頁
- 麻生 誠、1977a「学歴エリートの虚像と実像」麻生誠・潮木守一編『学歴効用論 — 学歴社会から学力社会への道 — 』有斐閣選書、65頁～84頁
- 麻生 誠、1977b「高学歴社会のエリート選抜 — エリート高等教育を中心に — 』『教育のために』3、日本評論社
- 麻生 誠、1977c『学歴と生きがい — ”学閥”への抵抗と追従 — 』日本経済新聞社
- 麻生 誠、1978a「高等教育の大衆化とエリート選抜 — 有名校を中心に — 』『IDE・現代の高等教育』No.188、11頁～19頁
- 麻生 誠、1978b『エリート形成と教育』福村出版
- 麻生 誠、1979「大学大衆化とエリート選抜」天城勲編『大学から高等教育へ3 エリートの大学・大衆の大学』サイマル出版会、41頁～51頁
- 麻生 誠、1980「日本のエリート大学」『大学進学研究』No.14、15頁～18頁
- 麻生 誠、1982『教育学大全集3 近代化と教育』第一法規
- 麻生 誠、1983「現代日本におけるエリート形成 — 『学歴エリート』を中心に — 』『創立十周年記念論集』大阪大学人間科学部、515頁～565頁
- 麻生 誠、1991『日本の学歴エリート』玉川大学出版部
- 麻生 誠・木村 涼子・山内 乾史・冠野 文、1993「日本のエリート形成に関する教育社会学的研究」カシオ科学振興財団編『平成5年年報』カシオ科学振興財団、103頁～104頁
- 麻生 誠編、1993『才能教育の現状と課題 — アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・中国 — (高等教育研究紀要第13号)』高等教育研究所
- 麻生ゼミ(執筆者 奥村 志郎)、1980「ビジネス・エリートの意識構造」『大阪大学教育社会学研究集録』第1号、大阪大学人間科学部教育社会学研究室、38頁～106頁
- 朴 基性、1992「韓国のユニオンリーダー — 実態調査を中心に — 』『日本労働研究雑誌』No.389、20頁～34頁
- 文藝春秋編、1992『日本の論点』文藝春秋
- 地方自治研究会・早瀬 武、1981「地方議員と行政 — 京都府市町村会議員調査と四府県会議員調査 — 』『法学論叢』第109巻第3号、京都大学法学会、80頁～98頁

- 地方自治研究会・村松 岐夫・伊藤 光利、1980「市町村会議員の政治化と地域社会の社会経済的特質 — 京都府市町村議員調査(1) —」『法学論叢』第107巻第3号、京都大学法学会、83頁～101頁
- 深谷 昌志、1975「エリートの形成と入試制度」日本教育学会編『教育学研究』第42巻第4号、9頁～18頁
- 福嶋 正徳、1977「ラテン・アメリカにおけるエリート」『海外事情』第25巻第9号、72頁～79頁
- 浜口 恵俊・徳岡 秀雄・今津孝次郎、1976「日本人における成人社会化の基本特性 — 社会的経歴の分析を通して —」日本教育社会学会編『教育社会学研究』第31巻、東洋館出版社、40頁～53頁
- 浜口 恵俊編、1979『日本人にとってキャリアとは — 人脈の中の履歴 —』日本経済新聞社
- 原田 隆司、1984「自民党衆議院議員の経歴パターン分析 — 昭和55年度総選挙当選者について —」『ソシオロジ』第29巻第1号、社会学研究会、45頁～67頁
- 原田 隆司、1988「政治的影響力の社会学 — 日本の政策過程に関する一考察 —」『甲南女子大学 人間科学年報』第13号、甲南女子大学、67頁～80頁
- 原田 隆司、1988「近代日本における行政官僚の位相 — distinct career の研究 —」筒井清忠編、後掲書、201頁～238頁
- 橋本 敏市、1990「近代日本におけるエリート養成の教育過程 — 旧制高等学校の教養主義教育について —」『東京大学教育学部紀要』第30巻、95頁～103頁
- 橋本 敏市、1992「近代日本における専門職と資格試験制度 — 医術開業試験を中心として —」日本教育社会学会編『教育社会学研究』第51集、東洋館出版社136頁～153頁
- 葉柳 和則、1994「近代日本の社会運動リーダーの供給源」『大阪大学教育社会学・教育計画論研究集録』第9号、大阪大学人間科学部教育社会学・教育計画論研究室
- 廣田 照幸、1985「近代日本における職業軍人の精神形成 — 大正・昭和初期の陸士・陸幼教育について —」『東京大学教育学部紀要』第25巻、203頁～212頁
- 廣田 照幸、1987「近代日本における陸軍将校のリクルート — 階層的特徴をめぐって —」日本教育社会学会編『教育社会学研究』第42集、東洋館出版社、150頁～166頁
- 廣田 照幸、1989「進路としての軍人 — 陸軍士官学校の受験を中心に —」『アカデミア 人文・社会科学編』第50号、南山大学、69頁～104頁
- 廣田 照幸、1990「教育社会学における歴史的・社会史的研究の反省と展望」日本教育社会学会編『教育社会学研究』第47集、東洋館出版社、76頁～107頁

- 廣田 照幸・佐藤 広志、1991「出郷者と地元定着者の学歴取得と地位形成に関する研究 — 鳥取県名士録の分析 —」『アカデミア 人文・社会科学編』第54号、南山大学、23頁～70頁
- 筆谷 稔、1961「官僚の補充について — 関研究の一つの試み —」『ソシオロジ』第8巻第2号、社会学研究会、57頁～65頁
- 飯森 嘉助、1977「エジプトの政治的エリートの構図」『海外事情』第25巻第9号、65頁～71頁
- 伊藤 彰浩・岩田 弘三・中野 実、1990『近代日本高等教育における助手制度の研究』（高等教育研究叢書3）広島大学大学教育研究センター
- 岩見 和彦・曾和 信一・富田 英典・中村 勝行、1981「社会階層と教育 — 『人事興信録』の学歴分析 —」『関西大学社会学部紀要』第12巻第2号、85頁～111頁
- 岩田 弘三、1985「帝国大学教授のリクルート源」『名古屋大学教育学部紀要 — 教育学科 —』95頁～115頁
- 居安 正、1960「戦後国民代表の構成と変化 — その一 参議院議員の考察 —」『ソシオロジ』第7巻第3号、社会学研究会、28頁～54頁
- 門脇 厚司、1978『現代の出世観 — 高学歴化でどう変わったか —』日本経済新聞社
- 加野 芳正、1992「近代日本のアカデミック・エリート — 学士院賞受賞者を対象として —」『大学論集』第21集、広島大学大学教育研究センター、257頁～278頁
- 春日 雅司、1985「地方政治家の社会的背景」『ソシオロジ』第30巻第1号、社会学研究会、19頁～35頁
- 河上徹太郎、1959『日本のアウトサイダー』中央公論社
- 河上徹太郎、1966『日本のエリート』垂水書房
- 河野 仁、1989a「大正・昭和期における陸海軍将校の出身階層と地位達成 — 父親の職業階層の検討と昇進の規定要因分析 —」『大阪大学教育社会学・教育計画論研究集録』第7号、大阪大学人間科学部教育社会学・教育計画論研究室、53頁～65頁
- 河野 仁、1989b「近代日本における軍事エリートの選抜 — 軍隊社会の『学歴主義』 —」日本教育社会学会編『教育社会学研究』第45集、東洋館出版社、161頁～180頁
- 河野 仁、1990「大正・昭和期軍事エリートの形成過程 — 陸海軍将校の軍キャリア選択と軍学校適応に関する実証分析 —」筒井清忠編、後掲書、95頁～140頁
- 北川 隆吉・貝沼 洵、1985『日本のエリート』大月書店

- 北原 鉄也、1983「地方政治家における政治化とその社会経済的背景（下） — 愛媛県下市町村会議員調査 —」『都市問題研究』第35巻第4号、都市問題研究会、110頁～131頁
- 古城 利明、1971「エリートイズムの権力理論とマルクス主義 — C. W. ミルズとF. ハンターの理論検討を中心に —」富永健一・倉沢進編『階級と地域社会 — 尾高邦雄教授還暦記念論文集Ⅱ —』中央公論社
- 近藤 申一、1977「イスラエルの政治エリート」『海外事情』第25巻第9号、55頁～64頁
- 黒羽 亮一、1993『戦後大学政策の展開』玉川大学出版部
- 黒岡千佳子、1981a「女性高等教育の発展と女性エリート形成」日本教育学会編『教育学研究』第48巻第1号、43頁～53頁
- 黒岡千佳子、1981b「わが国における現代女性エリートの意識と実態」『大阪大学教育社会学・教育計画論研究集録』第2号、大阪大学人間科学部教育社会学・教育計画論研究室、27頁～61頁
- 黒岡千佳子、1982「わが国における大企業ビジネス・エリートと中企業ビジネス・エリート」『大阪大学教育社会学・教育計画論研究集録』第3号、大阪大学人間科学部教育社会学・教育計画論研究室、67頁～103頁
- 萬成 博、1965『ビジネス・エリート — 日本における経営者の条件 —』中央公論社
- 三根生久大、1988『陸軍参謀 — エリート教育の功罪 —』文芸春秋社
- 三宅 一郎・綿貫 譲治・嶋 澄・蒲島 郁夫、1985『平等をめぐるエリートと対抗エリート』創文社
- 村松 岐夫・伊藤 光利、1986『地方議員の研究 — 〔日本の政治風土〕の主役たち —』日本経済新聞社
- 中 久郎、1976「議員研究へのアプローチ」『ソシオロジ』第21巻第1号、社会学研究会、1頁～13頁
- 中 久郎、1980『国会議員の構成と変化』政治広報センター
- 中川敬一郎、1981『比較経営史序説』東京大学出版会
- 中道 実、1973「現代日本における指導層の社会的性格（一）」『ソシオロジ』第18巻第1号、社会学研究会、79頁～103頁
- 中道 実、1974「現代日本における指導層の社会的性格（二）」『ソシオロジ』第18巻第3号、社会学研究会、57頁～89頁
- 中道 実、1976「社会的属性からみた議員の代表性」『ソシオロジ』第21巻第1号、社会学研究会、35頁～67頁
- 波平 勇男、1974「機能エリートの地位特質 — パーソニアン・モデルによる歴代閣僚および財閥エリートの比較分析 —」日本教育社会学会編『教育社会学研究』第29集、121頁～134頁

- 波平 勇男、1977「経営組織の官僚制化とその経営者補充に及ぼす影響 — 三大企業集団における経営者補充源の比較分析 — 」日本社会学会編『社会学評論』第107号、有斐閣、50頁～69頁
- 日本近代史料研究会編・秦 郁彦著、1974『日本陸海軍の制度・組織・人事』東京大学出版会
- 日本労働研究機構、1992『ユニオンリーダーの意識とキャリア形成 — 単産レベルの実態調査報告書 — 』日本労働研究機構調査研究報告書1992 No. 25
- 大河内一男・氏原正治郎・高橋 洸・高梨 昌、1965『日本のユニオン・リーダー』東洋経済新報社
- 大塚 豊、1992「中国のエリート形成における高等教育・留学の効果 — 各界指導者の経歴分析を中心に — 」日本比較教育学会編『比較教育学研究』第18号、東信堂、53頁～64頁
- 斎藤 諦淳、1984『文教行政にみる政策形成過程の研究』ぎょうせい
- 斎藤 諦淳、1990『文教予算の編成』ぎょうせい
- 坂田 貞二、1977「近代インドのエリート」『海外事情』第25巻第9号、47頁～54頁
- 佐々木克衛、1975「近世の文学」高木博・佐々木克衛・神谷吉行編『新日本文学史・要説』双文社出版、137頁～173頁
- 政治・法意識調査班（間 登志夫）、1984「地方議員の態度と行動 — 大阪府自治体議員に関する調査報告 — 」『調査と資料』第51号、関西大学経済・政治研究所
- 関 良一、1951「近代日本文学史の構想 — 伝統と近代 — 」『日本文学教室』第7号、22頁～26頁
- 関 良一、1951「近代日本文学史の構想（承前）」『日本文学教室』第8号、22頁～27頁
- 関 良一、1971『日本近代文学研究叢刊 逍遙・鷗外 — 考証と試論 — 』有精堂
- 戦前期官僚制研究会編・秦 郁彦著、1981『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』東京大学出版会
- 瀬岡 誠、1980『企業者史学序説』実教出版株式会社
- 清水 義弘編、1975『地域社会と国立大学』東京大学出版会
- 新堀 通也編、1984『大学教授職の総合的研究 — アカデミック・プロフェッションの社会学 — 』多賀出版
- 鈴木 董、1993『オスマン帝国の権力とエリート』東京大学出版会
- 鈴木 宗憲、1960「教団におけるエリートの動態 — 歴史のなかの本願寺 その一 封建制本願寺教団 — 」『ソシオロジ』第7巻第3号、社会学研究会、83頁～109頁

- 太陽編集部、1983『太陽 No.248 エリート教育の現場』平凡社
- 高根 政昭、1976『日本の政治エリート — 近代化の数量分析 — 』中央公論社
- 竹熊 尚夫、1990「マレーシアにおけるエリート教育の特色」『九州教育学会研究紀要』第18巻、41頁～48頁
- 竹熊 尚夫、1991「マレーシアにおけるマレー系エリート教育の発展とその特色」日本比較教育学会編『比較教育学研究』第17号、東信堂、41頁～48頁
- 竹熊 尚夫、1992「マレーシアにおけるハイタレント・マンパワーの養成」『九州大学教育学部紀要（教育学部門）』第38集、133頁～147頁
- 竹内 洋、1976「立身出世主義の論理と機能 — 明治後期・大正前期を中心に — 」日本教育社会学会編『教育社会学研究』第31集、東洋館出版社、119頁～129頁
- 竹内 洋、1978『日本人の出世観』学文社
- 竹内 洋、1983「学歴移動の構造 — ビジネスエリートの家族にみる — 」『価値変容の社会学的研究』関西大学経済・政治研究所、72頁～99頁
- 田中 一生、1986「学校社会学方法論の基礎 — 研究主体の認識カテゴリーと研究手続きをめぐって — 」『九州大学教育学部紀要（教育学部門）』第32集、127頁～151頁
- 田中 一生、1990「我が国教育社会学の性格 — 理論性と実践性をめぐる批判的考察 — 」『九州大学教育学部紀要（教育学部門）』第36集、1頁～34頁
- 田中 紀行、1990「近代日本における学歴エリートの比較分析 — ドイツと日本を事例として — 」筒井清忠編、後掲書、239頁～264頁
- 田中 義章、1976「大学教授市場の一分析 — わが国社会学関係の1969年と1974年の場合 — 」『ソシオロジ』第21巻第2号、社会学研究会、85頁～95頁
- 筒井 清忠編、1990『「近代日本」の歴史社会学 — 心性と構造 — 』木鐸社
- 筒井 清忠、1990「『近代日本』の歴史社会学的研究 — 戦後の研究史の展望 — 」筒井清忠編、前掲書、11頁～25頁
- 山田 浩之、1992「戦前における中等教育社会の階層性」日本教育社会学会編『教育社会学研究』第50集、東洋館出版社、308頁～324頁
- 山田正喜子、1976『アメリカのビジネス・エリート — 競争社会の栄光と孤独 — 』日本経済新聞社
- 山本 慶裕、1982「中小企業経営者の学歴と補充類型」『大阪大学人間科学部紀要』第8巻、61頁～82頁
- 山本 慶裕・高瀬 武典、1987「ビジネス・エリートの地位達成過程 — 大企業経営者の出身と経歴に関する調査より — 」『日本労働協会雑誌』No.337、21頁～32頁

- 山野井敦徳、1990『大学教授の移動研究 — 学閥支配の選抜・配分のメカニズム — 』東信堂
- 山内 乾史、1990「近代日本における文芸エリートの社会学的考察」日本教育社会学会編『教育社会学研究』東洋館出版社、125頁～141頁
- 山内 乾史、1992「近代日本における文芸エリートと高等教育」『大学論集』第21集、広島大学大学教育研究センター、187頁～208頁
- 山内 乾史、1994「現代日本における文芸エリートと高等教育」『大学論集』第23集、広島大学大学教育研究センター
- 吉田 俊雄、1989『海軍参謀』文藝春秋
- 若田 恭二、1984「地方議員の社会的背景」黒田展之編『現代日本の地方政治家 — 地方議員の背景と行動 — 』法律文化社

〔訳書〕

- ベラー、ロバート N. マドセン、リチャード. サリヴァン、ウィリアム M. ス
ウィドラー、アン. テイプトン、スティーヴン M. (島蘭進・中村
圭志訳) 1991『心の習慣 — アメリカ個人主義のゆくえ —』みすず書
房
- ボットモア、トーマス B. (綿貫譲治訳) 1965『エリートと社会』岩波書店
- ブルデュー、ピエール. (石井洋二郎訳) 1990『ディスタンクシオン — 社会的判断力批
判 — I・II』藤原書店
- ブルデュー、ピエール. パスロン、ジャン＝クロード. (宮島喬訳) 1991『再生産
— 教育・社会・文化 —』藤原書店
- ボールズ、サミュエル. ギンタス、ハーバート. (宇沢弘文訳) 1986、1987『アメリカ
資本主義と学校教育 — 教育改革と経済制度の矛盾 — I・II』岩波書
店
- クリストファー、ロバート C. (山田進一訳) 1990『アメリカの新パワー・エリート
— 崩壊するWASP神話 —』TBSブリタニカ
- ダール、ロバート A. (高島通敏・前田脩訳) 1981『ポリアーキー』三一書房
- エスカルピ、ロベール. (大塚幸男訳) 1959『文学の社会学』白水社
- ファー、スーザン J. (賀谷恵美子訳) 1989『日本の女性活動家』勁草書房
- ジラルド、アラン. (寿里茂訳) 1968『エリートの社会学 — 社会的成功の要因 —』白
水社
- ケラー、スーザン. (新堀通也・石田剛訳) 1967『現代のエリート』関書院新社
- ラスウエル、ハロルド D. (永井陽之助訳) 1969『権力と人間』東京創元社
- ミルズ、C. ライト. (鶴飼信成・綿貫譲治訳) 1969『パワー・エリート』(上・下)東
京大学出版会
- パリュ、ジェラント. (パワー・エリート研究会訳、代表中久郎) 1982『政治エリート』
世界思想社
- バレート、ヴィルフリート. (川崎嘉元訳) 1975『エリートの周流 — 社会学の理論と応
用 —』垣内出版
- ストーン、ローレンス. (佐田玄治訳) 1985『エリートの攻防 — イギリス教育革命史 —』
御茶の水書房
- トロウ、マーチン. (天野郁夫・喜多村和之訳) 1976『高学歴社会の大学 — エリートか
らマスへ —』東京大学出版会
- ユシーム、マイケル. (岩木博司・松井和夫監訳) 1986『インナー・サークル — 世界を
動かす陰のエリート群像 —』東洋経済新報社
- ズッカーマン、ハリエット. (金子努監訳) 1980『科学エリート』玉川大学出版部

[欧 文]

- Anderson, Robert D. 1992 Universities and Elites in Britain Since 1800, The Macmillan Press Ltd.
- Blaug, Mark. 1972 An Introduction to the Economics of Education, Penguin Books.
- Bullard, Angela M., Wright, Deil S. 1993 Circumventing the Glass Ceiling: Women Executives in American State Governments, Public Administration Review Vol. 53 No. 3, pp. 189-202.
- Etzioni-Halevy, Eva. 1993 The Elite Connection: Problems and Potential of Western Democracy, Polity Press.
- Hoffmann, Erich. 1992 The Role of Institutions of Higher and Secondary Learning, in Kappeler, Andreas (ed.) The Formation of National Elites: Comparative Studies on Governments and Non-Dominant Ethnic Groups in Europe, 1850-1940, European Science Foundation, pp. 277-292.
- Kappeler, Andreas. (ed.) 1992 The Formation of National Elites: Comparative Studies on Governments and Non-Dominant Ethnic Groups in Europe, 1850-1940, European Science Foundation.
- Kingston, Paul William, Lewis, Lionel S. (eds.) 1990 The High Status Track: Studies of Elite Schools and Stratification, State University of New York Press.
- Lowe, Roy. 1985 English Elite Education in the Late Nineteenth and Early Twentieth Centuries in Werner Conze, Jürgen Kocka (hrsg.) Bildungsbürgertum im 19. Jahrhundert Teil I: Bildungssystem und Professionalisierung in internationalen Vergleichen, Klett-Cotta. pp. 147-162.
- Ringer, Fritz. 1985 Education and the Middle Classes in Modern France in Werner Conze, Jürgen Kocka (hrsg.) Bildungsbürgertum im 19. Jahrhundert Teil I: Bildungssystem und Professionalisierung in internationalen Vergleichen, Klett-Cotta. pp. 109-146.
- Ringer, Fritz. 1992 Fields of Knowledge: French Academic Culture in Comparative Perspective, 1890-1920, Cambridge University Press.
- Scott, John. (ed.) 1990 The Sociology of Elites vol. I-III, Edward Elgar Publishing Company.
- Useem, Michael, Karabel, Jerome. 1986 Pathways to Top Corporate Management, American Sociological Review Vol. 51 No. 2. pp. 184-200.
- Verba, Sidney, Kelman, Steven, Orren, Gary R., Miyake, Ichiro, Watanuki, Joji, Kabashima, Ikuo, Ferree, G. Donald, JR. 1987 Elites and the Idea of Equality: A Comparison of Japan, Sweden, and the United States, Harvard University Press.

付録1 1992年度 男性エリート調査 エリート・タイプ別集計表

社会リーダーの職業と教育に関する調査

まず、あなた自身のことについておうかがいします。

〔1〕以下の事項についてお教えてください。

(1) あなたはいつお生まれになりましたか。

明治・大正・昭和〔 〕年

	～1904	1905～ 1914	1915～ 1925	1926～ 1931	1932～	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	0.0	1.2	12.0	31.1	49.1	6.6	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	0.6	3.6	22.1	35.4	29.9	8.4	100(308)
その他ビジネス・エリート	1.2	4.7	22.7	22.7	44.2	4.7	100(172)
政治家・官僚	0.0	5.3	26.3	21.1	47.4	0.0	100(19)
教授・教育家	2.5	25.0	45.0	25.0	0.0	2.5	100(40)
芸術家	0.0	28.6	14.3	14.3	28.6	14.3	100(14)
専門職エリート	0.0	17.0	28.3	28.3	22.6	3.8	100(53)
その他	0.0	17.1	40.8	19.7	17.1	5.3	100(76)
合計	0.6	6.8	23.3	29.0	33.9	6.4	100(849)
カード・データ	1.6	9.0	23.8	27.1	38.5	0.0	100(2000)

(2) あなたは小学校時代をどこで過ごされましたか(当時の市部・郡部をお書きください)。

〔 〕都・道・府・県〔 〕市・郡部

	北海道	東北	関東	東京	北陸	甲信越	東海	近畿	大阪	中国	四国	九州	海外	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	3.6	4.8	13.2	19.8	3.0	5.4	8.4	9.0	8.4	6.6	4.2	9.0	3.6	1.2	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	3.6	4.2	11.0	18.5	2.9	3.6	10.4	13.0	9.7	5.8	3.6	10.7	2.6	0.3	100(308)
その他ビジネス・エリート	4.1	6.4	6.4	15.7	5.8	2.3	9.3	18.6	6.4	8.1	7.0	4.1	3.5	2.3	100(172)
政治家・官僚	0.0	10.5	5.2	21.1	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	10.5	15.8	10.5	0.0	0.0	100(19)
教授・教育家	0.0	10.0	5.0	15.0	2.5	5.0	5.0	17.5	7.5	7.5	7.5	10.0	7.5	0.0	100(40)
芸術家	0.0	0.0	7.1	35.7	0.0	14.3	7.1	14.3	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	7.1	100(14)
専門職エリート	1.9	3.8	9.4	15.1	1.9	7.5	5.7	22.6	5.7	7.5	7.5	11.3	0.0	0.0	100(53)
その他	1.3	5.3	6.6	21.1	1.3	3.9	3.9	19.7	6.6	7.9	6.6	7.9	5.3	2.6	100(76)
合計	3.1	5.2	9.5	18.4	3.3	4.2	8.5	14.6	7.9	6.8	5.3	8.7	3.3	1.2	100(849)
カード・データ(出身地)	3.1	5.0	10.7	18.7	3.3	5.9	10.1	12.2	6.8	7.5	5.4	9.9	0.4	1.5	100(2000)
(現在地)	2.2	2.5	21.8	31.7	1.4	1.8	6.9	13.4	8.7	3.0	2.1	4.7	0.2	0.0	100(2000)

(ただし、「関東」とは茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川を指し、「近畿」とは滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山を指す。)

市部か郡部か

	市部	郡部	NA	%(N)
大企業ビジネス・エリート	56.9	28.1	15.0	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	61.7	26.3	12.0	100(308)
その他ビジネス・エリート	59.9	29.7	10.5	100(172)
政治家・官僚	36.8	42.1	21.1	100(19)
教授・教育家	70.0	22.5	7.5	100(40)
芸術家	42.9	28.6	28.6	100(14)
専門職エリート	49.1	39.6	11.3	100(53)
その他	59.2	27.6	13.2	100(76)
合計	58.9	28.5	12.6	100(849)

(3) あなたの中等教育学歴(旧制中学・実業学校・新制高校等)についてお教えてください。

あなたは「進学した/ 進学しなかった」(あてはまる方に○をしてください)

↳進学した方は学校名を()

	旧制中学			新制高校				師範学校	旧制実業			不明	不進学	%(N)
	官立	私立	不明	官立通	私立通	官立業	不明		官立	私立	不明			
大企業ビジネス・エリート	31.7	4.8	5.4	41.3	6.0	1.8	1.8	0.6	1.8	0.6	1.8	0.0	2.4	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	39.3	4.2	5.8	27.3	5.5	2.9	0.6	0.3	8.1	3.2	0.6	0.0	1.9	100(308)
その他ビジネス・エリート	35.5	4.7	5.8	30.8	6.4	4.7	0.6	0.0	6.4	0.0	0.0	1.7	3.5	100(172)
政治家・官僚	42.1	0.0	0.0	52.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	100(19)
教授・教育家	77.5	7.5	5.0	2.5	0.0	0.0	2.5	0.0	2.5	0.0	2.5	0.0	0.0	100(40)
芸術家	42.9	21.4	14.3	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	100(14)
専門職エリート	52.8	9.4	3.8	13.2	1.9	3.8	0.0	0.0	3.8	1.9	3.8	1.9	3.8	100(53)
その他	46.1	13.2	7.9	13.2	1.3	1.3	1.3	1.3	7.9	0.0	1.3	0.0	5.3	100(76)
合計	40.4	5.9	5.8	27.7	4.8	2.7	0.9	0.4	5.7	1.4	1.1	0.5	2.8	100(849)

(4) あなたは旧制高校に進学されましたか。

(進学した/ 進学しなかった) (あてはまる方に○をしてください)

↳進学した方は学校名を()

	ナス ンク パ ー ル	官 立 制 高 校	私 立 制 高 校	私 立 予 科	軍 関 係	旧 専 制 門 学 校	不 進 学	%(N)
大企業ビジネス・エリート	10.2	10.2	4.8	2.4	0.6	2.4	68.9	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	7.5	7.8	2.3	2.9	1.6	2.3	75.0	100(308)
その他ビジネス・エリート	5.8	12.2	1.7	5.8	0.6	1.7	72.1	100(172)
政治家・官僚	15.8	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	73.7	100(19)
教授・教育家	25.0	37.5	2.5	2.5	0.0	5.0	25.0	100(40)
芸術家	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	85.7	100(14)
専門職エリート	20.8	15.1	5.7	3.8	3.8	1.9	49.1	100(53)
その他	9.2	26.3	1.3	3.9	1.3	0.0	57.9	100(76)
合計	9.7	12.7	2.7	3.4	1.2	2.0	68.0	100(849)

(5) あなたの最終学歴について、その学校名をお教えてください。

(学部・学科・専攻などもわかる範囲でお書きください)

[(3) (4) と同じ方は空けておいてください]

[_____]

	初等教育	中等教育	専門学校 短期大学		大 学						留 学	大 学 院	各 種 学 校	軍 関 係	N A	% (N)
			私立	官立	私 立	官 立	早 慶 大 大	東 大	京 大	旧 大						
大企業ビジネス・エリート	0.6	6.0	1.8	1.8	15.6	15.0	13.8	19.8	8.4	14.4	0.6	0.6	0.0	0.0	1.8	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	1.0	13.6	3.9	9.4	18.5	11.0	10.1	12.3	3.6	11.0	0.0	2.9	0.3	1.9	0.3	100(308)
その他ビジネス・エリート	1.2	9.3	4.1	3.5	18.0	13.4	14.5	11.0	8.1	13.4	0.0	0.6	1.2	0.0	1.7	100(172)
政治家・官僚	5.3	26.3	0.0	0.0	10.5	5.3	0.0	31.6	10.5	5.3	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	100(19)
教授・教育家	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	12.5	0.0	27.5	22.5	25.0	0.0	7.5	0.0	0.0	0.0	100(40)
芸術家	0.0	7.1	7.1	21.4	14.3	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	100(14)
専門職エリート	1.9	3.8	7.5	1.9	17.0	15.1	0.0	17.0	11.3	9.4	1.9	9.4	1.9	1.9	0.0	100(53)
その他	0.0	9.2	3.9	9.2	13.2	3.9	13.2	23.7	5.3	9.2	0.0	3.9	0.0	2.6	2.6	100(76)
合計	0.9	9.8	3.5	5.8	16.4	11.7	11.0	16.0	7.1	12.2	0.2	2.6	0.5	1.2	1.1	100(849)

高等教育進学者の専攻分野

	文 学	政 法 治 学 学	経 商 学 学	教 育 学 学	理 学	工 学	医 薬 菌 学 学	農 学	そ の 他	N A	非 該 当	% (N)
大企業ビジネス・エリート	0.6	17.4	35.9	1.2	2.4	24.6	1.8	2.4	1.8	3.6	8.4	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	4.5	14.6	30.8	1.0	1.6	22.1	1.9	2.9	1.3	4.2	14.9	100(308)
その他ビジネス・エリート	3.5	15.1	32.0	0.6	1.7	21.5	2.3	2.9	2.9	5.2	12.2	100(172)
政治家・官僚	0.0	31.6	5.3	5.3	5.3	0.0	10.5	0.0	5.3	31.6	0.0	100(19)
教授・教育家	10.0	7.5	12.5	2.5	17.5	20.0	12.5	12.5	2.5	2.5	0.0	100(40)
芸術家	28.6	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	14.3	0.0	14.3	100(14)
専門職エリート	3.8	47.2	9.4	0.0	0.0	13.2	15.1	0.0	0.0	3.8	5.7	100(53)
その他	9.2	18.4	28.9	1.3	1.3	21.1	1.3	1.3	0.0	5.3	11.8	100(76)
合計	4.5	17.7	29.1	1.1	2.5	21.0	3.3	3.1	1.8	4.2	11.9	100(849)

(6) あなたは留学されたことがありますか。

{①ある／②ない} (あてはまる方に○をしてください)

[ない方は(7)へすすんでください]

→留学経験のある方は以下の質問にお答えください。

(a) どの国へ留学されましたか。

{アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・その他〔具体的に _____ 〕}

(b) 留学された学校名をお教えてください。

{ _____ }

(c) 学位を取得された方は何の学位を取得されたのかお教えてください。

{ _____ }

	ない	ある	%(N)
大企業ビジネス・エリート	93.4	6.6	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	98.4	1.6	100(308)
その他ビジネス・エリート	95.3	4.7	100(172)
政治家・官僚	84.2	15.8	100(19)
教授・教育家	52.5	47.5	100(40)
芸術家	100	0.0	100(14)
専門職エリート	79.2	20.8	100(53)
その他	90.8	9.2	100(76)
合計	92.5	7.5	100(849)

留学した国

	経験なし	アメリカ	イギリス	フランス	ドイツ	他カ ア大 メ陸 リ	他ッ ヨバ 大 口陸	アジア	その他	%(N)
大企業ビジネス・エリート	93.4	5.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	98.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	100(308)
その他ビジネス・エリート	95.3	2.3	1.7	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100(172)
政治家・官僚	84.2	10.5	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100(19)
教授・教育家	52.5	27.5	0.0	7.5	0.0	2.5	5.0	0.0	5.0	100(40)
芸術家	100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100(14)
専門職エリート	79.2	17.0	1.9	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	100(53)
その他	90.8	7.9	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100(76)
合計	92.5	5.2	0.7	0.4	0.4	0.2	0.4	0.1	0.2	100(849)

学校名

	経験なし	アメリカ			ヨーロッパ		アジア	聴講	その他	%(N)
		名門	一般	不明	名門	一般	名門			
大企業ビジネス・エリート	93.4	1.8	2.4	1.2	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	98.4	1.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	100(308)
その他ビジネス・エリート	95.3	1.7	0.6	0.0	0.6	1.2	0.0	0.0	0.6	100(172)
政治家・官僚	84.2	5.3	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	100(19)
教授・教育家	52.5	12.5	12.5	0.0	5.0	5.0	0.0	10.0	2.5	100(40)
芸術家	100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100(14)
専門職エリート	79.2	3.8	5.7	1.9	3.8	0.0	0.0	3.8	1.9	100(53)
その他	90.8	1.3	3.9	1.3	0.0	1.3	0.0	0.0	1.3	100(76)
合計	92.5	2.1	2.1	0.5	0.6	0.8	0.1	0.7	0.6	100(849)

学位の取得

	経験なし	B.A.	M.A.	Ph.D	学な 位し	%(N)
大企業ビジネス・エリート	93.4	1.8	0.0	0.6	4.2	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	98.4	0.0	0.0	0.0	1.6	100(308)
その他ビジネス・エリート	95.3	0.0	0.0	0.6	4.1	100(172)
政治家・官僚	84.2	0.0	0.0	10.5	5.3	100(19)
教授・教育家	52.5	0.0	0.0	2.5	45.0	100(40)
芸術家	100	0.0	0.0	0.0	0.0	100(14)
専門職エリート	79.2	0.0	5.7	1.9	13.2	100(53)
その他	90.8	1.3	0.0	0.0	7.9	100(76)
合計	92.5	0.5	0.4	0.7	6.0	100(849)

(7) あなたの現在のご職業をお教えてください(できるだけ具体的にお願いします)。

{

}

(8) 学校時代の勉強（学業成績）について、あなたは同学年の中でだいたいどのくらいだったでしょうか。在学された学校すべてについて、以下からあてはまる番号を選んで〔 〕に記入してください。

- | |
|--------------------|
| 1. よくできるほうだったと思う |
| 2. まあまあだったと思う |
| 3. あまりできないほうだったと思う |
| 4. ぜんぜんできなかったと思う |
| 5. 該当せず（進学しなかった場合） |

初等教育段階〔小学校・新制中学・国民学校等〕＝＝＝＝＝＝＝＝＝>〔 〕

中等教育段階〔旧制中学・実業学校・師範学校（昭和18年以前）

・旧制高校・新制高校等〕＝＝＝＝＝＝＝＝＝>〔 〕

高等教育段階〔旧制高等専門学校・高等専門学校・専門学校（専修学校専門課程）

・高等師範学校・旧制大学・新制大学・短期大学等〕＝＝＝＝＝>〔 〕

初等教育段階の成績

	よ で き る	ま あ ま あ	あ で ま き り な い	ぜ で ん き ぜ な い	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	76.0	17.4	5.4	0.0	1.2	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	69.8	26.8	1.9	0.6	1.6	100(308)
その他ビジネス・エリート	62.2	27.3	6.4	1.2	2.9	100(172)
政治家・官僚	57.9	36.8	0.0	0.0	5.3	100(19)
教授・教育家	70.0	27.5	0.0	0.0	2.5	100(40)
芸術家	42.9	35.7	21.4	0.0	0.0	100(14)
専門職エリート	71.7	18.9	9.4	0.0	0.0	100(53)
その他	60.5	28.9	2.6	0.0	7.9	100(76)
合計	68.1	24.9	4.2	0.5	2.4	100(849)

中等教育段階の成績

	よ で き る	ま あ ま あ	あ で ま き り な い	ぜ で ん き ぜ な い	非 該 当	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	48.5	45.5	4.8	0.0	0.6	0.6	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	34.4	52.9	8.4	1.3	2.3	0.6	100(308)
その他ビジネス・エリート	36.6	52.3	8.1	0.0	2.3	0.6	100(172)
政治家・官僚	52.6	31.6	5.3	0.0	5.3	5.3	100(19)
教授・教育家	65.0	32.5	0.0	0.0	0.0	2.5	100(40)
芸術家	35.7	50.0	7.1	7.1	0.0	0.0	100(14)
専門職エリート	62.3	30.2	5.7	0.0	0.0	1.9	100(53)
その他	39.5	40.8	9.2	1.3	1.3	7.9	100(76)
合計	41.7	47.3	7.1	0.7	1.6	1.5	100(849)

高等教育段階の成績

	よ で く き る	ま あ ま あ	あ で ま き り な い	ぜ で ん き ぜ な い	非 改 当	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	26.3	50.9	13.2	1.8	7.2	0.6	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	14.3	56.2	12.3	2.3	13.3	1.6	100(308)
その他ビジネス・エリート	24.4	45.9	15.7	2.3	10.5	1.2	100(172)
政治家・官僚	21.1	42.1	0.0	0.0	31.6	5.3	100(19)
教授・教育家	50.0	42.5	0.0	2.5	0.0	5.0	100(40)
芸術家	14.3	50.0	21.4	7.1	7.1	0.0	100(14)
専門職エリート	47.2	37.7	5.7	0.0	3.8	5.7	100(53)
その他	18.4	55.3	5.3	0.0	11.8	9.2	100(76)
合計	23.0	50.8	11.4	1.9	10.5	2.5	100(849)

あなたが経験されてきたご職業についておうかがいします。

〔2〕あなたが初めて就かれた職業、(転職の経験がおりの方は)2番目に就かれた職業、および現在就かれている職業についてお教えてください。それぞれについて、あてはまる番号を下から選び、〔 〕に記入してください。(該当しない方は空けておいてください)

●初めて就かれた職業〔 〕 ●2番目に就かれた職業〔 〕 ●現在就かれている職業〔 〕

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 農林漁業 | 6. 経営者 |
| 2. 公務員(教員を除く) | 6a. 従業員500人未満の企業経営者 |
| 3. 教員 | 6b. 従業員500-999人の企業経営者 |
| 3a. 4年制大学 | 6c. 従業員1000人以上の企業経営者 |
| 3b. 短期大学・高等専門学校 | 7. 上級ホワイトカラー |
| 3c. 高等学校 | (事務・販売・技術などで課長以上) |
| 3d. 小学校・中学校 | 7a. 従業員500人未満の企業雇用者 |
| 4. 議員 | 7b. 従業員500-999人の企業雇用者 |
| 4a. 国会議員 | 7c. 従業員1000人以上の企業雇用者 |
| 4b. 都道府県議会・市議会議員 | 8. 一般ホワイトカラー |
| 4c. 町村議会議員 | 8a. 従業員500人未満の企業雇用者 |
| 5. 自由業 | 8b. 従業員500-999人の企業雇用者 |
| 5a. 医師,看護婦など医療関係 | 8c. 従業員1000人以上の企業雇用者 |
| 5b. 弁護士など法曹関係 | 9. ブルーカラー(生産工程従事者など) |
| 5c. マスコミ関係,芸術家,作家など文化関係 | 9a. 従業員500人未満の企業雇用者 |
| 5d. その他〔具体的に 〕 | 9b. 従業員500-999人の企業雇用者 |
| | 9c. 従業員1000人以上の企業雇用者 |
| | 10. その他〔具体的に 〕 |

初めて就いた職業

	中業 小W 企C	大W 企C 業	そW のC 他	政公 治務 家員	教教 授育 家	芸 術 家	専 門 職	そ の 他	%(N)
大企業ビジネス・エリート	3.6	6.6	1.2	10.2	0.0	0.0	1.2	77.2	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	8.4	9.7	0.0	10.4	3.9	1.3	1.3	64.9	100(308)
その他ビジネス・エリート	14.5	13.4	4.7	15.1	1.7	1.7	0.0	48.8	100(172)
政治家・官僚	5.3	5.3	0.0	57.9	5.3	5.3	10.5	10.5	100(19)
教授・教育家	2.5	5.0	0.0	15.0	60.0	2.5	10.0	5.0	100(40)
芸術家	0.0	0.0	0.0	21.4	7.1	50.0	0.0	21.4	100(14)
専門職エリート	5.7	3.8	0.0	22.6	7.5	0.0	34.0	26.4	100(53)
その他	6.6	21.1	1.3	14.5	10.5	3.9	1.3	40.8	100(76)
合計	7.9	10.0	1.3	13.9	6.2	2.2	3.7	54.8	100(849)

2番目に就いた職業

	中業 小W 企C	大W 企C 業	そW のC 他	政公 治務 家員	教教 授育 家	芸 術 家	専 門 職	そ の 他	%(N)
大企業ビジネス・エリート	4.8	26.3	0.6	0.6	0.6	0.0	0.0	67.1	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	33.8	12.0	2.3	2.6	0.6	1.3	0.3	47.4	100(308)
その他ビジネス・エリート	16.3	11.0	8.1	0.0	1.7	0.6	0.0	62.2	100(172)
政治家・官僚	0.0	5.3	0.0	26.3	5.3	0.0	0.0	63.2	100(19)
教授・教育家	0.0	2.5	0.0	5.0	57.5	0.0	5.0	30.0	100(40)
芸術家	14.3	7.1	7.1	14.3	7.1	14.3	0.0	35.7	100(14)
専門職エリート	7.5	1.9	0.0	9.4	11.3	0.0	17.0	52.8	100(53)
その他	23.7	7.9	2.6	2.6	9.2	0.0	2.6	51.3	100(76)
合計	19.3	13.0	2.9	2.9	5.2	0.7	1.6	54.3	100(849)

〔3〕あなたが、今の職業・地位への道を歩もうと決められたのはいつ頃でしょうか。下にあげた時期の中からあてはまるものを1つ選んで、番号を○で囲んでください。

- | | |
|-------------------|----------|
| 1. 小学生くらいの頃（～12歳） | 6. 30代の頃 |
| 2. 中学生くらいの頃（～15歳） | 7. 40代の頃 |
| 3. 高校生くらいの頃（～18歳） | 8. 50代の頃 |
| 4. 大学生くらいの頃（～22歳） | 9. それ以降 |
| 5. 青年期（20代の頃） | |

	小 学 生	中 学 生	高 校 生	大 学 生	青 年 期	30 代	40 代	50 代	そ 以 上	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	1.2	3.6	9.6	47.9	12.6	9.6	6.0	7.2	1.8	0.6	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	4.2	4.5	8.1	27.6	22.7	11.4	6.5	9.1	5.5	0.3	100(308)
その他ビジネス・エリート	1.7	6.4	7.6	41.9	25.0	4.7	5.8	5.2	1.7	0.0	100(172)
政治家・官僚	0.0	0.0	21.1	21.1	0.0	10.5	5.3	31.6	5.3	5.3	100(19)
教授・教育家	0.0	17.5	15.0	42.5	12.5	5.0	2.5	5.0	0.0	0.0	100(40)
芸術家	0.0	0.0	0.0	42.9	21.4	28.6	7.1	0.0	0.0	0.0	100(14)
専門職エリート	7.5	7.5	13.2	22.6	22.6	15.1	3.8	5.7	1.9	0.0	100(53)
その他	2.6	7.9	7.9	31.6	25.0	9.2	2.6	0.0	0.0	13.2	100(76)
合計	2.8	5.7	9.1	35.3	20.4	9.7	5.5	7.1	2.9	1.5	100(849)

[4] あなたが、現在のような地位を築かれる上で重要だったのはどのようなことでしょうか。
 次あげるそれぞれについて、あなたのお考えに近いものを選んで、その番号に○をして
 ください。

	非重要 である	まあ 重要 である	あまり 重要 でない	全 重要 でない
1. たゆまない努力	1	2	3	4
2. 知的能力	1	2	3	4
3. ものごとにクヨクヨしない性格	1	2	3	4
4. 社会のために生きようとする使命感	1	2	3	4
5. めぐまれた人間関係	1	2	3	4
6. 運の強さ	1	2	3	4
7. 有利な出身階層や世襲財産	1	2	3	4
8. 父の期待や援助	1	2	3	4
9. 母の期待や援助	1	2	3	4
10. 有利な学歴	1	2	3	4
11. 巨大組織の力（例えば大企業）	1	2	3	4
12. 配偶者の社会的地位や財産	1	2	3	4
13. 親の教えや躾	1	2	3	4

(1) たゆまない努力

	非重要 である	まあ 重要	あまり 重要 でない	全重要 でない	N A	% (N)
大企業ビジネス・エリート	71.3	26.3	2.4	0.0	0.0	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	69.5	25.6	1.9	0.3	2.6	100(308)
その他ビジネス・エリート	72.1	25.0	1.2	0.0	1.7	100(172)
政治家・官僚	73.7	21.1	0.0	0.0	5.3	100(19)
教授・教育家	82.5	17.5	0.0	0.0	0.0	100(40)
芸術家	64.3	35.7	0.0	0.0	0.0	100(14)
専門職エリート	62.3	26.4	3.8	1.9	5.7	100(53)
その他	51.3	32.9	0.0	0.0	15.8	100(76)
合計	68.9	26.0	1.6	0.2	3.2	100(849)

(2) 知的能力

	非重要 である	まあ 重要	あまり 重要 でない	全重要 でない	N A	% (N)
大企業ビジネス・エリート	28.7	64.1	4.8	0.0	2.4	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	21.1	65.6	7.1	0.0	6.2	100(308)
その他ビジネス・エリート	27.9	61.0	5.2	0.6	5.2	100(172)
政治家・官僚	26.3	63.2	5.3	0.0	5.3	100(19)
教授・教育家	37.5	55.0	0.0	2.5	5.0	100(40)
芸術家	64.3	35.7	0.0	0.0	0.0	100(14)
専門職エリート	42.5	47.2	1.9	0.0	9.4	100(53)
その他	23.7	52.6	5.3	0.0	18.4	100(76)
合計	27.1	61.0	5.3	0.2	6.4	100(849)

(3) ものごとにクヨクヨしない性格

	非重 常要 にで ある	ま あ 重 要	あ 重 要 り で ない	全 重 く 要 で ない	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	28.1	49.1	19.2	1.2	2.4	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	22.4	50.6	18.5	1.9	6.5	100(308)
その他ビジネス・エリート	22.1	46.5	22.7	1.2	7.6	100(172)
政治家・官僚	10.5	57.9	21.1	5.3	5.3	100(19)
教授・教育家	15.0	30.0	32.5	7.5	15.0	100(40)
芸術家	7.1	42.9	42.9	0.0	7.1	100(14)
専門職エリート	9.4	39.6	32.1	5.7	13.2	100(53)
その他	15.8	43.4	18.4	0.0	22.4	100(76)
合計	21.2	47.2	21.4	2.0	8.1	100(849)

(4) 社会のために生きようとする使命感

	非重 常要 にで ある	ま あ 重 要	あ 重 要 り で ない	全 重 く 要 で ない	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	22.2	46.1	24.0	4.2	3.6	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	26.0	43.5	21.8	2.6	6.2	100(308)
その他ビジネス・エリート	27.9	44.2	20.9	0.6	6.4	100(172)
政治家・官僚	52.6	36.8	10.5	0.0	0.0	100(19)
教授・教育家	42.5	32.5	10.0	5.0	10.0	100(40)
芸術家	21.4	64.3	7.1	7.1	0.0	100(14)
専門職エリート	43.4	34.0	7.5	5.7	9.4	100(53)
その他	26.3	43.4	7.9	2.6	19.7	100(76)
合計	28.0	43.2	18.8	2.8	7.1	100(849)

(5) めぐまれた人間関係

	非重 常要 にで ある	ま あ 重 要	あ 重 要 り で ない	全 重 く 要 で ない	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	36.5	53.9	6.6	0.6	2.4	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	39.3	50.3	6.2	1.0	3.2	100(308)
その他ビジネス・エリート	40.7	50.0	5.2	0.6	3.5	100(172)
政治家・官僚	42.1	42.1	10.5	0.0	5.3	100(19)
教授・教育家	37.5	42.5	12.5	0.0	7.5	100(40)
芸術家	21.4	57.1	14.3	7.1	0.0	100(14)
専門職エリート	26.4	43.4	18.9	0.0	11.3	100(53)
その他	28.9	42.1	9.2	0.0	19.7	100(76)
合計	37.0	49.4	7.7	0.7	5.3	100(849)

(6) 運の強さ

	非重 常要 にで ある	ま あ 重 要	あ 重 要 り で ない	全 重 く 要 で ない	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	26.9	52.1	16.8	0.6	3.6	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	27.6	47.4	16.9	3.2	4.9	100(308)
その他ビジネス・エリート	34.9	43.0	15.1	2.3	4.7	100(172)
政治家・官僚	10.5	52.6	31.6	0.0	5.3	100(19)
教授・教育家	17.5	35.0	27.5	7.5	12.5	100(40)
芸術家	21.4	50.0	14.3	14.3	0.0	100(14)
専門職エリート	18.9	41.5	26.4	3.8	9.4	100(53)
その他	19.7	42.1	15.8	2.6	19.7	100(76)
合計	26.7	46.2	17.8	2.8	6.5	100(849)

(7) 有利な出身階層や世襲財産

	非重 常要 にで ある	ま あ 重 要	あ 重 要 り で ない	全 重 く 要 で ない	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	0.0	7.8	44.3	41.9	6.0	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	1.0	15.6	40.6	35.7	7.1	100(308)
その他ビジネス・エリート	1.2	15.7	39.0	36.0	8.1	100(172)
政治家・官僚	10.5	0.0	42.1	42.1	5.3	100(19)
教授・教育家	2.5	2.5	40.0	42.5	12.5	100(40)
芸術家	7.1	7.1	57.1	28.6	0.0	100(14)
専門職エリート	1.9	11.3	37.7	34.0	15.1	100(53)
その他	5.3	7.9	27.6	32.9	26.3	100(76)
合計	1.6	12.0	39.9	37.0	9.4	100(849)

(8) 父の期待や援助

	非重 常要 にで ある	ま あ 重 要	あ 重 要 り で ない	全 重 く 要 で ない	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	0.0	9.0	43.1	41.3	6.6	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	3.6	14.3	36.0	39.0	7.1	100(308)
その他ビジネス・エリート	2.9	15.7	35.5	39.0	7.0	100(172)
政治家・官僚	5.3	5.3	42.1	42.1	5.3	100(19)
教授・教育家	5.0	17.5	32.5	32.5	12.5	100(40)
芸術家	0.0	35.7	28.6	35.7	0.0	100(14)
専門職エリート	5.7	24.5	24.5	32.1	13.2	100(53)
その他	2.6	11.8	27.6	30.3	27.6	100(76)
合計	2.8	14.3	35.7	37.9	9.3	100(849)

(9) 母の期待や援助

	非重 常要 に あ る	ま あ 重 要	あ 重 要 り で な い	全 重 く 要 で な い	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	1.2	12.0	41.9	38.9	6.0	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	2.9	14.0	35.7	39.3	8.1	100(308)
その他ビジネス・エリート	4.7	14.5	36.6	37.2	7.0	100(172)
政治家・官僚	10.5	5.3	36.8	42.1	5.3	100(19)
教授・教育家	2.5	20.0	37.5	27.5	12.5	100(40)
芸術家	7.1	21.4	21.4	50.0	0.0	100(14)
専門職エリート	5.7	26.4	26.4	26.4	15.1	100(53)
その他	1.3	15.8	26.3	27.6	28.9	100(76)
合計	3.2	14.8	35.6	36.6	9.8	100(849)

(10) 有利な学歴

	非重 常要 に あ る	ま あ 重 要	あ 重 要 り で な い	全 重 く 要 で な い	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	4.2	48.5	35.3	7.2	4.8	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	4.9	35.7	40.9	11.7	6.8	100(308)
その他ビジネス・エリート	5.2	40.1	40.7	7.6	6.4	100(172)
政治家・官僚	10.5	36.8	36.8	10.5	5.3	100(19)
教授・教育家	22.5	55.0	15.0	0.0	7.5	100(40)
芸術家	0.0	28.6	50.0	21.4	0.0	100(14)
専門職エリート	11.3	35.8	37.7	3.8	11.3	100(53)
その他	7.9	36.8	23.7	6.6	25.0	100(76)
合計	6.4	40.0	36.9	8.6	8.1	100(849)

(11) 巨大組織の力(例えば大企業)

	非重 常要 に あ る	ま あ 重 要	あ 重 要 り で な い	全 重 く 要 で な い	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	5.4	32.3	33.5	24.0	4.8	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	5.2	27.6	32.5	26.6	8.1	100(308)
その他ビジネス・エリート	5.2	28.5	36.6	20.9	8.7	100(172)
政治家・官僚	10.5	26.3	31.6	21.1	10.5	100(19)
教授・教育家	0.0	12.5	15.0	57.5	15.0	100(40)
芸術家	0.0	21.4	21.4	57.1	0.0	100(14)
専門職エリート	0.0	13.2	28.3	43.4	15.1	100(53)
その他	3.9	23.7	19.7	23.7	28.9	100(76)
合計	4.6	26.6	31.1	27.6	10.1	100(849)

(12) 配偶者の社会的地位や財産

	非重 常要 に あ る	ま あ 重 要	あ 重 要 り で な い	全 重 く 要 で な い	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	0.0	3.6	25.7	64.7	6.0	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	0.3	5.5	27.6	58.8	7.8	100(308)
その他ビジネス・エリート	0.6	5.2	24.4	61.6	8.1	100(172)
政治家・官僚	5.3	5.3	26.3	57.9	5.3	100(19)
教授・教育家	0.0	0.0	35.0	52.5	12.5	100(40)
芸術家	0.0	7.1	14.3	78.6	0.0	100(14)
専門職エリート	0.0	5.7	24.5	54.7	15.1	100(53)
その他	1.3	3.9	17.1	50.0	27.6	100(76)
合計	0.5	4.7	25.6	59.5	9.8	100(849)

(13) 親の教えや躾

	非重 常要 に あ る	ま あ 重 要	あ 重 要 り で な い	全 重 く 要 で な い	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	16.2	50.3	20.4	8.4	4.8	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	20.5	50.6	16.9	6.8	5.2	100(308)
その他ビジネス・エリート	18.6	52.9	17.4	5.8	5.2	100(172)
政治家・官僚	21.1	36.8	21.1	15.8	5.3	100(19)
教授・教育家	20.0	42.5	20.0	5.0	12.5	100(40)
芸術家	28.6	42.9	14.3	14.3	0.0	100(14)
専門職エリート	20.8	41.5	18.9	5.7	13.2	100(53)
その他	7.9	50.0	13.2	6.6	22.4	100(76)
合計	18.3	49.6	17.7	7.1	7.4	100(849)

あなたが持っておられるお考えについておたずねします。

〔5〕次に掲げる意見について、あなたのお考えに近いものを選び、番号を○で囲んでください。

	強く 賛成	やや 賛成	やや 反対	強く 反対
1. 男女雇用機会均等法の成立により雇用面での女性差別はほぼ解決された	1	2	3	4
2. 福祉政策の拡充が財政赤字を引き起こしている	1	2	3	4
3. 職場での採用や昇進は学歴に基づいて行われるべきである	1	2	3	4
4. 現在の大学間の格差をなくすべきである	1	2	3	4
5. 人間の能力には個人差があるから全く平等な教育などありえない	1	2	3	4
6. 生まれつきの能力の差は努力だけではいかんともしがたい	1	2	3	4
7. 差別や貧困の原因は主に社会制度にある	1	2	3	4
8. 日本は軍事力を増強すべきである	1	2	3	4
9. 日本国憲法は時代にあわなくなったので改憲すべきである	1	2	3	4
10. 女性の社会進出をもっと増やすために立法措置が必要である	1	2	3	4
11. 子どもに手がかかなくなるまでは母親が育児に専念すべきである	1	2	3	4
12. 母性保護措置は女性の就業機会を制限しているから全廃すべきである	1	2	3	4
13. 国を愛する若者が減ったのは嘆かわしいことである	1	2	3	4
14. 地球環境問題はこれからますます深刻になり、人類の存亡にかかわる	1	2	3	4
15. 天皇制は日本の政治的・文化的伝統として尊重すべきである	1	2	3	4
16. 日本の経済力は多少の波はあっても今後も揺るがないだろう	1	2	3	4
17. 仕事上ものごとを考えたり人をまとめたりする能力は、生まれつき男性のほうがすぐれている	1	2	3	4
18. 日本は外国人労働者を原則として受け入れるべきである	1	2	3	4
19. 貿易摩擦に関するアメリカの日本批判の多くは不当である	1	2	3	4
20. 社会主義体制の崩壊は、資本主義の正当性を証明した	1	2	3	4

(1) 男女雇用機会均等法

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	5.4	42.5	44.9	4.8	2.4	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	2.9	54.9	35.4	4.5	2.3	100(308)
その他ビジネス・エリート	7.0	50.0	39.5	0.6	2.9	100(172)
政治家・官僚	5.3	57.9	31.6	5.3	0.0	100(19)
教授・教育家	5.0	45.0	35.0	10.0	5.0	100(40)
芸術家	7.1	35.7	50.0	0.0	7.1	100(14)
専門職エリート	5.7	47.2	28.3	15.1	3.8	100(53)
その他	1.3	53.9	32.9	5.3	6.6	100(76)
合計	4.5	50.2	37.6	4.7	3.1	100(849)

(2) 福祉政策

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	6.0	34.7	47.9	8.4	3.0	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	3.9	46.4	38.0	7.8	3.9	100(308)
その他ビジネス・エリート	4.1	50.0	38.4	4.7	2.9	100(172)
政治家・官僚	0.0	42.1	26.3	31.6	0.0	100(19)
教授・教育家	5.0	17.5	40.0	30.0	7.5	100(40)
芸術家	7.1	14.3	57.1	14.3	7.1	100(14)
専門職エリート	3.8	43.4	32.1	17.0	3.8	100(53)
その他	0.0	35.5	39.5	15.8	9.2	100(76)
合計	4.0	41.7	39.9	10.2	4.1	100(849)

(3) 職場での採用や昇進

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	0.0	9.6	49.1	38.9	2.4	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	0.0	9.1	49.7	38.0	3.2	100(308)
その他ビジネス・エリート	0.0	11.0	50.0	37.2	1.7	100(172)
政治家・官僚	0.0	10.5	42.1	47.4	0.0	100(19)
教授・教育家	0.0	12.5	45.0	40.0	2.5	100(40)
芸術家	0.0	7.1	35.7	57.1	0.0	100(14)
専門職エリート	1.9	9.4	39.6	45.3	3.8	100(53)
その他	1.3	17.1	32.9	44.7	3.9	100(76)
合計	0.2	10.5	46.9	39.7	2.7	100(849)

(4) 大学間格差

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	16.2	34.1	34.7	12.6	2.4	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	11.4	40.9	31.5	12.7	3.6	100(308)
その他ビジネス・エリート	19.8	39.5	30.2	7.6	2.9	100(172)
政治家・官僚	15.8	52.6	15.8	10.5	5.3	100(19)
教授・教育家	32.5	35.0	22.5	7.5	2.5	100(40)
芸術家	14.3	42.9	35.7	0.0	7.1	100(14)
専門職エリート	18.9	30.2	30.2	17.0	3.8	100(53)
その他	22.4	40.8	21.1	7.9	7.9	100(76)
合計	16.6	38.6	30.2	11.0	3.7	100(849)

(5) 平等な教育などありえない

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	43.7	47.9	4.2	2.4	1.8	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	39.3	52.6	4.5	0.6	2.9	100(308)
その他ビジネス・エリート	36.0	55.2	5.2	1.2	2.3	100(172)
政治家・官僚	26.3	42.1	26.3	5.3	0.0	100(19)
教授・教育家	37.5	52.5	10.0	0.0	0.0	100(40)
芸術家	42.9	42.9	0.0	7.1	7.1	100(14)
専門職エリート	39.6	49.1	1.9	7.5	1.9	100(53)
その他	30.3	57.9	7.9	0.0	3.9	100(76)
合計	38.4	52.1	5.4	1.6	2.5	100(849)

(6) 能力の差は努力だけではいかんともしがたい

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	10.8	52.7	26.3	9.0	1.2	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	12.3	48.7	27.3	9.1	2.6	100(308)
その他ビジネス・エリート	9.9	44.8	34.9	9.3	1.2	100(172)
政治家・官僚	5.3	36.8	31.6	26.3	0.0	100(19)
教授・教育家	10.0	52.5	27.5	7.5	2.5	100(40)
芸術家	35.7	28.6	14.3	14.3	7.1	100(14)
専門職エリート	13.2	54.7	15.1	15.1	1.9	100(53)
その他	14.5	56.6	22.4	3.9	2.6	100(76)
合計	11.9	49.4	27.3	9.4	2.0	100(849)

(7) 差別や貧困の原因は社会制度

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	3.0	34.1	49.1	10.8	3.0	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	3.2	31.8	51.0	11.0	2.9	100(308)
その他ビジネス・エリート	5.2	33.1	44.2	14.5	2.9	100(172)
政治家・官僚	10.5	36.8	42.1	10.5	0.0	100(19)
教授・教育家	15.0	32.5	47.5	5.0	0.0	100(40)
芸術家	0.0	21.4	57.1	14.3	7.1	100(14)
専門職エリート	9.4	24.5	52.8	7.5	5.7	100(53)
その他	6.6	31.6	39.5	14.5	7.9	100(76)
合計	4.9	32.0	48.1	11.5	3.4	100(849)

(8) 軍事力を増強すべき

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	3.0	26.3	42.5	25.1	3.0	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	2.9	25.0	39.3	29.5	3.2	100(308)
その他ビジネス・エリート	4.1	22.7	43.0	27.9	2.3	100(172)
政治家・官僚	0.0	10.5	42.1	47.4	0.0	100(19)
教授・教育家	0.0	20.0	27.5	50.0	2.5	100(40)
芸術家	0.0	14.3	28.6	50.0	7.1	100(14)
専門職エリート	3.8	15.1	35.8	43.4	1.9	100(53)
その他	6.6	17.1	34.2	36.8	5.3	100(76)
合計	3.3	22.7	39.3	31.6	3.1	100(849)

(9) 改憲すべき

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	21.6	46.7	18.6	11.4	1.8	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	23.1	48.4	18.2	8.8	1.6	100(308)
その他ビジネス・エリート	20.9	43.6	25.6	8.1	1.7	100(172)
政治家・官僚	5.3	42.1	15.8	36.8	0.0	100(19)
教授・教育家	17.5	22.5	27.5	32.5	0.0	100(40)
芸術家	21.4	14.3	21.4	35.7	7.1	100(14)
専門職エリート	22.6	18.9	24.5	32.1	1.9	100(53)
その他	23.7	35.5	17.1	21.1	2.6	100(76)
合計	21.7	42.2	20.5	13.9	1.8	100(849)

(11) 育児に専念

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	22.8	49.1	24.0	1.8	2.4	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	28.6	52.6	14.6	2.6	1.6	100(308)
その他ビジネス・エリート	26.2	51.7	18.0	2.3	1.7	100(172)
政治家・官僚	26.3	42.1	21.1	10.5	0.0	100(19)
教授・教育家	17.5	60.0	17.5	5.0	0.0	100(40)
芸術家	21.4	42.9	28.6	0.0	7.1	100(14)
専門職エリート	30.2	54.7	11.3	1.9	1.9	100(53)
その他	21.1	57.9	14.5	0.0	6.6	100(76)
合計	25.7	52.3	17.4	2.4	2.2	100(849)

(13) 国を愛する

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	29.3	51.5	15.6	1.8	1.8	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	44.8	40.9	11.4	1.9	1.0	100(308)
その他ビジネス・エリート	42.4	46.5	8.7	1.2	1.2	100(172)
政治家・官僚	31.6	47.4	10.5	5.3	5.3	100(19)
教授・教育家	40.0	32.5	17.5	10.0	0.0	100(40)
芸術家	42.9	35.7	14.3	0.0	7.1	100(14)
専門職エリート	45.3	34.0	11.3	5.7	3.8	100(53)
その他	40.8	43.4	7.9	2.6	5.3	100(76)
合計	40.4	43.6	11.7	2.5	1.9	100(849)

(15) 天皇制

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	31.1	56.9	7.8	2.4	1.8	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	37.7	47.4	9.7	4.2	1.0	100(308)
その他ビジネス・エリート	33.1	54.1	10.5	1.7	0.6	100(172)
政治家・官僚	42.1	47.4	5.3	5.3	0.0	100(19)
教授・教育家	40.0	37.5	12.5	10.0	0.0	100(40)
芸術家	42.9	28.6	14.3	14.3	0.0	100(14)
専門職エリート	34.0	39.6	13.2	11.3	1.9	100(53)
その他	40.8	35.5	11.8	7.9	3.9	100(76)
合計	35.8	48.3	10.0	4.6	1.3	100(849)

(10) 女性の社会進出

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	4.2	43.1	41.9	7.8	3.0	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	2.9	43.2	46.1	4.9	2.9	100(308)
その他ビジネス・エリート	5.2	43.6	44.2	4.1	2.9	100(172)
政治家・官僚	26.3	42.1	21.1	5.3	5.3	100(19)
教授・教育家	12.5	30.0	52.5	0.0	5.0	100(40)
芸術家	0.0	50.0	42.9	0.0	7.1	100(14)
専門職エリート	13.2	24.5	52.8	5.7	3.8	100(53)
その他	6.6	47.4	36.8	1.3	7.9	100(76)
合計	5.5	41.9	44.2	4.7	3.7	100(849)

(12) 母性保護措置全廃

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	1.8	34.7	55.7	5.4	2.4	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	2.6	30.5	53.2	8.8	4.9	100(308)
その他ビジネス・エリート	2.9	36.6	52.3	4.7	3.5	100(172)
政治家・官僚	0.0	21.1	47.4	26.3	5.3	100(19)
教授・教育家	2.5	27.5	55.0	10.0	5.0	100(40)
芸術家	0.0	14.3	71.4	7.1	7.1	100(14)
専門職エリート	3.8	17.0	60.4	13.2	5.7	100(53)
その他	0.0	23.7	57.9	6.6	11.8	100(76)
合計	2.2	30.5	54.7	7.8	4.8	100(849)

(14) 地球環境問題

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	56.3	38.9	3.0	0.6	1.2	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	58.1	35.4	4.2	0.3	1.9	100(308)
その他ビジネス・エリート	65.1	32.0	1.7	0.6	0.6	100(172)
政治家・官僚	68.4	26.3	5.3	0.0	0.0	100(19)
教授・教育家	70.0	25.0	2.5	2.5	0.0	100(40)
芸術家	78.6	14.3	0.0	0.0	7.1	100(14)
専門職エリート	66.0	26.4	1.9	5.7	0.0	100(53)
その他	63.2	28.9	3.9	1.3	2.6	100(76)
合計	61.2	33.2	3.2	0.9	1.4	100(849)

(16) 日本の経済力

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	12.0	61.1	22.8	3.0	1.2	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	15.3	64.6	17.9	1.6	0.6	100(308)
その他ビジネス・エリート	7.0	66.3	24.4	1.7	0.6	100(172)
政治家・官僚	10.5	68.4	21.1	0.0	0.0	100(19)
教授・教育家	2.5	60.0	35.0	2.5	0.0	100(40)
芸術家	14.3	50.0	21.4	7.1	7.1	100(14)
専門職エリート	9.4	50.9	30.2	7.5	1.9	100(53)
その他	10.5	61.8	17.1	6.6	3.9	100(76)
合計	11.4	62.8	21.8	2.8	1.2	100(849)

(17) 男性のほうが優れている

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	10.8	55.7	28.7	3.0	1.8	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	13.6	61.0	20.8	3.6	1.0	100(308)
その他ビジネス・エリート	17.4	53.5	22.7	5.2	1.2	100(172)
政治家・官僚	5.3	36.8	47.4	10.5	0.0	100(19)
教授・教育家	7.5	50.0	25.0	17.5	0.0	100(40)
芸術家	14.3	50.0	21.4	7.1	7.1	100(14)
専門職エリート	18.9	45.3	24.5	9.4	1.9	100(53)
その他	14.5	56.6	21.1	5.3	2.6	100(76)
合計	13.8	55.8	23.8	5.2	1.4	100(849)

(18) 外国人労働者

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	6.6	53.9	26.9	10.8	1.8	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	6.5	52.6	34.4	5.8	0.6	100(308)
その他ビジネス・エリート	6.4	49.4	33.7	9.9	0.6	100(172)
政治家・官僚	5.3	52.6	26.3	15.8	0.0	100(19)
教授・教育家	7.5	52.5	35.0	5.0	0.0	100(40)
芸術家	7.1	57.1	21.4	7.1	7.1	100(14)
専門職エリート	3.8	47.2	39.6	7.5	1.9	100(53)
その他	6.6	59.2	18.4	10.5	5.3	100(76)
合計	6.4	52.5	31.3	8.4	1.4	100(849)

(19) 貿易摩擦

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	17.4	51.5	29.3	0.0	1.8	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	15.6	57.1	23.4	2.6	1.3	100(308)
その他ビジネス・エリート	15.7	59.9	20.9	2.9	0.6	100(172)
政治家・官僚	15.8	52.6	26.3	5.3	0.0	100(19)
教授・教育家	17.5	52.5	30.0	0.0	0.0	100(40)
芸術家	7.1	64.3	21.4	0.0	7.1	100(14)
専門職エリート	13.2	54.7	28.3	1.9	1.9	100(53)
その他	19.7	53.9	17.1	5.3	3.9	100(76)
合計	16.1	55.9	24.1	2.2	1.5	100(849)

(20) 資本主義体制の正当性

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	18.0	57.5	19.8	3.0	1.8	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	18.5	61.0	16.2	3.2	1.0	100(308)
その他ビジネス・エリート	16.3	50.0	30.8	2.3	0.6	100(172)
政治家・官僚	5.3	68.4	21.1	5.3	0.0	100(19)
教授・教育家	7.5	50.0	30.0	12.5	0.0	100(40)
芸術家	21.4	35.7	28.6	7.1	7.1	100(14)
専門職エリート	17.0	43.4	26.4	11.3	1.9	100(53)
その他	25.0	42.1	19.7	7.9	5.3	100(76)
合計	17.7	54.5	21.8	4.5	1.5	100(849)

(6) ここに、幸せな人生をおくるにあたって、一般的に重要だと思われることがらが15あげられています。現在のあなたにとって、大切だと思われるものをこの中から5つ選んで、その番号に○をしてください。

- | | | |
|-----------------|-------------------|--------------|
| 1. 家庭の団らん | 6. 高い社会的地位 | 11. やりがいある仕事 |
| 2. 親しい近隣・友人 | 7. こころの安らぎ | 12. 趣味・教養 |
| 3. 宗教的救い | 8. 平和な世の中 | 13. 経済的豊かさ |
| 4. 子どもの成長・出世・成功 | 9. 妻の健在 | 14. 健康的な生活 |
| 5. 老後の安定 | 10. おもしろく変化に富んだ生活 | 15. 自立的な生活 |

	家団 庭ら のん	親友 し人 い	宗教 教的 的	子 の 成 も 長	老安 後定 の	社地 会位 的	心す のら やぎ	平世 和の な中	妻健 の在	変富 化人 にだ	やい りあ がる	趣教 味養	経豊 済か 的さ	健な 康生 的活	自な 立生 的活	N
大企業ビジネス・エリート	42.5	20.4	5.4	16.8	32.9	6.0	39.5	35.9	64.7	4.2	51.5	34.1	40.1	88.6	13.2	167
中小企業ビジネス・エリート	42.2	21.8	3.2	18.8	39.6	1.9	35.4	45.1	64.6	4.2	49.0	34.4	39.6	85.1	14.0	308
その他ビジネス・エリート	54.1	20.3	4.1	22.7	40.7	2.9	34.9	38.4	69.8	2.9	52.3	29.1	45.9	77.9	11.6	172
政治家・官僚	42.1	31.6	15.8	15.8	42.1	5.3	47.4	68.4	68.4	0.0	47.4	26.3	21.1	63.2	0.0	19
教授・教育家	32.5	12.5	10.0	17.5	52.5	0.0	45.0	47.5	80.0	0.0	60.0	30.0	15.0	67.5	22.5	40
芸術家	50.0	7.1	0.0	14.3	42.9	0.0	35.7	42.9	71.4	7.1	42.9	21.4	50.0	85.7	28.6	14
専門職エリート	37.7	22.6	7.5	17.0	52.8	1.9	30.2	39.6	62.3	3.8	66.0	30.2	24.5	83.0	18.9	53
その他	39.5	30.3	11.8	15.8	44.7	1.3	34.2	39.5	77.6	1.3	32.9	39.5	34.2	78.9	19.7	76
合計	43.8	21.6	5.4	18.6	40.5	2.8	36.4	41.7	67.6	3.4	50.2	32.9	38.2	82.3	14.5	849

あなたのご家族についておたずねします。

[7] ごきょうだいについてお聞きします。

(1) あなたは、長男でいらっしゃいますか。

(①長男である/②長男ではない) (あてはまる方に○をしてください)

(2) また、ごきょうだいの中で上から数えて何番目でいらっしゃいますか。

() 番目

(1) 長男かどうか

	長男	次以男下	%(N)
大企業ビジネス・エリート	46.1	53.9	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	49.0	51.0	100(308)
その他ビジネス・エリート	39.5	60.5	100(172)
政治家・官僚	52.6	47.4	100(19)
教授・教育家	52.5	47.5	100(40)
芸術家	35.7	64.9	100(14)
専門職エリート	54.7	45.3	100(53)
その他	57.9	42.1	100(76)
合計	47.7	52.3	100(849)

(2) 兄弟内での順位

	1	2	3	4	5	6~	NA	%(N)
大企業ビジネス・エリート	37.1	22.8	18.0	10.8	6.0	4.2	1.2	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	34.7	18.8	19.8	12.7	5.2	8.4	0.3	100(308)
その他ビジネス・エリート	39.0	23.8	12.8	8.1	7.0	8.1	1.2	100(172)
政治家・官僚	36.8	21.1	5.3	10.5	15.8	10.5	0.0	100(19)
教授・教育家	30.0	30.0	17.5	2.5	2.5	17.5	0.0	100(40)
芸術家	42.9	14.3	21.4	14.3	7.1	0.0	0.0	100(14)
専門職エリート	32.1	22.6	15.1	11.3	13.2	5.7	0.0	100(53)
その他	32.9	17.1	25.0	11.8	7.9	3.9	1.3	100(76)
合計	35.7	21.2	17.8	10.7	6.6	7.3	0.7	100(849)

[8] あなたの育ってきた家庭の躰についておたずねします。あてはまる番号を選んで、

○で囲んでください。

	かなり干渉する方だった	ど干渉するかという言いばた	ど放任だった	ま放任だった
1. 学校の成績や進学について	1	2	3	4
2. 友人関係について	1	2	3	4
3. 礼儀・規則を守ることにについて	1	2	3	4
4. 男らしさの躰について	1	2	3	4
5. 就職について	1	2	3	4
6. 結婚について	1	2	3	4

(1) 学校の成績や進学について

	かなり 干渉	どちら ばか干 と渉	どちら ばか放 と任	ま放 った く	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	6.6	29.9	53.9	9.0	0.6	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	10.1	28.2	51.0	10.1	0.6	100(308)
その他ビジネス・エリート	8.1	32.6	50.6	8.7	0.0	100(172)
政治家・官僚	0.0	21.1	42.1	36.8	0.0	100(19)
教授・教育家	5.0	32.5	40.0	22.5	0.0	100(40)
芸術家	0.0	21.4	57.1	21.4	0.0	100(14)
専門職エリート	15.1	20.8	43.4	20.8	0.0	100(53)
その他	6.6	26.3	48.7	15.8	2.6	100(76)
合計	8.4	28.7	50.2	12.1	0.6	100(849)

(2) 友人関係について

	かなり 干渉	どちら ばか干 と渉	どちら ばか放 と任	ま放 った く	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	1.8	14.4	66.5	16.8	0.6	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	2.3	18.8	56.5	21.8	0.6	100(308)
その他ビジネス・エリート	2.3	21.5	51.2	24.4	0.6	100(172)
政治家・官僚	5.3	5.3	57.9	31.6	0.0	100(19)
教授・教育家	2.5	17.5	47.5	32.5	0.0	100(40)
芸術家	0.0	14.3	71.4	14.3	0.0	100(14)
専門職エリート	1.9	20.8	47.2	30.2	0.0	100(53)
その他	0.0	14.5	56.6	25.0	3.9	100(76)
合計	2.0	17.8	56.7	22.7	0.8	100(849)

(3) 礼儀・規則を守ることに

	かなり 干渉	どちら ばか干 と渉	どちら ばか放 と任	ま放 った く	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	29.9	49.1	18.0	2.4	0.6	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	32.5	44.5	20.5	2.6	0.0	100(308)
その他ビジネス・エリート	32.0	46.5	19.8	1.2	0.6	100(172)
政治家・官僚	36.8	31.6	26.3	5.3	0.0	100(19)
教授・教育家	25.0	42.5	22.5	10.0	0.0	100(40)
芸術家	14.3	71.4	7.1	7.1	0.0	100(14)
専門職エリート	24.5	39.6	28.3	7.5	0.0	100(53)
その他	21.1	55.3	17.1	3.9	2.6	100(76)
合計	29.8	46.5	20.0	3.2	0.5	100(849)

(4) 男らしさの観について

	かなり 干渉	どちら ばか干 と渉	どちら ばか放 と任	ま放 った く	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	13.2	41.3	34.7	10.2	0.6	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	15.6	35.7	39.9	8.1	0.6	100(308)
その他ビジネス・エリート	13.4	33.7	42.4	9.9	0.6	100(172)
政治家・官僚	26.3	26.3	26.3	21.1	0.0	100(19)
教授・教育家	10.0	17.5	55.0	17.5	0.0	100(40)
芸術家	21.4	21.4	28.6	28.6	0.0	100(14)
専門職エリート	13.2	32.1	37.7	17.0	0.0	100(53)
その他	7.9	40.8	32.9	15.8	2.6	100(76)
合計	13.9	35.3	38.9	11.2	0.7	100(849)

(5) 就職について

	かなり 干渉	どちら ばか干 と渉	どちら ばか放 と任	ま放 った く	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	1.8	16.2	54.5	26.9	0.6	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	3.9	17.9	48.4	28.6	1.3	100(308)
その他ビジネス・エリート	6.4	19.8	48.3	25.0	0.6	100(172)
政治家・官僚	5.3	0.0	57.9	36.8	0.0	100(19)
教授・教育家	2.5	10.0	47.5	40.0	0.0	100(40)
芸術家	0.0	14.3	57.1	28.6	0.0	100(14)
専門職エリート	1.9	9.4	43.4	45.3	0.0	100(53)
その他	1.3	14.5	50.0	31.6	2.6	100(76)
合計	3.5	16.3	49.7	29.6	0.9	100(849)

(6) 結婚について

	かなり 干渉	どちら ばか干 と渉	どちら ばか放 と任	ま放 った く	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	4.8	26.9	48.5	19.2	0.6	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	4.5	26.9	45.5	21.8	1.3	100(308)
その他ビジネス・エリート	11.6	26.2	40.7	21.5	0.0	100(172)
政治家・官僚	0.0	21.1	47.4	31.6	0.0	100(19)
教授・教育家	5.0	35.0	42.5	17.5	0.0	100(40)
芸術家	7.1	21.4	57.1	14.3	0.0	100(14)
専門職エリート	5.7	22.6	50.9	20.8	0.0	100(53)
その他	6.6	36.8	31.6	23.7	1.3	100(76)
合計	6.2	27.6	44.3	21.2	0.7	100(849)

[9] あなたが15歳の時のご両親の主な職業は次のどれにあたりますか。ご両親それぞれについてあてはまる番号を下から選び、〔 〕に記入してください。

お父さまの職業=>〔 〕

お母さまの職業=>〔 〕

- | | |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 1. 農林漁業 | 7. 上級ホワイトカラー
(事務・販売・技術などで課長以上) |
| 2. 公務員(教員を除く) | 7a. 従業員500人未満の企業雇用者 |
| 3. 教員 | 7b. 従業員500-999人の企業雇用者 |
| 3a. 4年制大学 | 7c. 従業員1000人以上の企業雇用者 |
| 3b. 短期大学・高等専門学校 | 8. 一般ホワイトカラー |
| 3c. 高等学校 | 8a. 従業員500人未満の企業雇用者 |
| 3d. 小学校・中学校 | 8b. 従業員500-999人の企業雇用者 |
| 4. 議員 | 8c. 従業員1000人以上の企業雇用者 |
| 4a. 国会議員 | 9. ブルーカラー(生産工程従事者など) |
| 4b. 都道府県議会・市議会議員 | 9a. 従業員500人未満の企業雇用者 |
| 4c. 町村議会議員 | 9b. 従業員500-999人の企業雇用者 |
| 5. 自由業 | 9c. 従業員1000人以上の企業雇用者 |
| 5a. 医師,看護婦など医療関係 | 10. 主婦・無職 |
| 5b. 弁護士など法曹関係 | 11. 死去・離別等 |
| 5c. マスコミ関係,芸術家,作家など文化関係 | 12. その他(具体的に) |
| 5d. その他(具体的に) | |
| 6. 経営者 | |
| 6a. 従業員500人未満の企業経営者 | |
| 6b. 従業員500-999人の企業経営者 | |
| 6c. 従業員1000人以上の企業経営者 | |

(1) 父の職業

	中業 小W 企C	大W 企C 業	そW のC 他	政公 治務 家員	教教 授育 家	芸 術 家	専 門 職	そ の 他	無 職	死離 去別	%(N)
大企業ビジネス・エリート	21.6	16.2	4.8	13.2	5.4	1.2	4.2	20.4	1.8	11.4	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	35.7	8.4	7.8	9.7	5.5	0.3	3.6	21.1	1.6	6.2	100(308)
その他ビジネス・エリート	29.1	7.6	10.5	10.5	4.7	0.6	5.2	23.8	1.7	6.4	100(172)
政治家・官僚	21.1	0.0	5.3	26.3	10.5	0.0	5.3	21.1	10.5	0.0	100(19)
教授・教育家	22.5	5.0	7.5	10.0	12.5	2.5	12.5	12.5	2.5	12.5	100(40)
芸術家	28.6	7.1	7.1	21.4	0.0	21.4	0.0	14.3	0.0	0.0	100(14)
専門職エリート	15.1	7.5	3.8	15.1	3.8	0.0	17.0	24.5	1.9	11.3	100(53)
その他	21.1	3.9	10.5	11.8	5.3	0.0	11.8	21.1	1.3	13.2	100(76)
合計	27.9	9.0	7.7	11.7	5.5	0.9	6.0	21.2	1.9	8.2	100(849)

(2) 母の職業

	中業 小W 企C	そW のC 他	政公 治務 家員	教教 授育 家	専 門 職	そ の 他	主無 婦職	死産 去別	%(N)
大企業ビジネス・エリート	1.8	1.2	0.0	0.6	0.6	17.4	74.9	3.6	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	3.2	1.6	0.6	0.6	1.0	14.9	76.0	1.9	100(308)
その他ビジネス・エリート	2.9	5.2	0.6	0.6	2.3	19.2	68.0	1.2	100(172)
政治家・官僚	0.0	0.0	0.0	5.3	10.5	21.1	57.9	5.3	100(19)
教授・教育家	0.0	2.5	0.0	2.5	0.0	7.5	82.5	5.0	100(40)
芸術家	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	21.4	64.3	7.1	100(14)
専門職エリート	3.8	0.0	0.0	0.0	3.8	11.3	79.2	1.9	100(53)
その他	1.3	2.6	0.0	0.0	1.3	25.0	67.1	2.6	100(76)
合計	2.5	2.2	0.4	0.7	1.6	16.8	73.3	2.5	100(849)

[10] あなたがお考えになって、あなたの出身家庭の社会的・経済的地位は次のどれにあたり
ますか。下から選んで番号を○で囲んでください。

1. 上の上	3. 中の上	5. 下の上
2. 上の下	4. 中の下	6. 下の下

	上 の 上	上 の 下	中 の 上	中 の 下	下 の 上	下 の 下	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	4.8	9.6	51.5	23.4	6.6	3.0	1.2	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	1.9	12.7	50.0	26.6	6.5	1.6	0.6	100(308)
その他ビジネス・エリート	1.2	14.0	52.9	24.4	5.8	1.2	0.6	100(172)
政治家・官僚	0.0	0.0	36.8	36.8	15.8	5.3	5.3	100(19)
教授・教育家	5.0	15.0	47.5	30.0	2.5	0.0	0.0	100(40)
芸術家	0.0	14.3	64.3	14.3	0.0	7.1	0.0	100(14)
専門職エリート	0.0	11.3	49.1	22.6	13.2	1.9	1.9	100(53)
その他	3.9	13.2	51.3	22.4	6.6	0.0	2.6	100(76)
合計	2.5	12.1	50.8	25.1	6.7	1.8	1.1	100(849)

[11] あなたのご両親の最終学歴は次にあげたうちのどれでしょうか（中退も含めてください）。
ご両親それぞれについてあてはまる番号を〔 〕に記入してください。

お父さま=>〔 〕

お母さま=>〔 〕

1. 初等教育学歴〔小学校・新制中学・国民学校等〕
2. 中等教育学歴〔旧制中学・実業学校・高等女学校・旧制高校・新制高校等〕
3. 高等教育学歴〔旧制高等専門学校・高等専門学校・専門学校（専修学校専門課程） ・高等師範学校・旧制大学・新制大学・短期大学・大学院等〕
4. 不明

(1) 父の最終学歴

	初教 等育	中教 等育	高教 等育	不 明	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	25.7	23.4	48.5	0.0	2.4	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	34.4	23.4	39.6	1.6	1.0	100(308)
その他ビジネス・エリート	36.0	29.1	32.0	1.7	1.2	100(172)
政治家・官僚	42.1	36.8	15.8	0.0	5.3	100(19)
教授・教育家	35.0	20.0	42.5	2.5	0.0	100(40)
芸術家	42.9	35.7	21.4	0.0	0.0	100(14)
専門職エリート	43.4	11.3	43.4	1.9	0.0	100(53)
その他	36.8	22.4	32.9	3.9	3.9	100(76)
合計	34.2	24.0	38.8	1.5	1.5	100(849)

(2) 母の最終学歴

	初教 等育	中教 等育	高教 等育	不 明	N A	%(N)
大企業ビジネス・エリート	29.9	55.7	10.8	1.2	2.4	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	36.7	51.3	9.4	1.6	1.0	100(308)
その他ビジネス・エリート	41.3	49.4	7.0	1.7	0.6	100(172)
政治家・官僚	47.4	42.1	0.0	0.0	10.5	100(19)
教授・教育家	32.5	55.0	7.5	2.5	2.5	100(40)
芸術家	35.7	42.9	14.3	1.9	7.1	100(14)
専門職エリート	50.9	41.5	5.7	2.6	0.0	100(53)
その他	44.7	38.2	10.5	1.6	3.9	100(76)
合計	37.9	49.8	8.8	1.6	1.8	100(849)

〔12〕結婚についてお伺いします。

(1) あなたは結婚していらっしゃいますか。あてはまる番号に○をし、現在結婚されている方は後の質問にもお答えください。

- | |
|--|
| <p>1. 未婚である → [13] へすすんでください</p> <p>2. 現在結婚している
→ その結婚は (①初婚/②再婚) (あてはまる方に○をしてください)
→ その結婚は (③恋愛結婚/④見合い結婚)</p> <p>3. 離別</p> <p>4. 死別</p> |
|--|

(2) あなたが最初に結婚したのは何歳の時でしたか。=>満〔 〕歳

(3) 現在の奥様の最終学歴は次の中のどれにあたりますか(中退も含めてください)。該当する番号を○で囲んでください。

- | |
|--|
| <p>1. 初等教育学歴〔小学校・新制中学・国民学校等〕</p> <p>2. 中等教育学歴〔高等女学校・師範学校(昭和18年以前)・新制高校等〕</p> <p>3. 高等教育学歴〔高等専門学校・専門学校(専修学校専門課程)・新制大学・高等師範学校・短期大学・大学院等〕</p> |
|--|

(1) 結婚

	未婚	結婚	離別	死別	NA	%(N)
大企業ビジネス・エリート	0.0	97.0	0.0	1.2	1.8	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	0.0	95.8	0.6	3.2	0.3	100(308)
その他ビジネス・エリート	0.0	96.5	0.6	2.3	0.6	100(172)
政治家・官僚	0.0	100	0.0	0.0	0.0	100(19)
教授・教育家	2.5	92.5	0.0	5.0	0.0	100(40)
芸術家	0.0	92.9	0.0	7.1	0.0	100(14)
専門職エリート	0.0	100	0.0	0.0	0.0	100(53)
その他	0.0	88.2	1.3	7.9	2.6	100(76)
合計	0.1	95.6	0.5	2.9	0.8	100(849)

結婚者について

	初婚	再婚	NA	%(N)
大企業ビジネス・エリート	94.0	3.0	3.0	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	89.9	4.2	5.8	100(308)
その他ビジネス・エリート	87.8	6.4	5.8	100(172)
政治家・官僚	94.7	0.0	5.3	100(19)
教授・教育家	82.5	5.0	12.5	100(40)
芸術家	71.4	7.1	21.4	100(14)
専門職エリート	90.6	5.7	3.8	100(53)
その他	76.3	6.6	17.1	100(76)
合計	88.6	4.7	6.7	100(849)

恋愛か見合いか

	恋愛	見合	NA	%(N)
大企業ビジネス・エリート	38.9	49.7	11.4	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	38.0	51.9	10.1	100(308)
その他ビジネス・エリート	41.9	47.1	11.0	100(172)
政治家・官僚	63.2	36.8	0.0	100(19)
教授・教育家	35.0	55.0	10.0	100(40)
芸術家	42.9	35.7	21.4	100(14)
専門職エリート	28.3	60.4	11.3	100(53)
その他	32.9	50.0	17.1	100(76)
合計	38.4	50.4	11.2	100(849)

(2) 何歳で結婚したか

	25歳未満	25～29歳	30～34歳	35歳以上	NA	%(N)
大企業ビジネス・エリート	10.8	64.1	19.8	3.0	2.4	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	12.0	65.9	19.2	1.6	1.3	100(308)
その他ビジネス・エリート	11.6	69.8	14.5	1.2	2.9	100(172)
政治家・官僚	15.8	63.2	21.1	0.0	0.0	100(19)
教授・教育家	7.5	62.5	22.5	5.0	2.5	100(40)
芸術家	0.0	64.3	35.7	0.0	0.0	100(14)
専門職エリート	5.7	56.6	32.1	5.7	0.0	100(53)
その他	9.2	64.5	17.1	1.3	7.9	100(76)
合計	10.7	65.4	19.4	2.1	2.4	100(849)

(3) 妻の最終学歴

	初教 等育	中教 等育	高教 等育	NA	%(N)
大企業ビジネス・エリート	1.2	47.9	48.5	2.4	100(167)
中小企業ビジネス・エリート	2.6	50.0	44.8	2.6	100(308)
その他ビジネス・エリート	0.6	57.6	38.4	3.5	100(172)
政治家・官僚	0.0	68.4	26.3	5.3	100(19)
教授・教育家	0.0	47.5	47.5	5.0	100(40)
芸術家	0.0	50.0	50.0	0.0	100(14)
専門職エリート	0.0	52.8	47.2	0.0	100(53)
その他	5.3	51.3	34.2	9.2	100(76)
合計	1.8	51.7	43.2	3.3	100(849)

最後に教育に関するご意見をお聞かせ下さい。

〔13〕戦前の日本においては、国家がエリート養成のための特別な学校（例えば、旧制高校、帝国大学、陸軍士官学校、海軍兵学校、高等師範学校、等々）をつくってエリート養成に力を注いでいました。

これからの社会を担う人材を考えると、このようなエリート養成のための学校教育が必要だと思いませんか。ご意見・ご要望がございましたらお聞かせください。

☆質問は以上で終わりです。ご協力まことにありがとうございました。回答紙は同封の返信用封筒で返送していただきますよう、よろしくお願いいたします。

大阪大学人間科学部教育計画論研究室

調査責任者 麻生 誠

※調査に関するお問い合わせは

教育計画論研究室 06-877-5111

(内線6395)

☆この調査の結果は、報告書のかたちでまとめる予定です。報告書の送付を希望される方は、宛先をお書き添えください。

[おところ 〒

]

[おなまえ

]

付録2 1992年度 女性エリート調査 エリート・タイプ別集計表

女性リーダーの職業と教育に関する調査

まず、あなた自身のことについておうかがいします。

[1] 以下の事項についてお教えてください。

(1) あなたはいつお生まれになりましたか。

明治・大正・昭和〔 〕年

	～1904	1905～ 1914	1915～ 1925	1926～ 1931	1932～	N A	%(N)
ビジネス・エリート	1.4	11.6	28.3	29.0	26.8	2.9	100(138)
政治家・官僚	0.0	4.0	4.0	8.0	76.0	8.0	100(25)
教授・教育家	6.1	18.4	32.7	28.6	12.2	2.0	100(49)
芸術家	4.0	24.0	32.0	32.0	8.0	0.0	100(50)
専門職エリート	4.0	12.0	32.0	20.0	28.0	4.0	100(25)
その他	14.3	42.8	21.4	7.1	7.1	7.1	100(14)
合計	3.0	18.9	27.6	25.9	24.6	3.0	100(301)
カード・データ	5.0	16.6	30.2	21.6	26.3	0.3	100(1008)

(2) あなたは小学校時代をどこで過ごされましたか(当時の市部・郡部をお書きください)。

〔 〕都・道・府・県〔 〕市・郡部

	北海道	東北	関東	東京	北陸	甲信越	東海	近畿	大阪	中国	四国	九州	海外	N A	%(N)
ビジネス・エリート	2.9	4.3	5.1	24.6	2.9	4.3	8.7	15.9	11.6	5.1	2.9	5.8	4.3	1.4	100(138)
政治家・官僚	4.0	8.0	12.0	0.0	4.0	8.0	16.0	4.0	8.0	4.0	12.0	16.0	0.0	4.0	100(25)
教授・教育家	0.0	0.0	4.1	40.8	4.1	2.0	4.1	18.4	10.2	4.1	2.0	4.1	6.1	0.0	100(49)
芸術家	2.0	2.0	6.0	50.0	0.0	0.0	4.0	6.0	10.0	4.0	6.0	4.0	2.0	4.0	100(50)
専門職エリート	4.0	4.0	16.0	24.0	4.0	0.0	8.0	20.0	12.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	100(25)
その他	0.0	7.1	7.1	14.3	0.0	0.0	7.1	28.6	7.1	7.1	14.3	0.0	7.1	0.0	100(14)
合計	2.3	3.7	6.6	28.9	2.7	3.0	7.6	14.6	10.6	4.3	4.3	5.3	4.0	2.0	100(301)
カード・データ(出身地)	2.9	5.2	6.3	26.9	2.7	4.1	8.1	13.5	10.1	5.2	3.8	5.9	2.2	3.1	100(1008)
(現在地)	2.3	3.3	10.7	43.7	0.6	1.6	6.3	14.3	8.9	3.0	1.7	2.3	0.0	1.3	100(1008)

(ただし、「関東」とは茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川を指し、「近畿」とは滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山を指す。)

市部か郡部か

	市部	郡部	NA	%(N)
ビジネス・エリート	69.6	15.2	15.2	100(138)
政治家・官僚	68.0	28.0	4.0	100(25)
教授・教育家	65.3	12.2	22.4	100(49)
芸術家	42.0	16.0	42.0	100(50)
専門職エリート	64.0	12.0	24.0	100(25)
その他	50.0	35.7	14.3	100(14)
合計	62.8	16.6	20.6	100(301)

(3) あなたの中等教育学歴 (高等女学校・実業学校・新制高校等) でお教えてください。

あなたは〔進学した / 進学しなかった〕 (あてはまる方に○をしてください)

↳ 進学した方は学校名を〔 〕

→ その学校は {①共学 / ②別学}

	旧制高女			新制高校				師範学校	旧制実業	不明	不進学	%(N)
	官立	私立	不明	官立通	私立通	官立業	不明					
ビジネス・エリート	35.5	16.7	13.0	15.9	7.3	0.0	2.1	0.7	5.1	2.1	1.4	100(138)
政治家・官僚	12.0	0.0	4.0	68.0	8.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	100(25)
教授・教育家	36.7	24.5	14.3	6.1	8.2	0.0	2.0	2.0	0.0	4.1	2.0	100(49)
芸術家	54.0	18.0	8.0	2.0	8.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	8.0	100(50)
専門職エリート	32.0	8.0	24.0	24.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	100(25)
その他	50.0	0.0	35.7	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	100(14)
合計	37.2	15.3	13.6	16.6	7.0	0.3	1.6	0.6	2.3	2.3	3.0	100(301)

(4) あなたの最終学歴について、その学校名をお教えてください。(学部・学科・専攻なども

わかる範囲でお書き下さい) [(3)と同じ方は空けておいてください]

〔 〕 → その学校は {①共学 / ②別学}

	初等教育	中等教育	専門学校 短期大学		大 学						留学	大学院	各種学校	NA	%(N)
			私立	官立	私立	官立	早慶 大大	東大	京大	旧大					
ビジネス・エリート	0.0	39.7	22.3	7.8	8.5	4.9	3.5	1.4	0.0	1.4	0.7	0.7	4.3	3.6	100(138)
政治家・官僚	0.0	20.0	4.0	4.0	12.0	20.0	0.0	16.0	4.0	4.0	0.0	12.0	0.0	4.0	100(25)
教授・教育家	0.0	6.0	14.2	16.3	12.2	4.0	4.0	4.0	0.0	4.0	10.2	24.3	0.0	2.0	100(49)
芸術家	4.0	30.0	24.0	14.0	8.0	4.0	4.0	0.0	0.0	2.0	4.0	0.0	2.0	4.0	100(50)
専門職エリート	0.0	4.0	32.0	4.0	24.0	4.0	0.0	0.0	0.0	16.0	0.0	16.0	0.0	0.0	100(25)
その他	0.0	35.7	7.1	21.4	7.1	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	14.2	0.0	0.0	100(14)
合計	0.7	27.9	19.9	10.2	10.6	5.9	2.9	2.9	0.3	5.0	2.6	5.2	2.2	3.0	100(301)
カード・データ	1.7	37.5	15.4	5.5	10.1	3.6	1.8	1.7	0.2	1.6	5.4	2.7	4.0	8.9	100(1008)

高等教育進学者の専攻分野

	文学	政治学	経済学	教育学	家政学	芸術学	理工学	医学	その他	NA	非該当	%(N)
ビジネス・エリート	13.0	3.5	4.9	3.5	9.2	0.7	2.1	4.3	0.0	10.0	47.6	100(138)
政治家・官僚	16.0	12.0	8.0	16.0	0.0	0.0	0.0	8.0	8.0	20.0	20.0	100(25)
教授・教育家	34.6	4.0	10.1	6.1	4.0	18.3	2.0	6.1	0.0	8.1	6.0	100(49)
芸術家	22.0	0.0	2.0	4.0	8.0	18.0	0.0	2.0	0.0	4.0	36.0	100(50)
専門職エリート	4.0	44.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	28.0	0.0	12.0	4.0	100(25)
その他	42.6	0.0	0.0	14.3	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	35.7	100(14)
合計	18.5	7.1	6.2	4.2	6.7	6.7	1.2	6.1	0.6	8.2	33.8	100(301)

(5) あなたは留学されたことがありますか。(あてはまる方に○をしてください)

(①ある/②ない) [ない方は(6)へすすんでください]

↳ 留学経験のある方は以下の質問にお答えください。

(a) どの国へ留学されましたか。

[アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・その他〔具体的に〕]

(b) 留学された学校名をお教えてください。

[]

(c) 学位を取得された方は何の学位を取得されたのかお教えてください。

[]

	ない	ある	%(N)
ビジネス・エリート	91.3	8.7	100(138)
政治家・官僚	100	0.0	100(25)
教授・教育家	55.1	44.9	100(49)
芸術家	76.0	24.0	100(50)
専門職エリート	92.0	8.0	100(25)
その他	78.6	11.4	100(14)
合計	83.1	16.9	100(301)

留学した国

	経 験 な し	ア メ リ カ	イ ギ リ ス	フ ラ ン ス	ド イ ツ	他 カ ア 大 メ 陸 リ	他 ッ ヨ バ 大 口 陸	%(N)
ビジネス・エリート	91.3	7.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100(138)
政治家・官僚	100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100(25)
教授・教育家	55.1	22.3	8.1	4.0	8.1	2.0	0.0	100(49)
芸術家	76.0	12.0	0.0	4.0	2.0	0.0	6.0	100(50)
専門職エリート	92.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100(25)
その他	78.6	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100(14)
合計	83.1	10.4	2.0	1.2	1.6	0.3	0.9	100(301)

学校名

	経 験 し	ア メ リ カ			ヨ ー ロ ッ パ			個 人 ス レ ン	聴 講	そ の 他	%(N)
		名 門	一 般	不 明	名 門	一 般	不 明				
ビジネス・エリート	91.3	3.5	2.1	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	100(138)
政治家・官僚	100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100(25)
教授・教育家	55.1	10.2	8.0	2.0	12.2	2.0	2.0	4.0	4.1	0.0	100(49)
芸術家	76.0	4.0	2.0	0.0	4.0	2.0	0.0	2.0	6.0	4.0	100(50)
専門職エリート	92.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	100(25)
その他	78.6	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100(14)
合計	83.1	4.9	2.9	0.3	3.3	0.6	0.3	0.9	1.6	1.6	100(301)

学位の取得

	経 験 し	B. A.	M. A.	Ph. D	学 な 位 し	%(N)
ビジネス・エリート	91.3	1.4	0.0	1.4	5.6	100(138)
政治家・官僚	100	0.0	0.0	0.0	0.0	100(25)
教授・教育家	55.1	4.0	8.1	2.0	30.4	100(49)
芸術家	76.0	2.0	0.0	0.0	22.0	100(50)
専門職エリート	92.0	0.0	0.0	0.0	8.0	100(25)
その他	78.6	0.0	14.3	7.1	0.0	100(14)
合計	83.1	1.6	1.9	1.3	11.6	100(301)

(6) あなたの現在のご職業をお教えてください (できるだけ具体的にお願いします)。

[]

(7) 学校時代の勉強 (学業成績) について、あなたは同学年の中でだいたいどのくらいだったでしょうか。在学された学校すべてについて、以下からあてはまる番号を選んで [] に記入してください。

- | |
|---------------------|
| 1. よくできるほうだったと思う |
| 2. まあまあだったと思う |
| 3. あまりできないほうだったと思う |
| 4. ぜんぜんできなかったと思う |
| 5. 該当せず (進学しなかった場合) |

初等教育段階 [小学校・新制中学・国民学校等] =====> []

中等教育段階 [高等女学校・実業学校・師範学校 (昭和18年以前)

・新制高校等] =====> []

高等教育段階 [旧制高等専門学校・高等専門学校・専門学校 (専修学校専門課程)

・高等師範学校・旧制大学・新制大学・短期大学等] =====> []

初等教育段階の成績

	よ で く き る	ま あ ま あ	あ で ま き り な い	ぜ で ん き ぜ な い	N A	% (N)
ビジネス・エリート	66.7	25.4	2.2	0.0	5.8	100(138)
政治家・官僚	84.0	16.0	0.0	0.0	0.0	100(25)
教授・教育家	73.5	12.2	4.1	4.1	6.1	100(49)
芸術家	66.0	22.0	6.0	0.0	6.0	100(50)
専門職エリート	92.0	0.0	4.0	0.0	4.0	100(25)
その他	57.1	21.4	7.1	0.0	14.3	100(14)
合計	70.8	19.6	3.3	0.7	5.6	100(301)

中等教育段階の成績

	よ で く き る	ま あ ま あ	あ で ま き り な い	ぜ で ん き ぜ な い	非 該 当	N A	% (N)
ビジネス・エリート	50.7	37.0	6.5	0.7	0.7	4.3	100(138)
政治家・官僚	68.0	32.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100(25)
教授・教育家	69.4	22.4	4.1	2.0	0.0	2.0	100(49)
芸術家	48.0	28.0	12.0	0.0	8.0	4.0	100(50)
専門職エリート	72.0	12.0	12.0	0.0	0.0	4.0	100(25)
その他	64.3	21.4	7.1	0.0	0.0	7.1	100(14)
合計	57.1	29.9	7.0	0.7	1.7	3.7	100(301)

高等教育段階の成績

	よ で く き る	ま あ ま あ	あ で ま き り な い	ぜ で ん き ぜ な い	非 該 当	N A	% (N)
ビジネス・エリート	29.0	29.7	1.4	0.7	37.0	2.2	100(138)
政治家・官僚	24.0	56.0	4.0	0.0	16.0	0.0	100(25)
教授・教育家	63.3	22.4	4.1	0.0	4.1	6.1	100(49)
芸術家	34.0	22.0	4.0	0.0	34.0	6.0	100(50)
専門職エリート	52.0	32.0	8.0	0.0	4.0	4.0	100(25)
その他	35.7	14.3	0.0	0.0	35.7	14.3	100(14)
合計	37.2	28.9	3.0	0.3	26.6	4.0	100(301)

あなたが経験されてきたご職業についておうかがいします。

[2] あなたが初めて就かれた職業、(転職の経験がおありの方は)2番目に就かれた職業、および現在就かれている職業についてお教え下さい。それぞれについて、あてはまる番号を下から選び、[]に記入してください。(該当しない方は空けておいてください)

●初めて就かれた職業[] ●2番目に就かれた職業[] ●現在就かれている職業[]

1. 農林漁業	6. 経営者
2. 公務員(教員を除く)	6a. 従業員500人未満の企業経営者
3. 教員	6b. 従業員500-999人の企業経営者
3a. 4年制大学	6c. 従業員1000人以上の企業経営者
3b. 短期大学・高等専門学校	7. 上級ホワイトカラー
3c. 高等学校	(事務・販売・技術などで課長以上)
3d. 小学校・中学校	7a. 従業員500人未満の企業雇用者
4. 議員	7b. 従業員500-999人の企業雇用者
4a. 国会議員	7c. 従業員1000人以上の企業雇用者
4b. 都道府県議会・市議会議員	8. 一般ホワイトカラー
4c. 町村議会議員	8a. 従業員500人未満の企業雇用者
5. 自由業	8b. 従業員500-999人の企業雇用者
5a. 医師,看護婦など医療関係	8c. 従業員1000人以上の企業雇用者
5b. 弁護士など法曹関係	9. ブルーカラー(生産工程従事者など)
5c. マスコミ関係,芸術家,作家など文化関係	9a. 従業員500人未満の企業雇用者
5d. その他〔具体的に]	9b. 従業員500-999人の企業雇用者
	9c. 従業員1000人以上の企業雇用者
	10. その他〔具体的に]

初めて就いた職業

	中業 小W 企C	大W 企C 業	そW のC 他	政公 治務 家員	教教 授育 家	芸 術 家	専 門 職	そ の 他	%(N)
ビジネス・エリート	19.6	5.7	9.3	11.5	13.7	5.8	2.9	31.5	100(138)
政治家・官僚	4.0	8.0	0.0	20.0	36.0	12.0	4.0	16.0	100(25)
教授・教育家	2.0	0.0	0.0	8.2	67.3	8.2	4.0	10.3	100(49)
芸術家	8.0	0.0	4.0	6.0	24.0	34.0	2.0	22.0	100(50)
専門職エリート	0.0	8.0	0.0	8.0	16.0	4.0	56.0	8.0	100(25)
その他	0.0	0.0	7.1	14.3	42.7	0.0	0.0	35.9	100(14)
合計	10.9	4.0	5.3	10.7	26.9	11.0	7.3	23.9	100(301)

2番目に就いた職業

	中業 小W 企C	大W 企C 業	そW のC 他	政公 治務 家員	教教 授育 家	芸 術 家	専 門 職	そ の 他	%(N)
ビジネス・エリート	15.1	4.3	7.9	5.8	6.4	2.9	0.7	55.7	100(138)
政治家・官僚	4.0	4.0	4.0	32.0	0.0	4.0	12.0	40.0	100(25)
教授・教育家	0.0	0.0	4.0	6.1	53.0	6.1	2.0	28.8	100(49)
芸術家	2.0	0.0	0.0	0.0	16.0	14.0	4.0	64.0	100(50)
専門職エリート	4.0	4.0	0.0	24.0	4.0	4.0	16.0	44.0	100(25)
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	35.7	0.0	0.0	64.3	100(14)
合計	7.9	2.7	4.7	8.2	16.2	5.3	3.6	51.4	100(301)

[3] 現在の職業・地位への道を歩もうと決められたのはいつ頃でしょうか。下にあげた時期の中からあてはまるものを1つ選んで、番号を○で囲んでください。

- | | |
|-------------------|----------|
| 1. 小学生くらいの頃(～12歳) | 6. 30代の頃 |
| 2. 中学生くらいの頃(～15歳) | 7. 40代の頃 |
| 3. 高校生くらいの頃(～18歳) | 8. 50代の頃 |
| 4. 大学生くらいの頃(～22歳) | 9. それ以降 |
| 5. 青年期(20代の頃) | |

	小 学 生	中 学 生	高 校 生	大 学 生	青 年 期	30 代	40 代	50 代	そ 以 上	N A	%(N)
ビジネス・エリート	3.6	0.7	3.6	12.3	16.7	21.7	22.5	7.2	4.3	7.2	100(138)
政治家・官僚	4.0	0.0	4.0	0.0	8.0	0.0	48.0	28.0	8.0	0.0	100(25)
教授・教育家	16.3	10.2	10.2	20.4	20.4	2.0	8.2	0.0	6.1	6.1	100(49)
芸術家	18.0	18.0	8.0	8.0	22.0	16.0	2.0	0.0	2.0	6.0	100(50)
専門職エリート	0.0	12.0	24.0	16.0	28.0	12.0	0.0	0.0	0.0	8.0	100(25)
その他	7.1	7.1	14.3	14.3	14.3	7.1	0.0	14.3	0.0	21.4	100(14)
合計	8.0	6.3	7.6	12.3	18.3	14.3	15.9	6.3	4.0	7.0	100(301)

[4] 子どもの頃の「将来の夢」、あるいは、なりたかった人物像、就きたかった職業などをお聞かせください。(例えば、バスガイド、有名な人、お金持ち、学校の先生、新聞記者など具体的をお願いします)

{ }

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r
ビジネス・エリート	15.9	0.7	1.4	8.7	3.6	4.3	1.4	5.1	0.0	1.4	0.7	0.0	0.0	0.7	0.7	0.7	1.4	2.2
政治家・官僚	28.0	4.0	12.0	12.0	0.0	0.0	4.0	4.0	0.0	8.0	0.0	0.0	4.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0
教授・教育家	26.5	4.1	2.0	6.1	4.1	4.1	6.1	10.2	0.0	4.1	0.0	0.0	2.0	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0
芸術家	2.0	2.0	6.0	8.0	0.0	12.0	0.0	26.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	2.0
専門職エリート	24.0	8.0	4.0	4.0	0.0	4.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	18.3	2.3	3.3	7.6	2.3	5.0	2.0	9.3	0.3	2.7	0.3	0.7	0.7	1.7	0.3	1.0	0.7	1.3

	s	t	u	v	w	x	NA	%(N)
ビジネス・エリート	9.4	2.2	2.2	2.2	2.2	5.1	27.5	100(138)
政治家・官僚	4.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	8.0	100(25)
教授・教育家	6.1	2.0	2.0	0.0	0.0	6.1	10.2	100(49)
芸術家	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	6.0	26.0	100(50)
専門職エリート	4.0	8.0	0.0	0.0	4.0	8.0	16.0	100(25)
その他	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	28.6	100(14)
合計	6.6	2.0	2.0	1.0	1.3	5.3	21.9	100(301)

※ 各項目は以下の通りである。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| a 学校の先生（～中等教育） | m バスガイド |
| b 大学の先生・研究者（文系） | n アナウンサー |
| c 大学の先生・研究者（理系） | o スチュワーデス |
| d 医者 | p 運動選手 |
| e 看護婦 | q 栄養士 |
| f 作家・文筆業 | r 洋裁師・デザイナー |
| g 記者・ジャーナリスト・カメラマン | s 良妻賢母・結婚 |
| h 芸術家 | t 社会のためになる人・ボランティア |
| i 建築家 | u 自立したい、職業をもちたい |
| j 外交官など | v 経営者 |
| k 通訳 | w お金持ち |
| l 弁護士 | x その他 |

[5] あなたが現在のような地位を築かれる上で重要だったのはどのようなことでしょうか。次にあげるそれぞれについて、あなたのお考えに近いものを選んで、その番号に○をしてください。

	非重要である	まあ重要である	あまり重要でない	全く重要でない
1. たゆまない努力	1	2	3	4
2. 知的能力	1	2	3	4
3. ものごとにクヨクヨしない性格	1	2	3	4
4. 社会のために生きようとする使命感	1	2	3	4
5. めぐまれた人間関係	1	2	3	4
6. 運の強さ	1	2	3	4
7. 有利な出身階層や世襲財産	1	2	3	4
8. 父の期待や援助	1	2	3	4
9. 母の期待や援助	1	2	3	4
10. 有利な学歴	1	2	3	4
11. 巨大組織の力(例えば大企業)	1	2	3	4
12. 配偶者の社会的地位や財産	1	2	3	4
13. 親の教えや躾	1	2	3	4

(1) たゆまない努力

	非重要である	まあ重要	あまり重要でない	全く重要でない	N A	% (N)
ビジネス・エリート	67.4	21.0	2.2	0.0	9.4	100(138)
政治家・官僚	64.0	32.0	0.0	0.0	4.0	100(25)
教授・教育家	59.2	30.6	4.0	0.0	6.1	100(49)
芸術家	68.0	14.0	2.0	2.0	14.0	100(50)
専門職エリート	64.0	16.0	8.0	0.0	12.0	100(25)
その他	57.1	14.3	0.0	0.0	28.6	100(14)
合計	65.1	21.6	2.7	0.3	10.3	100(301)

(2) 知的能力

	非重要である	まあ重要	あまり重要でない	全く重要でない	N A	% (N)
ビジネス・エリート	35.5	46.4	3.6	0.0	14.5	100(138)
政治家・官僚	28.0	68.0	4.0	0.0	0.0	100(25)
教授・教育家	42.9	42.9	0.0	0.0	14.3	100(49)
芸術家	38.0	38.0	0.0	2.0	22.0	100(50)
専門職エリート	28.0	40.0	0.0	0.0	32.0	100(25)
その他	28.6	35.7	0.0	0.0	35.7	100(14)
合計	35.5	45.2	2.0	0.3	16.9	100(301)

(3) ものごとにクヨクヨしない性格

	非重要である	まあ重要	あまり重要でない	全く重要でない	N A	% (N)
ビジネス・エリート	32.6	41.3	11.6	0.0	14.5	100(138)
政治家・官僚	48.0	40.0	4.0	0.0	8.0	100(25)
教授・教育家	26.5	44.9	16.3	0.0	12.2	100(49)
芸術家	22.0	32.0	10.0	6.0	30.0	100(50)
専門職エリート	40.0	24.0	8.0	0.0	28.0	100(25)
その他	14.3	28.6	14.3	0.0	42.9	100(14)
合計	30.9	38.2	11.3	1.0	18.6	100(301)

(4) 社会のために生きようとする使命感

	非重要である	まあ重要	あまり重要でない	全く重要でない	N A	% (N)
ビジネス・エリート	47.1	31.2	8.7	1.4	11.6	100(138)
政治家・官僚	72.0	20.0	4.0	0.0	4.0	100(25)
教授・教育家	40.8	30.6	10.2	2.0	16.3	100(49)
芸術家	28.0	22.0	18.0	4.0	28.0	100(50)
専門職エリート	52.0	24.0	4.0	0.0	20.0	100(25)
その他	14.3	50.0	0.0	0.0	35.7	100(14)
合計	43.9	28.9	9.3	1.7	16.3	100(301)

(5) めぐまれた人間関係

	非重要 にである	まあ重要	あまり でない	全重 く要 でない	N A	% (N)
ビジネス・エリート	52.9	34.1	2.2	0.7	10.9	100(138)
政治家・官僚	60.0	32.0	8.0	0.0	0.0	100(25)
教授・教育家	44.9	34.7	4.1	2.0	14.3	100(49)
芸術家	30.0	36.0	4.0	4.0	26.0	100(50)
専門職エリート	36.0	28.0	8.0	0.0	28.0	100(25)
その他	21.4	35.7	0.0	0.0	42.9	100(14)
合計	45.2	33.9	3.7	1.3	15.9	100(301)

(6) 運の強さ

	非重要 にである	まあ重要	あまり でない	全重 く要 でない	N A	% (N)
ビジネス・エリート	37.7	42.0	7.2	2.2	10.9	100(138)
政治家・官僚	28.0	44.0	16.0	8.0	4.0	100(25)
教授・教育家	14.3	34.7	24.5	12.2	14.3	100(49)
芸術家	28.0	32.0	8.0	4.0	28.0	100(50)
専門職エリート	20.0	16.0	20.0	0.0	44.0	100(25)
その他	7.1	28.6	14.3	0.0	50.0	100(14)
合計	28.6	36.5	12.3	4.3	18.3	100(301)

(7) 有利な出身階層や世襲財産

	非重要 にである	まあ重要	あまり でない	全重 く要 でない	N A	% (N)
ビジネス・エリート	5.8	22.5	29.0	21.0	21.7	100(138)
政治家・官僚	0.0	4.0	24.0	64.0	8.0	100(25)
教授・教育家	0.0	14.3	34.7	32.7	18.4	100(49)
芸術家	0.0	0.0	24.0	36.0	40.0	100(50)
専門職エリート	0.0	8.0	24.0	28.0	40.0	100(25)
その他	0.0	0.0	14.3	42.9	42.9	100(14)
合計	2.7	13.6	27.6	30.6	25.6	100(301)

(8) 父の期待や援助

	非重要 にである	まあ重要	あまり でない	全重 く要 でない	N A	% (N)
ビジネス・エリート	6.5	21.0	25.4	28.3	18.8	100(138)
政治家・官僚	0.0	12.0	36.0	44.0	8.0	100(25)
教授・教育家	2.0	20.4	30.6	26.5	20.4	100(49)
芸術家	8.0	12.0	18.0	26.0	36.0	100(50)
専門職エリート	8.0	24.0	24.0	12.0	32.0	100(25)
その他	0.0	7.1	21.4	28.6	42.9	100(14)
合計	5.3	18.3	25.6	27.6	23.3	100(301)

(9) 母の期待や援助

	非重要 にである	まあ重要	あまり でない	全重 く要 でない	N A	% (N)
ビジネス・エリート	6.5	17.4	27.5	27.5	21.0	100(138)
政治家・官僚	4.0	24.0	24.0	40.0	8.0	100(25)
教授・教育家	4.1	24.5	34.7	20.4	16.3	100(49)
芸術家	12.0	14.0	18.0	24.0	32.0	100(50)
専門職エリート	16.0	36.0	16.0	4.0	28.0	100(25)
その他	0.0	7.1	28.6	21.4	42.9	100(14)
合計	7.3	19.6	25.9	24.6	22.6	100(301)

(10) 有利な学歴

	非重要 にである	まあ重要	あまり でない	全重 く要 でない	N A	% (N)
ビジネス・エリート	7.2	24.6	33.3	15.2	19.6	100(138)
政治家・官僚	4.0	32.0	44.0	16.0	4.0	100(25)
教授・教育家	16.3	55.1	12.2	4.1	12.2	100(49)
芸術家	6.0	10.0	26.0	22.0	36.0	100(50)
専門職エリート	4.0	32.0	16.0	8.0	40.0	100(25)
その他	7.1	28.6	28.6	0.0	35.7	100(14)
合計	8.0	28.6	27.9	13.3	22.3	100(301)

(11) 巨大組織の力 (例えば大企業)

	非重要 にである	まあ重要	あまり でない	全重 く要 でない	N A	% (N)
ビジネス・エリート	1.4	10.1	31.9	31.2	25.4	100(138)
政治家・官僚	12.0	4.0	32.0	44.4	8.0	100(25)
教授・教育家	0.0	2.0	22.4	59.2	16.3	100(49)
芸術家	0.0	0.0	20.0	40.0	40.0	100(50)
専門職エリート	0.0	4.0	16.0	36.0	44.0	100(25)
その他	0.0	0.0	28.6	21.4	50.0	100(14)
合計	1.7	5.6	26.9	38.2	27.6	100(301)

(12) 配偶者の社会的地位や財産

	非重要 にである	まあ重要	あまり でない	全重 く要 でない	N A	% (N)
ビジネス・エリート	10.1	15.9	21.7	31.9	20.3	100(138)
政治家・官僚	0.0	8.0	24.0	64.0	4.0	100(25)
教授・教育家	0.0	10.2	30.6	40.8	18.4	100(49)
芸術家	2.0	8.0	16.0	32.0	42.0	100(50)
専門職エリート	12.0	0.0	12.0	36.0	40.0	100(25)
その他	0.0	7.1	14.3	28.6	50.0	100(14)
合計	6.0	11.3	21.3	36.2	25.2	100(301)

(13) 親の教えや様

	非重要 に ある	まあ 重要	あ 重要 でない	全 重 く 要 で ない	N A	%(N)
ビジネス・エリート	34.8	35.5	12.3	2.9	14.5	100(138)
政治家・官僚	12.0	44.0	40.0	0.0	4.0	100(25)
教授・教育家	26.5	38.8	14.3	4.1	16.3	100(49)
芸術家	40.0	24.0	2.0	10.0	24.0	100(50)
専門職エリート	12.0	28.0	20.0	12.0	28.0	100(25)
その他	14.3	28.6	14.3	0.0	42.9	100(14)
合計	29.6	33.9	14.0	4.7	17.9	100(301)

〔6〕あなたが女性として職業や社会活動をしていく際に、次にあげるようなことは障害だと感じられましたか。以下にあげるそれぞれの項目について、あてはまる番号を○で囲んでください。

	非 常 に 感 じ た 障 害 だ と	か 感 じ た 障 害 だ と	あ 感 じ な か っ た 障 害 だ と	全 感 じ な か っ た 障 害 だ と
1. 職場がひらかれていないこと	1	2	3	4
2. 「女らしく」という雰囲気	1	2	3	4
3. 教育を受ける機会が不利だったこと	1	2	3	4
4. 「女性の幸せは結婚にある」という考え方	1	2	3	4
5. 「女性は家事・育児に専念する方がよい」という考え方	1	2	3	4
6. 家事や育児の負担	1	2	3	4
7. 女性が甘やかされて仕事に厳しさがもてないこと	1	2	3	4
8. その他〔具体的に〕	1	2	3	4

(1) 職場がひらかれていないこと

	非障 常害 に	か障 な害 り	余で りな 障い 害	全で くな 障い 害	N A	%(N)
ビジネス・エリート	13.0	22.5	38.4	12.3	13.8	100(138)
政治家・官僚	28.0	32.0	28.0	12.0	0.0	100(25)
教授・教育家	14.3	14.3	28.6	24.5	18.4	100(49)
芸術家	8.0	14.0	32.0	20.0	26.0	100(50)
専門職エリート	24.0	20.0	12.0	20.0	24.0	100(25)
その他	7.1	21.4	35.7	0.0	35.7	100(14)
合計	14.3	20.3	32.6	15.6	17.3	100(301)

(2) 「女らしく」という雰囲気

	非障 常害 に	か障 な害 り	余で りな 障い 害	全で くな 障い 害	N A	%(N)
ビジネス・エリート	3.6	13.8	42.8	25.4	14.5	100(138)
政治家・官僚	8.0	24.0	56.0	12.0	0.0	100(25)
教授・教育家	6.1	8.2	34.7	28.6	22.4	100(49)
芸術家	8.0	12.0	32.0	22.0	26.0	100(50)
専門職エリート	4.0	16.0	28.0	24.0	28.0	100(25)
その他	7.1	14.3	28.6	14.3	35.7	100(14)
合計	5.3	13.6	38.9	23.6	18.6	100(301)

(3) 教育を受ける機会が不利だったこと

	非障 常害 に	か障 な害 り	余で りな 障い 害	全で くな 障い 害	N A	%(N)
ビジネス・エリート	5.8	18.1	34.1	25.4	16.7	100(138)
政治家・官僚	4.0	32.0	28.0	36.0	0.0	100(25)
教授・教育家	10.2	18.4	14.3	32.7	24.5	100(49)
芸術家	14.0	14.0	18.0	22.0	32.0	100(50)
専門職エリート	8.0	20.0	4.0	32.0	36.0	100(25)
その他	14.3	14.3	28.6	0.0	42.9	100(14)
合計	8.3	18.6	24.9	26.2	21.9	100(301)

(4) 「女性の幸せは結婚にある」という考え方

	非障 常害 に	か障 な害 り	余で りな 障い 害	全で くな 障い 害	N A	%(N)
ビジネス・エリート	2.2	10.9	46.4	28.3	12.3	100(138)
政治家・官僚	12.0	16.0	56.0	16.0	0.0	100(25)
教授・教育家	4.1	12.2	34.7	22.4	26.5	100(49)
芸術家	10.0	14.0	24.0	20.0	32.0	100(50)
専門職エリート	12.0	8.0	24.0	20.0	36.0	100(25)
その他	7.1	14.3	35.7	7.1	35.7	100(14)
合計	5.3	12.0	39.2	23.3	19.9	100(301)

(5) 「女性は家事・育児に専念する方がよい」という考え方

	非障 常害 に	か障 な害 り	余で りな 障い 害	全で くな 障い 害	N A	%(N)
ビジネス・エリート	8.7	7.2	50.0	22.5	11.6	100(138)
政治家・官僚	24.0	28.0	32.0	16.0	0.0	100(25)
教授・教育家	10.2	8.2	32.7	24.5	24.5	100(49)
芸術家	16.0	14.0	18.0	16.0	36.0	100(50)
専門職エリート	16.0	12.0	20.0	16.0	36.0	100(25)
その他	0.0	7.1	35.7	14.3	42.9	100(14)
合計	11.6	10.6	37.2	20.3	20.3	100(301)

(6) 家事や育児の負担

	非障 常害 に	か障 な害 り	余で りな 障い 害	全で くな 障い 害	N A	%(N)
ビジネス・エリート	8.0	28.3	34.1	13.0	16.7	100(138)
政治家・官僚	32.0	36.0	28.0	4.0	0.0	100(25)
教授・教育家	12.2	20.4	28.6	10.2	28.6	100(49)
芸術家	14.0	20.0	24.0	10.0	32.0	100(50)
専門職エリート	20.0	24.0	24.0	16.0	16.0	100(25)
その他	7.1	14.3	35.7	7.1	35.7	100(14)
合計	12.6	25.2	30.2	11.3	20.6	100(301)

(7) 女性が甘やかされて仕事に厳しさがもてないこと

	非障 常害 に	か障 な害 り	余で りな 障い 害	全で くな 障い 害	N A	%(N)
ビジネス・エリート	11.6	21.7	36.2	13.8	16.7	100(138)
政治家・官僚	0.0	32.0	44.0	20.0	4.0	100(25)
教授・教育家	8.2	10.2	28.6	28.6	24.5	100(49)
芸術家	8.0	12.0	24.0	16.0	40.0	100(50)
専門職エリート	4.0	8.0	16.0	32.0	40.0	100(25)
その他	7.1	14.3	7.1	28.6	42.9	100(14)
合計	8.6	17.6	30.6	19.3	23.9	100(301)

あなたが持っておられるお考えについておたずねします。

〔7〕次に掲げる意見について、あなたのお考えに近いものを選び、番号を○で囲んでください。

	強く 賛成	やや 賛成	やや 反対	強く 反対
1. 男女雇用機会均等法の成立により雇用面での女性差別はほぼ解決された	1	2	3	4
2. 福祉政策の拡充が財政赤字を引き起こしている	1	2	3	4
3. 職場での採用や昇進は学歴に基づいて行われるべきである	1	2	3	4
4. 現在の大学間の格差をなくすべきである	1	2	3	4
5. 人間の能力には個人差があるから全く平等な教育などありえない	1	2	3	4
6. 生まれつきの能力の差は努力だけではいかんともしがたい	1	2	3	4
7. 差別や貧困の原因は主に社会制度にある	1	2	3	4
8. 日本は軍事力を増強すべきである	1	2	3	4
9. 日本国憲法は時代にあわなくなったので改憲すべきである	1	2	3	4
10. 女性の社会進出をもっと増やすために立法措置が必要である	1	2	3	4
11. 子どもに手がかからなくなるまでは母親が育児に専念すべきである	1	2	3	4
12. 母性保護措置は女性の就業機会を制限しているから全廃すべきである	1	2	3	4
13. 国を愛する若者が減ったのは嘆かわしいことである	1	2	3	4
14. 地球環境問題はこれからますます深刻になり、人類の存亡にかかわる	1	2	3	4
15. 天皇制は日本の政治的・文化的伝統として尊重すべきである	1	2	3	4
16. 日本の経済力は多少の波はあっても今後も揺るがないだろう	1	2	3	4
17. 仕事上ものごとを考えたり人をまとめたりする能力は、生まれつき男性のほうがすぐれている	1	2	3	4
18. 日本は外国人労働者を原則として受け入れるべきである	1	2	3	4
19. 貿易摩擦に関するアメリカの日本批判の多くは不当である	1	2	3	4
20. 社会主義体制の崩壊は、資本主義の正当性を証明した	1	2	3	4

(1) 男女雇用機会均等法

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	7.2	47.1	30.4	2.9	12.3	100(138)
政治家・官僚	0.0	32.0	52.0	16.0	0.0	100(25)
教授・教育家	8.2	28.6	40.8	8.2	14.3	100(49)
芸術家	4.0	28.0	26.0	8.0	34.0	100(50)
専門職エリート	4.0	32.0	32.0	12.0	20.0	100(25)
その他	7.1	42.9	21.4	0.0	28.6	100(14)
合計	6.0	38.2	32.9	6.3	16.6	100(301)

(2) 福祉政策

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	7.2	28.3	33.3	6.5	24.6	100(138)
政治家・官僚	4.0	4.0	24.0	68.0	0.0	100(25)
教授・教育家	6.1	18.4	26.5	30.6	18.4	100(49)
芸術家	0.0	22.0	20.0	28.0	30.0	100(50)
専門職エリート	4.0	8.0	28.0	28.0	32.0	100(25)
その他	7.1	21.4	21.4	14.3	35.7	100(14)
合計	5.3	21.6	28.2	21.3	23.6	100(301)

(3) 職場での採用や昇進

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	1.4	12.3	38.4	37.0	10.9	100(138)
政治家・官僚	4.0	4.0	36.0	56.0	0.0	100(25)
教授・教育家	2.0	10.2	36.7	34.7	16.3	100(49)
芸術家	2.0	2.0	18.0	56.0	22.0	100(50)
専門職エリート	4.0	12.0	32.0	36.0	16.0	100(25)
その他	7.1	7.1	42.9	14.3	28.6	100(14)
合計	2.3	9.3	34.2	40.2	14.0	100(301)

(4) 大学間格差

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	20.3	34.8	23.2	7.2	14.5	100(138)
政治家・官僚	48.0	40.0	8.0	4.0	0.0	100(25)
教授・教育家	24.5	30.6	24.5	2.0	18.4	100(49)
芸術家	22.0	16.0	14.0	14.0	34.0	100(50)
専門職エリート	20.0	24.0	16.0	16.0	24.0	100(25)
その他	21.4	21.4	21.4	0.0	35.7	100(14)
合計	23.6	29.9	19.9	7.6	18.9	100(301)

(5) 平等な教育などありえない

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	36.2	47.1	4.3	2.9	9.4	100(138)
政治家・官僚	8.0	48.0	24.0	16.0	4.0	100(25)
教授・教育家	36.7	44.9	8.2	0.0	10.2	100(49)
芸術家	30.0	36.0	6.0	6.0	22.0	100(50)
専門職エリート	32.0	28.0	24.0	0.0	16.0	100(25)
その他	7.1	57.1	7.1	0.0	28.6	100(14)
合計	31.2	43.9	8.6	3.7	12.6	100(301)

(6) 能力の差は努力だけではいかんともしがたい

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	18.8	47.1	18.1	5.1	10.9	100(138)
政治家・官僚	4.0	40.0	40.0	16.0	0.0	100(25)
教授・教育家	24.5	49.0	10.2	2.0	14.3	100(49)
芸術家	26.0	34.0	14.0	8.0	18.0	100(50)
専門職エリート	8.0	52.0	12.0	4.0	24.0	100(25)
その他	7.1	42.9	21.4	0.0	28.6	100(14)
合計	18.3	44.9	17.6	5.6	13.6	100(301)

(7) 差別や貧困の原因は社会制度

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	7.2	32.6	38.4	8.7	13.0	100(138)
政治家・官僚	44.0	24.0	32.0	0.0	0.0	100(25)
教授・教育家	18.4	28.6	32.7	2.0	18.4	100(49)
芸術家	24.0	28.0	16.0	8.0	24.0	100(50)
専門職エリート	28.0	16.0	24.0	12.0	20.0	100(25)
その他	0.0	21.4	28.6	7.1	42.9	100(14)
合計	16.3	28.6	31.6	7.0	16.6	100(301)

(8) 軍事力を増強すべき

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	1.4	13.0	34.1	39.1	12.3	100(138)
政治家・官僚	0.0	4.0	16.0	80.0	0.0	100(25)
教授・教育家	2.0	6.1	20.4	57.1	14.3	100(49)
芸術家	4.0	0.0	10.0	66.0	20.0	100(50)
専門職エリート	4.0	8.0	12.0	60.0	16.0	100(25)
その他	0.0	0.0	42.9	28.6	28.5	100(14)
合計	2.0	8.0	24.9	51.2	14.0	100(301)

(9) 改憲すべき

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	16.7	34.1	24.6	13.0	11.6	100(138)
政治家・官僚	4.0	24.0	20.0	52.0	0.0	100(25)
教授・教育家	4.1	24.5	26.5	24.5	20.4	100(49)
芸術家	18.0	12.0	12.0	42.0	16.0	100(50)
専門職エリート	8.0	24.0	12.0	36.0	20.0	100(25)
その他	7.1	21.4	21.4	21.4	28.6	100(14)
合計	12.6	26.6	21.3	25.2	14.3	100(301)

(11) 育児に専念

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	26.1	41.3	20.3	5.8	6.5	100(138)
政治家・官僚	0.0	8.0	44.0	44.0	4.0	100(25)
教授・教育家	12.2	24.5	34.7	12.2	16.3	100(49)
芸術家	18.0	22.0	26.0	12.0	22.0	100(50)
専門職エリート	16.0	12.0	32.0	24.0	16.0	100(25)
その他	14.3	28.6	21.4	7.1	28.6	100(14)
合計	18.9	29.6	26.6	12.6	12.3	100(301)

(13) 国を愛する

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	44.9	31.2	8.7	2.9	12.3	100(138)
政治家・官僚	8.0	28.0	40.0	20.0	4.0	100(25)
教授・教育家	18.4	36.7	22.4	2.0	20.4	100(49)
芸術家	30.0	28.0	6.0	10.0	26.0	100(50)
専門職エリート	24.0	20.0	16.6	20.0	20.0	100(25)
その他	21.4	28.6	7.1	0.0	42.9	100(14)
合計	32.2	30.2	13.6	6.6	17.3	100(301)

(15) 天皇制

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	38.4	28.3	16.7	4.3	12.3	100(138)
政治家・官僚	8.0	16.0	32.0	40.0	4.0	100(25)
教授・教育家	18.4	38.8	20.4	8.2	14.3	100(49)
芸術家	20.0	26.0	22.0	14.0	18.0	100(50)
専門職エリート	28.0	8.0	32.0	12.0	20.0	100(25)
その他	35.7	21.4	21.4	0.0	21.4	100(14)
合計	28.6	26.6	20.9	10.0	14.0	100(301)

(17) 男性のほうが優れている

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	6.5	34.8	29.0	21.0	8.7	100(138)
政治家・官僚	0.0	0.0	24.0	72.0	4.0	100(25)
教授・教育家	0.0	16.3	40.8	28.6	14.3	100(49)
芸術家	10.0	16.0	20.0	32.0	22.0	100(50)
専門職エリート	8.0	16.0	32.0	28.0	16.0	100(25)
その他	7.1	21.4	35.7	7.1	28.6	100(14)
合計	5.6	23.6	29.6	28.2	13.0	100(301)

(10) 女性の社会進出

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	17.4	44.2	21.7	2.2	14.5	100(138)
政治家・官僚	68.0	20.0	12.0	0.0	0.0	100(25)
教授・教育家	24.5	36.7	16.3	2.0	20.4	100(49)
芸術家	30.0	36.0	6.0	4.0	24.0	100(50)
専門職エリート	28.0	48.0	4.0	0.0	20.0	100(25)
その他	7.1	42.9	7.1	7.1	35.7	100(14)
合計	25.2	39.9	15.3	2.3	17.3	100(301)

(12) 母性保護措置全廃

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	3.6	26.1	40.6	8.0	21.7	100(138)
政治家・官僚	0.0	12.0	24.0	60.0	4.0	100(25)
教授・教育家	6.1	20.4	34.7	6.1	32.7	100(49)
芸術家	6.0	12.0	24.0	14.0	44.0	100(50)
専門職エリート	4.0	24.0	32.0	20.0	20.0	100(25)
その他	0.0	14.3	35.7	7.1	42.9	100(14)
合計	4.0	20.9	34.6	14.0	26.6	100(301)

(14) 地球環境問題

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	65.9	18.8	2.2	0.0	13.0	100(138)
政治家・官僚	64.0	32.0	0.0	0.0	4.0	100(25)
教授・教育家	57.1	24.5	0.0	0.0	18.4	100(49)
芸術家	70.0	12.0	2.0	0.0	16.0	100(50)
専門職エリート	68.0	12.0	4.0	0.0	16.0	100(25)
その他	28.6	42.9	0.0	0.0	28.6	100(14)
合計	63.5	20.3	1.7	0.0	14.6	100(301)

(16) 日本の経済力

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	10.9	48.6	23.2	2.9	14.5	100(138)
政治家・官僚	4.0	56.0	28.0	4.0	8.0	100(25)
教授・教育家	8.2	49.0	26.5	4.1	12.2	100(49)
芸術家	8.0	26.0	24.0	16.0	26.0	100(50)
専門職エリート	0.0	20.0	52.0	0.0	28.0	100(25)
その他	0.0	57.1	14.3	0.0	28.6	100(14)
合計	8.0	43.5	26.2	5.0	17.3	100(301)

(18) 外国人労働者

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	10.1	37.0	35.5	2.2	15.2	100(138)
政治家・官僚	8.0	68.0	12.0	8.0	4.0	100(25)
教授・教育家	8.2	36.7	26.5	6.1	22.4	100(49)
芸術家	14.0	40.0	18.0	6.0	22.0	100(50)
専門職エリート	16.0	32.0	20.0	16.0	16.0	100(25)
その他	0.0	35.7	35.7	0.0	28.6	100(14)
合計	10.3	39.5	27.9	5.0	17.3	100(301)

(19) 貿易摩擦

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	16.7	50.0	19.6	0.7	13.0	100(138)
政治家・官僚	44.0	40.0	12.0	0.0	4.0	100(25)
教授・教育家	10.2	44.9	22.4	2.0	20.4	100(49)
芸術家	20.0	46.0	12.0	0.0	22.0	100(50)
専門職エリート	12.0	60.0	12.0	0.0	16.0	100(25)
その他	0.0	64.3	7.1	0.0	28.6	100(14)
合計	17.3	49.2	16.9	0.7	15.9	100(301)

(20) 資本主義体制の正当性

	強賛 く成	や賛 や成	や反 や対	強反 く対	N A	%(N)
ビジネス・エリート	17.4	52.2	12.3	3.6	14.5	100(138)
政治家・官僚	12.0	24.0	32.0	28.0	4.0	100(25)
教授・教育家	4.1	30.6	36.7	6.1	22.4	100(49)
芸術家	6.0	28.0	28.0	20.0	18.0	100(50)
専門職エリート	16.0	28.0	24.0	4.0	28.8	100(25)
その他	14.3	35.7	14.3	7.1	28.6	100(14)
合計	12.6	39.5	21.6	9.0	17.3	100(301)

[8] ここに、幸せな人生をおくるにあたって一般的に重要だと思われることがらが15あげられています。現在のあなたにとって、大切だと思われるものをこの中から5つ選んで、その番号に○をしてください。

- | | | |
|-----------------|-------------------|--------------|
| 1. 家庭の団らん | 6. 高い社会的地位 | 11. やりがいある仕事 |
| 2. 親しい近隣・友人 | 7. こころの安らぎ | 12. 趣味・教養 |
| 3. 宗教的救い | 8. 平和な世の中 | 13. 経済的豊かさ |
| 4. 子どもの成長・出世・成功 | 9. 夫の成功 | 14. 健康的な生活 |
| 5. 老後の安定 | 10. おもしろく変化に富んだ生活 | 15. 自立的な生活 |

	家団 庭ら のん	親友 し人 い	宗教 教的 的	子 の 成 も 長	老安 後定 の	社地 会位 的	心す のら やぎ	平世 和の な中	夫成 の功	変富 化ん にだ	やい りあ がる	趣教 味養	経豊 済か 的さ	健な 康生 的活	自な 立生 的活	N
ビジネス・エリート	48.6	31.9	4.3	18.8	35.5	1.4	45.7	47.8	1.4	10.1	67.4	23.2	36.2	90.6	34.1	138
政治家・官僚	36.0	48.0	4.0	4.0	40.0	0.0	36.0	88.0	0.0	4.0	88.0	0.0	28.0	88.0	36.0	29
教授・教育家	42.9	28.6	16.3	4.1	51.0	0.0	63.3	61.2	2.0	0.0	77.6	12.2	16.3	73.5	42.9	49
芸術家	28.0	38.0	6.0	8.0	36.0	4.0	42.0	70.0	2.0	14.0	84.0	20.0	22.0	78.0	48.0	50
専門職エリート	44.0	24.0	4.0	8.0	40.0	4.0	36.0	56.0	4.0	16.0	72.0	24.0	16.0	80.0	32.0	25
その他	35.7	50.0	21.4	0.0	28.6	14.3	14.3	50.0	0.0	0.0	57.1	28.6	21.4	71.4	35.7	14
合計	42.2	33.9	7.3	11.6	38.5	2.3	44.9	57.8	1.7	8.6	73.4	19.3	27.6	83.7	37.9	301

[9] あなたは自分の人生について、同世代の女性と比べてどうお感じになりますか。以下にあげる中から、あなたのお気持ちにもっとも近い番号を選んで、○で囲んでください。

	非そ 常う に思 う	まそ あ う 思 う	余思 りわ そな うい	全思 くわ そな うい
1. 幸せだと思う	1	2	3	4
2. 充実していると思う	1	2	3	4
3. 恵まれてきたと思う	1	2	3	4
4. 無理をしてきたように思う	1	2	3	4
5. 身に余る地位や名譽を得すぎていると思う	1	2	3	4
6. その他〔具体的に〕	1	2	3	4

(1) 幸せだと思う

	非 そ 常 う に 思 う	ま そ あ う 思 う	余 思 り わ そ な う い	全 思 く わ そ な う い	N A	%(N)
ビジネス・エリート	49.3	40.6	2.2	0.7	7.2	100(138)
政治家・官僚	32.0	56.0	4.0	0.0	8.0	100(25)
教授・教育家	59.2	28.6	4.1	0.0	8.2	100(49)
芸術家	48.0	40.0	2.0	0.0	10.0	100(50)
専門職エリート	56.0	28.0	0.0	0.0	16.0	100(25)
その他	14.3	50.0	0.0	0.0	35.7	100(14)
合計	48.2	39.2	2.3	0.3	10.0	100(301)

(2) 充実していると思う

	非 そ 常 う に 思 う	ま そ あ う 思 う	余 思 り わ そ な う い	全 思 く わ そ な う い	N A	%(N)
ビジネス・エリート	50.0	39.1	2.2	0.0	8.7	100(138)
政治家・官僚	60.0	32.0	4.0	0.0	4.0	100(25)
教授・教育家	65.3	28.6	0.0	0.0	6.1	100(49)
芸術家	54.0	32.0	4.0	0.0	10.0	100(50)
専門職エリート	60.0	24.0	0.0	0.0	16.0	100(25)
その他	14.3	57.1	7.1	0.0	21.4	100(14)
合計	53.2	35.2	2.3	0.0	9.3	100(301)

(3) 恵まれてきたと思う

	非 そ 常 う に 思 う	ま そ あ う 思 う	余 思 り わ そ な う い	全 思 く わ そ な う い	N A	%(N)
ビジネス・エリート	42.8	47.1	2.2	0.7	7.2	100(138)
政治家・官僚	28.0	48.0	24.0	0.0	0.0	100(25)
教授・教育家	55.1	34.7	2.0	0.0	8.2	100(49)
芸術家	44.0	34.0	8.0	0.0	14.0	100(50)
専門職エリート	52.0	32.0	4.0	0.0	12.0	100(25)
その他	7.1	57.1	0.0	0.0	35.7	100(14)
合計	42.9	42.2	5.0	0.3	9.6	100(301)

(4) 無理をしてきたように思う

	非 そ 常 う に 思 う	ま そ あ う 思 う	余 思 り わ そ な う い	全 思 く わ そ な う い	N A	%(N)
ビジネス・エリート	11.6	21.0	47.8	6.5	13.0	100(138)
政治家・官僚	12.0	20.0	64.0	0.0	4.0	100(25)
教授・教育家	2.0	14.3	51.0	22.4	10.2	100(49)
芸術家	2.0	24.0	30.0	20.0	24.0	100(50)
専門職エリート	0.0	32.0	20.0	20.0	28.0	100(25)
その他	7.1	7.1	50.0	0.0	35.7	100(14)
合計	7.3	20.6	44.5	11.6	15.9	100(301)

(5) 身に余る地位や名誉を得すぎていると思う

	非 そ 常 う に 思 う	ま そ あ う 思 う	余 思 り わ そ な う い	全 思 く わ そ な う い	N A	%(N)
ビジネス・エリート	11.6	31.9	34.1	8.7	13.8	100(138)
政治家・官僚	28.0	16.0	44.0	4.0	8.0	100(25)
教授・教育家	4.1	20.4	44.9	18.4	12.2	100(49)
芸術家	12.0	26.0	34.0	10.0	18.0	100(50)
専門職エリート	4.0	8.0	36.0	16.0	36.0	100(25)
その他	0.0	28.6	21.4	14.3	35.7	100(14)
合計	10.6	25.6	36.2	11.0	16.6	100(301)

あなたのご家族についておたずねします。

[10] ごきょうだいについてお聞きします。

(1) あなたは、長女でいらっしゃいますか。

{①長女である/②長女ではない} (あてはまる方に○をしてください)

(2) また、ごきょうだいの中で上から数えて何番目でいらっしゃいますか。

[] 番目

(1) 長女かどうか

	長女	次以下女	%(N)
ビジネス・エリート	55.8	44.2	100(138)
政治家・官僚	68.0	32.0	100(25)
教授・教育家	69.4	30.6	100(49)
芸術家	58.0	42.0	100(50)
専門職エリート	64.0	36.0	100(25)
その他	57.1	42.9	100(14)
合計	60.1	39.9	100(301)

(2) きょうだい内での順位

	1	2	3	4	5	6~	NA	%(N)
ビジネス・エリート	42.0	21.7	16.7	10.1	2.2	5.0	2.2	100(138)
政治家・官僚	48.0	32.0	16.0	0.0	4.0	0.0	0.0	100(25)
教授・教育家	53.1	18.4	18.4	4.1	2.0	2.0	2.0	100(49)
芸術家	42.0	20.0	10.0	2.0	8.0	8.0	10.0	100(50)
専門職エリート	60.0	12.0	8.0	0.0	8.0	0.0	12.0	100(25)
その他	28.6	21.4	21.4	14.3	0.0	7.1	7.1	100(14)
合計	45.2	20.9	15.3	6.3	3.7	4.4	4.3	100(301)

[11] あなたの育ってきた家庭の躰についておたずねします。あてはまる番号を選んで、○で囲んでください。

	かなり干渉する方だった	どち干渉するかという点	ど放ちだったかといえば	ま放ちだった
1. 学校の成績や進学について	1	2	3	4
2. 友人関係について	1	2	3	4
3. 礼儀・規則を守ることにについて	1	2	3	4
4. 女らしさの躰について	1	2	3	4
5. 就職について	1	2	3	4
6. 結婚について	1	2	3	4

(1) 学校の成績や進学について

	かなり干渉	どちえらばか干渉	どちえらばか放ちと任	ま放ちた	NA	%(N)
ビジネス・エリート	9.4	25.4	45.7	14.5	5.1	100(138)
政治家・官僚	20.0	20.0	48.0	12.0	0.0	100(25)
教授・教育家	6.1	26.5	42.9	18.4	6.1	100(49)
芸術家	16.0	14.0	38.0	20.0	12.0	100(50)
専門職エリート	8.0	24.0	40.0	12.0	16.0	100(25)
その他	7.1	21.4	42.9	7.1	21.4	100(14)
合計	10.6	22.9	43.5	15.3	7.6	100(301)

(2) 友人関係について

	かなり干渉	どちえらばか干渉	どちえらばか放ちと任	ま放ちた	NA	%(N)
ビジネス・エリート	5.1	25.4	48.6	15.9	5.1	100(138)
政治家・官僚	4.0	16.0	48.0	28.0	4.0	100(25)
教授・教育家	0.0	24.5	38.8	28.6	8.2	100(49)
芸術家	6.0	16.0	44.0	18.0	16.0	100(50)
専門職エリート	4.0	16.0	52.0	16.0	12.0	100(25)
その他	0.0	14.3	50.0	7.1	28.6	100(14)
合計	4.0	21.6	46.5	18.9	9.0	100(301)

(3) 礼儀・規則を守ることにについて

	かなり干渉	どちえらばか干渉	どちえらばか放ちと任	ま放ちた	NA	%(N)
ビジネス・エリート	39.9	43.5	10.1	3.6	2.9	100(138)
政治家・官僚	28.0	44.0	28.0	0.0	0.0	100(25)
教授・教育家	24.5	61.2	4.1	8.2	2.0	100(49)
芸術家	42.0	28.0	16.0	2.0	12.0	100(50)
専門職エリート	28.0	36.0	20.0	0.0	16.0	100(25)
その他	14.3	50.0	14.3	0.0	21.4	100(14)
合計	34.6	43.5	12.6	3.3	6.0	100(301)

(4) 女らしさの躰について

	かなり干渉	どちえらばか干渉	どちえらばか放ちと任	ま放ちた	NA	%(N)
ビジネス・エリート	26.8	30.4	28.3	10.1	4.3	100(138)
政治家・官僚	12.0	36.0	36.0	16.0	0.0	100(25)
教授・教育家	6.1	28.6	44.9	10.2	10.2	100(49)
芸術家	22.0	18.0	30.0	14.0	16.0	100(50)
専門職エリート	8.0	16.0	36.0	16.0	24.0	100(25)
その他	7.1	35.7	21.4	7.1	28.6	100(14)
合計	18.9	27.6	32.2	11.6	9.6	100(301)

(5) 就職について

	かなり干渉	どちらばか干渉	どちらばか放と任	ま放ったく	N A	%(N)
ビジネス・エリート	8.7	15.9	42.8	22.5	10.1	100(138)
政治家・官僚	4.0	16.0	52.0	28.0	0.0	100(25)
教授・教育家	2.0	14.3	38.8	34.7	10.2	100(49)
芸術家	10.0	12.0	34.0	20.0	24.0	100(50)
専門職エリート	8.0	4.0	36.0	24.0	28.0	100(25)
その他	7.1	7.1	42.9	14.3	28.6	100(14)
合計	7.3	13.6	40.9	24.3	14.0	100(301)

(6) 結婚について

	かなり干渉	どちらばか干渉	どちらばか放と任	ま放ったく	N A	%(N)
ビジネス・エリート	21.0	29.0	27.5	17.4	5.1	100(138)
政治家・官僚	12.0	20.0	40.0	28.0	0.0	100(25)
教授・教育家	10.2	22.4	26.5	24.5	16.3	100(49)
芸術家	18.0	16.0	26.0	24.0	16.0	100(50)
専門職エリート	24.0	4.0	24.0	32.0	16.0	100(25)
その他	7.1	14.3	35.7	7.1	35.7	100(14)
合計	17.6	22.3	28.2	21.3	10.6	100(301)

[12] あなたが15歳の時のご両親の主な職業は次のどれにあたりますか。 ご両親それぞれについてあてはまる番号を下から選び、〔 〕に記入してください。

お父さまの職業=>〔 〕

お母さまの職業=>〔 〕

1. 農林漁業	7. 上級ホワイトカラー (事務・販売・技術などで課長以上)
2. 公務員(教員を除く)	7a. 従業員500人未満の企業雇用者
3. 教員	7b. 従業員500-999人の企業雇用者
3a. 4年制大学	7c. 従業員1000人以上の企業雇用者
3b. 短期大学・高等専門学校	8. 一般ホワイトカラー
3c. 高等学校	8a. 従業員500人未満の企業雇用者
3d. 小学校・中学校	8b. 従業員500-999人の企業雇用者
4. 議員	8c. 従業員1000人以上の企業雇用者
4a. 国会議員	9. ブルーカラー(生産工程従事者など)
4b. 都道府県議会・市議会議員	9a. 従業員500人未満の企業雇用者
4c. 町村議会議員	9b. 従業員500-999人の企業雇用者
5. 自由業	9c. 従業員1000人以上の企業雇用者
5a. 医師、看護婦など医療関係	10. 主婦・無職
5b. 弁護士など法曹関係	11. 死去・離別等
5c. マスコミ関係、芸術家、作家など文化関係	12. その他(具体的に)
5d. その他(具体的に)	
6. 経営者	
6a. 従業員500人未満の企業経営者	
6b. 従業員500-999人の企業経営者	
6c. 従業員1000人以上の企業経営者	

(1) 父の職業

	中業小W企C	大W企C	そWのC他	政公治務家員	教教授育家	芸術家	専門職	その他	無職	死離去別	%(N)
ビジネス・エリート	35.5	6.4	8.6	13.7	2.9	0.7	5.0	19.3	0.7	7.2	100(138)
政治家・官僚	20.0	4.0	4.0	16.0	12.0	0.0	4.0	20.0	4.0	16.0	100(25)
教授・教育家	14.2	8.1	2.0	16.3	18.2	6.1	4.0	18.8	4.1	8.2	100(49)
芸術家	12.0	6.0	6.0	6.0	10.0	12.0	6.0	28.0	0.0	14.0	100(50)
専門職エリート	12.0	16.0	4.0	16.0	0.0	0.0	28.0	20.0	4.0	0.0	100(25)
その他	14.2	7.1	0.0	14.3	14.3	0.0	7.1	28.7	0.0	14.3	100(14)
合計	23.9	7.3	5.9	13.2	7.6	3.3	7.0	21.1	1.7	9.0	100(301)

(2) 母の職業

	中業 小W 企C	大W 企C 業	そW のC 他	政公 治務 家員	教教 授育 家	芸 術 家	専 門 職	そ の 他	無 職	死離 去別	%(N)
ビジネス・エリート	4.2	0.0	0.7	0.0	5.0	0.0	0.7	17.0	68.8	3.6	100(138)
政治家・官僚	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	4.0	24.0	68.0	0.0	100(25)
教授・教育家	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	14.4	81.6	0.0	100(49)
芸術家	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	26.0	62.0	4.0	100(50)
専門職エリート	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	16.0	80.0	0.0	100(25)
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	14.3	78.6	0.0	100(14)
合計	2.3	0.0	0.6	0.0	3.4	1.0	1.0	18.3	71.1	2.3	100(301)

[13] あなたがお考えになって、あなたの出身家庭の社会的・経済的地位は次のどれにあたり
ますか。下から選んで番号を○で囲んでください。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 1. 上の上 | 3. 中の上 | 5. 下の上 |
| 2. 上の下 | 4. 中の下 | 6. 下の下 |

	上 の 上	上 の 下	中 の 上	中 の 下	下 の 上	下 の 下	N A	%(N)
ビジネス・エリート	3.6	14.5	58.0	13.8	2.2	2.9	5.1	100(138)
政治家・官僚	4.0	12.0	36.0	32.0	12.0	4.0	0.0	100(25)
教授・教育家	0.0	24.5	49.0	20.4	2.0	2.0	2.0	100(49)
芸術家	6.0	14.0	52.0	18.0	0.0	0.0	10.0	100(50)
専門職エリート	0.0	16.0	52.0	12.0	4.0	0.0	16.0	100(25)
その他	0.0	0.0	57.1	21.4	7.1	0.0	14.3	100(14)
合計	3.0	15.3	53.2	17.3	3.0	2.0	6.3	100(301)

[14] あなたのご両親の最終学歴は次にあげたうちのどれでしょうか(中退も含めてください)。
ご両親それぞれについてあてはまる番号を〔 〕に記入してください。

お父さま=>〔 〕

お母さま=>〔 〕

- | |
|--|
| 1. 初等教育学歴〔小学校・新制中学・国民学校等〕 |
| 2. 中等教育学歴〔旧制中学・実業学校・高等女学校・旧制高校・新制高校等〕 |
| 3. 高等教育学歴〔旧制高等専門学校・高等専門学校・専門学校(専修学校専門課程)
・高等師範学校・旧制大学・新制大学・短期大学・大学院等〕 |
| 4. 不明 |

(1) 父の最終学歴

	初教 等育	中教 等育	高教 等育	不 明	N A	%(N)
ビジネス・エリート	27.5	30.4	37.0	1.4	3.6	100(138)
政治家・官僚	24.0	16.0	60.0	0.0	0.0	100(25)
教授・教育家	18.4	16.3	61.2	2.0	2.0	100(49)
芸術家	10.0	20.0	56.0	8.0	6.0	100(50)
専門職エリート	16.0	24.0	48.0	0.0	12.0	100(25)
その他	35.7	21.4	21.4	7.1	14.3	100(14)
合計	22.3	24.3	46.2	2.7	4.7	100(301)

(2) 母の最終学歴

	初教 等育	中教 等育	高教 等育	不 明	N A	%(N)
ビジネス・エリート	26.8	51.4	15.9	1.4	4.3	100(138)
政治家・官僚	24.0	64.0	12.0	0.0	0.0	100(25)
教授・教育家	10.2	55.1	26.5	4.1	4.1	100(49)
芸術家	18.0	58.0	10.0	6.0	8.0	100(50)
専門職エリート	20.0	52.0	12.0	4.0	12.0	100(25)
その他	14.3	42.9	14.3	7.1	21.4	100(14)
合計	21.3	53.8	15.9	3.0	6.0	100(301)

〔15〕結婚についてお伺いします。

(1) あなたは結婚していらっしゃいますか。あてはまる番号に○をし、現在結婚されている方は後の質問にもお答えください。

1. 未婚である	→	〔16〕へすすんでください
2. 現在結婚している		
	→	その結婚は {①初婚/②再婚} (あてはまる方に○をしてください)
	→	その結婚は {③恋愛結婚/④見合い結婚}
3. 離別		
4. 死別		

(2) あなたが最初に結婚したのは何歳の時でしたか。=>満〔 〕歳

(3) 現在のご夫君の最終学歴は次の中のどれにあたりますか(中退も含めてください)。該当する番号を○で囲んでください。

1. 初等教育学歴〔小学校・新制中学・国民学校等〕
2. 中等教育学歴〔旧制中学・実業学校・旧制高校・新制高校等〕
3. 高等教育学歴〔高等専門学校・専門学校(専修学校専門課程)・旧制大学・新制大学・短期大学・大学院等〕

(1) 結婚

	未婚	結婚	離別	死別	NA	%(N)
ビジネス・エリート	8.7	24.6	7.2	54.3	5.1	100(138)
政治家・官僚	0.0	64.0	8.0	24.0	4.0	100(25)
教授・教育家	32.7	40.8	2.0	20.4	4.1	100(49)
芸術家	30.0	24.0	16.0	22.0	8.0	100(50)
専門職エリート	12.0	44.0	8.0	24.0	12.0	100(25)
その他	14.3	28.6	7.1	42.9	7.1	100(14)
合計	15.9	32.2	8.0	37.9	6.0	100(301)

初婚か再婚か

	初婚	再婚	NA	非該	%(N)
ビジネス・エリート	29.0	4.3	58.0	8.7	100(138)
政治家・官僚	64.0	4.0	32.0	0.0	100(25)
教授・教育家	40.8	0.0	26.5	32.7	100(49)
芸術家	24.0	6.0	40.0	30.0	100(50)
専門職エリート	48.0	0.0	40.0	12.0	100(25)
その他	35.7	0.0	50.0	14.3	100(14)
合計	34.9	3.3	45.8	15.9	100(301)

恋愛か見合いか

	恋愛	見合	NA	非該	%(N)
ビジネス・エリート	21.7	13.8	55.8	8.7	100(138)
政治家・官僚	64.0	8.0	28.0	0.0	100(25)
教授・教育家	24.5	14.3	28.6	32.7	100(49)
芸術家	26.0	2.0	42.0	30.0	100(50)
専門職エリート	40.0	12.0	36.0	12.0	100(25)
その他	7.1	21.4	57.1	14.3	100(14)
合計	27.2	11.6	45.2	15.9	100(301)

(2) 何歳で結婚したか

	25歳未満	25～29歳	30～34歳	35歳以上	N A	非当該	%(N)
ビジネス・エリート	54.3	25.3	2.1	2.1	7.2	8.7	100(138)
政治家・官僚	56.0	36.0	4.0	0.0	4.0	0.0	100(25)
教授・教育家	26.6	26.6	6.1	4.0	4.1	32.7	100(49)
芸術家	46.0	10.0	0.0	4.0	10.0	30.0	100(50)
専門職エリート	40.0	20.0	12.0	4.0	16.0	8.0	100(25)
その他	35.6	28.5	7.1	0.0	14.3	14.3	100(14)
合計	46.4	23.6	3.6	2.6	8.0	15.6	100(301)

(3) 夫の最終学歴

	初等教育	中等教育	高等教育	N A	非当該	%(N)
ビジネス・エリート	2.9	13.0	51.4	23.9	8.7	100(138)
政治家・官僚	0.0	16.0	64.0	20.0	0.0	100(25)
教授・教育家	0.0	4.1	57.1	6.1	32.7	100(49)
芸術家	0.0	4.0	30.0	36.0	30.0	100(50)
専門職エリート	0.0	4.0	64.0	24.0	8.0	100(25)
その他	0.0	7.1	64.3	14.3	14.3	100(14)
合計	1.3	9.3	51.5	22.3	15.6	100(301)

[16] お子さんについてお聞きします。

(1) あなたはお子さんをお持ちですか(養子、実子を問いません)。

(①はい/②いいえ)

↓ [お子さんがいらっしゃる方は]

(2) お子さんは何人いらっしゃいますか(別居、同居を含めてください)。

()人

(3) あなたは、これまでに(あるいは現在)小学校就学以前のお子さんを育てているあいだ、お仕事はどうなさっていましたか(どうなさっていますか)。あてはまる番号に○をしてください。

- | |
|--|
| ①仕事を続けていた(続けている)
②子育て中は仕事を中断していた(中断している)
③小学校就学以前の子どもを育てた経験はない |
|--|

↓ [お仕事を続けていた方は]

(4) そのとき、お子さんの保育はどのようになさっていましたか。下にあげた中から、もっとも近いものを1つ選んであてはまる番号を○で囲んでください。

- | |
|--|
| 1. 保育所へ預けた
2. 仕事の時間の都合をつけて、自分がよく世話をした
3. 夫がよく世話をしてくれた
4. 母がよく世話をしてくれた
5. お手伝いさん・ベビーシッターを頼んだ
6. その他〔具体的に |
|--|

(1) 子どもがいるか

	いる	いない	N A	%(N)
ビジネス・エリート	80.4	0.0	19.6	100(138)
政治家・官僚	92.0	0.0	8.0	100(25)
教授・教育家	44.9	2.0	53.1	100(49)
芸術家	52.0	0.0	48.0	100(50)
専門職エリート	56.0	0.0	44.0	100(25)
その他	64.3	0.0	35.7	100(14)
合計	68.1	0.3	31.6	100(301)

(2) 子どもの数

	1	2	3	4	5	6	NA	非該	%(N)
ビジネス・エリート	15.2	23.9	26.1	12.3	2.2	1.4	5.8	13.0	100(138)
政治家・官僚	28.0	44.0	12.0	4.0	4.0	0.0	4.0	4.0	100(25)
教授・教育家	10.2	24.5	6.1	2.0	2.0	0.0	10.2	44.9	100(49)
芸術家	18.0	24.0	8.0	2.0	0.0	0.0	12.0	36.0	100(50)
専門職エリート	12.0	20.0	12.0	12.0	0.0	0.0	4.0	40.0	100(25)
その他	14.3	14.3	21.4	14.3	0.0	0.0	7.1	28.6	100(14)
合計	15.6	24.9	17.3	8.3	1.7	0.7	7.3	24.3	100(301)

(3) 小学校就学以前の子どもの育児

	仕継 事続	仕中 事断	*	その他 の	N A	%(N)
ビジネス・エリート	52.9	14.5	3.6	2.2	26.8	100(138)
政治家・官僚	76.0	16.0	0.0	0.0	8.0	100(25)
教授・教育家	40.8	4.1	2.0	0.0	53.1	100(49)
芸術家	44.0	0.0	4.0	0.0	52.0	100(50)
専門職エリート	48.0	8.0	0.0	0.0	44.0	100(25)
その他	42.9	0.0	0.0	0.0	57.1	100(14)
合計	50.5	9.3	2.7	1.0	36.5	100(301)

* 小学校就学以前の子どもを育てた経験はない

※ NAには非該当も含まれている

(4) 仕事を継続していた場合の保育

	保 育 所	自 世 分 話 が	夫 が 世 話	母 が 世 話	ベ シ ッ タ ー	二 な 重 ど 保 育	そ の 他	N A	%(N)
ビジネス・エリート	5.1	7.2	0.0	11.6	21.0	26.1	2.2	26.8	100(138)
政治家・官僚	32.0	4.0	4.0	16.0	12.0	24.0	0.0	8.0	100(25)
教授・教育家	4.1	6.1	0.0	4.1	22.4	8.1	0.0	55.1	100(49)
芸術家	0.0	8.0	0.0	12.0	14.0	14.0	0.0	52.0	100(50)
専門職エリート	12.0	0.0	0.0	8.0	20.0	16.0	0.0	44.0	100(25)
その他	0.0	14.3	0.0	7.1	21.4	0.0	0.0	57.1	100(14)
合計	6.6	6.6	0.3	10.3	19.3	18.9	1.0	36.9	100(301)

※NAには非該当も含まれている

主に自分がしていたが手伝ってくれる人がいた場合、その人は

	夫	母	おい 手伝	子 ども	親 族等	そ の他	N A	非 該 当	%(N)	
ビジネス・エリート	2.2	5.8	28.3	2.2	10.2	0.7	7.2	43.5	100(138)	
政治家・官僚	20.0	12.0	8.0	0.0	16.0	0.0	4.0	40.0	100(25)	
教授・教育家	0.0	6.1	18.4	0.0	8.1	2.0	10.2	55.1	100(49)	
芸術家	4.0	6.0	34.0	2.0	16.0	0.0	6.0	32.0	100(50)	
専門職エリート	4.0	4.0	20.0	0.0	20.0	0.0	4.0	48.0	100(25)	
その他	14.3	0.0	21.4	7.1	0.0	0.0	7.1	50.0	100(14)	
合計	4.3	6.0	24.9	1.7	11.7	0.7	7.0	43.9	100(301)	

主に他人がしていた場合、その人は

	夫	母	おい 手伝	子 ども	親 族等	N A	非 該 当	%(N)	
ビジネス・エリート	0.7	2.2	13.0	0.0	5.7	7.2	71.0	100(138)	
政治家・官僚	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	8.0	88.0	100(25)	
教授・教育家	0.0	6.1	8.2	0.0	6.1	8.2	71.4	100(49)	
芸術家	0.0	2.0	2.0	2.0	6.0	6.0	82.0	100(50)	
専門職エリート	0.0	8.0	12.0	0.0	0.0	4.0	76.0	100(25)	
その他	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	7.1	78.6	100(14)	
合計	0.3	3.3	9.0	0.3	5.0	7.0	75.1	100(301)	

(2) 夫の態度

	1	2	3	4	5	6	7	他	NA	非該	%(N)	
ビジネス・エリート	31.9	2.2	2.2	10.9	4.3	1.4	14.5	0.0	23.2	9.4	100(138)	
政治家・官僚	72.0	0.0	8.0	0.0	8.0	0.0	8.0	0.0	4.0	0.0	100(25)	
教授・教育家	44.9	6.1	0.0	8.2	4.1	0.0	0.0	2.0	4.1	30.6	100(49)	
芸術家	30.0	2.0	4.0	6.0	2.0	0.0	0.0	2.0	24.0	30.0	100(50)	
専門職エリート	48.0	8.0	0.0	8.0	0.0	0.0	8.0	4.0	16.0	8.0	100(25)	
その他	14.3	0.0	0.0	14.3	7.1	0.0	14.3	0.0	35.7	14.3	100(14)	
合計	37.5	3.0	2.3	8.6	4.0	0.7	8.6	1.0	18.6	15.6	100(301)	

※ 各項目は以下の通りである。

- 1 全面的に賛成、認めてくれた
- 2 家事に支障がない範囲で賛成、認めてくれた
- 3 育児に支障がない範囲で賛成、認めてくれた
- 4 干渉しなかった
- 5 仕事や活動の内容によって賛成したり反対したりした
- 6 全面的に反対した
- 7 仕事や活動の基礎をつくってくれた

最後に教育に関するご意見をお聞かせください。

〔18〕この質問では、あなたに中高生（12,3～17,8歳）くらいのお子さん、お孫さんがおられる場合はその方を念頭においてお答えください。その年齢のお子さん、お孫さんがおられない場合には、その年頃の青少年一般を念頭においてお答えください。

以下に、子どもの性質に関する14のことがらあげてあります。これらの中で、あなたのお子さん、お孫さんにとってもっとも望ましいと思われるものを3つ選び、その番号を○で囲んでください。

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------|
| 1. 行儀のよいこと | 7. 成功しようと一生懸命努力すること |
| 2. 正直なこと | 8. 身なりがきちんとしていて清潔なこと |
| 3. はっきりした自分の意見を持ち、
人の考えを正しく判断できること | 9. 自分の気持ちをおさえることができること |
| 4. 他の生徒とうまくやっていけること | 10. 男の子らしく／女の子らしくふるまうこと |
| 5. 責任感を持つこと | 11. 親の言うことをよくきくこと |
| 6. ものごとがなぜ、どのようにして
起こるのかに興味を持つこと | 12. 他人に思いやりがあること |
| | 13. 熱心に勉強する生徒であること |
| | 14. 独立心が強いこと |

	行よ 儀さ の	正 直と な	自見 分を の も 意つ	協 調 性	責 任 感	好 奇 心	成た 功め す 努 る力	清 潔と な	自 制 心	男 女 ら し さ さ	親 に 従 う	思 い や り	よ 勉 く 強 す る	独 立 す る	N
ビジネス・エリート	7.2	19.6	76.1	2.2	54.3	20.3	7.2	1.4	7.2	2.2	3.6	68.8	5.1	20.3	138
政治家・官僚	0.0	24.0	76.0	8.0	44.0	24.0	12.0	4.0	0.0	0.0	4.0	72.0	4.0	24.0	25
教授・教育家	6.1	22.4	65.3	2.0	55.1	20.4	2.0	2.0	8.2	4.1	2.0	61.2	16.3	14.3	49
芸術家	14.0	24.0	64.0	6.0	40.0	30.0	4.0	6.0	4.0	4.0	2.0	68.0	4.0	30.0	50
専門職エリート	16.0	28.0	72.0	0.0	44.0	12.0	12.0	0.0	8.0	0.0	4.0	68.0	8.0	12.0	25
その他	7.1	42.9	64.3	0.0	35.7	21.4	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	14.3	7.1	14
合計	8.3	22.9	71.4	3.0	49.5	21.6	6.6	2.3	6.0	2.3	3.0	67.1	7.3	19.9	301

[19] 現在の日本では、高等教育を受ける女性が以前と比べて飛躍的に増加し、社会も変化していると言われます。にもかかわらず、社会の様々な領域への女性の進出はまだまだ少ないと思われます。このことについて、あなたの意見をお聞かせください。

☆質問は以上で終わりです。ご協力まことにありがとうございました。回答紙は同封の返信用封筒で返送していただきますよう、よろしく願いいたします。

大阪大学人間科学部教育計画論研究室

調査責任者 麻生 誠

※調査に関するお問い合わせは

教育計画論研究室 06-877-5111

(内線6395)

=====
☆この調査の結果は、報告書のかたちでまとめる予定です。報告書の送付を希望される方は、宛先をお書き添えください。

[おところ 〒

]

[おなまえ

]

高等教育研究叢書 バックナンバー

旧大学研究ノート

- 第 1 号 (1971. 8) サセックス大学のカリキュラム：自然科学系ハンドブック1966・67より
 大学問題調査室〔編訳〕
- 第 2 号 (1971. 9) ドイツの大学におけるInstitute数及び教授数に関する集計
 近藤春生
- 第 3 号 (1971.10) 高等教育に関する主要外国雑誌目録 岩村 聡〔編〕
- 第 4 号 (1972. 7) 欧米の医学カリキュラム 杉村芳夫〔編訳〕
- 第 5 号 (1972. 8) アメリカ合衆国の主要大学に関する基本資料
 関 正夫・川上昭吾〔編訳〕
- 第 6 号 (1973. 2) サセックス大学のカリキュラム：人文・社会系ハンドブック1966・67より
 大学教育研究センター〔編訳〕
- 第 7 号 (1973. 3) 諸大学学寮規程・規則集(1) 大学教育研究センター〔編訳〕
- 第 8 号 (1973. 8) ドイツ大学改革と学生生活の現況 マールブルク大学を中心として
 千代田 寛・阪口修平
- 第 9 号 (1973. 9) 広島大学医学部紛争における医局・講座、大学院および学位制度問題資料
 杉原芳夫〔編〕
- 第 10 号 (1974. 1) 理学部生物学科の調査 ―カリキュラムを中心に
 川上昭吾
- 第 11 号 (1974. 2) 大学院・研究体制に関する文献目録 喜多村 和之〔編〕
- 第 12 号 (1974. 2) 大学院・学位に関する規定集 喜多村 和之〔編〕
- 第 13 号 (1974. 3) アメリカ工業教育協会報告書：工学系学生のための教養教育
 関 正夫〔編訳〕
- 第 14 号 (1974. 3) 諸大学学寮規定・規則集(2) 大学教育研究センター〔編〕
- 第 15 号 (1974. 6) 農学系大学・学部新入学生の入学動機と農業に関する意識の調査・研究
 農業高校生との進路選択と農業に関する意識の調査研究
 ー普通高校生との比較ー 山谷洋二
- 第 16 号 (1974. 9) カリフォルニア大学の農学系カリキュラム 山谷洋二〔編訳〕
- 第 17 号 (1975. 1) ヨーロッパの学生宿舎を見て 横尾壮英
- 第 18 号 (1975. 2) 学寮の管理運営の法的検討 … 畑 博行・村上武則
- 第 19 号 (1975. 3) 大学院・学位制度に関する資料集 寺崎昌男〔編〕
- 第 20 号 (1975.10) 大学の大衆化をめぐる ―第3回(1974年度) 研究員集会の記録―
 大学教育研究センター〔編〕
- 第 21 号 (1976. 1) 大学英語教育に関するアンケート調査 ―広島大学における学生の意見―
五十嵐 二郎・稲田勝彦・岩村 聡
 藤本 黎時・湯浅 信之
- 第 22 号 (1976. 3) 西ドイツ高等教育改革の青写真 天野正治
- 第 23 号 (1976. 3) 宮城教育大学の教育改革 ―視察報告―
 教師教育プロジェクト〔編〕

- 第 24 号 (1976. 8) 広島大学学生の宿舎と生活 —アンケート調査から—
 …… 黒川正流・上里一郎・岩村 聡
- 第 25 号 (1976. 9) 高学歴社会 —その現実と将来— —第 4 回(1975年度)研究員集会の記録—
 …… 大学教育研究センター〔編〕
- 第 26 号 (1976.11) 大学の組織・運営に関する総合的研究
 …… 組織・運営プロジェクト〔編〕
- 第 27 号 (1977. 2) 教師教育カリキュラムの研究 …… 教師教育プロジェクト〔編〕
- 第 28 号 (1977. 2) 農学系大学・学部新入学生の入学動機と農業に関する意識の
 調査・研究 —その 2 東日本の場合— …… 山谷 洋 二
- 第 29 号 (1977. 3) 理学系学生に対する教養課程における自然科学教育に関する調査・研究
 —広島大学一般教育課程における物理学教育に関するアンケートから—
 …… 理科系教育研究プロジェクト (物理グループ)
- 第 30 号 (1977. 6) 日本のアカデミック・プロフェッション
 —帝国大学における教授集団の形成と講座制—… 天野 郁 夫
- 第 31 号 (1977. 9) 大学における専門教育 —第 5 回 (1976年度) 研究員集会の記録—
 …… 大学教育研究センター〔編〕
- 第 32 号 (1978. 8) 大学の国際化 —第 6 回 (1977年度) 研究員集会の記録—
 …… 大学教育研究センター〔編〕
- 第 33 号 (1978.10) 諸外国の大学における国際交流 —とくにアメリカ合衆国を中心として—
 …… 喜多村 和 之・天野 郁 夫・湯 浅 信 之
- 第 34 号 (1978.11) 教養課程における理科系学生に対する自然科学教育の現状と課題 (I)
 —広島大学の事例を中心として—
 …… 高等科学技術教育研究プロジェクト〔編〕
- 第 35 号 (1978.11) 教養課程における理科系学生に対する自然科学教育の現状と課題 (II)
 —理科系専門教育の立場から—
 …… 高等科学技術教育研究プロジェクト〔編〕
- 第 36 号 (1979. 2) 広島大学医学部と地域社会 …… 大学と地域社会プロジェクト
- 第 37 号 (1979. 5) 諸外国における一般教育および科学技術教育改革の動向
 …… 高等科学技術教育研究プロジェクト〔編〕
- 第 38 号 (1979. 7) 高等専門学校の現状と課題 …… 葉 柳 正
- 第 39 号 (1979.10) 地域社会と大学 —第 7 回 (1978年度) 研究員集会の記録—
 …… 大学教育研究センター〔編〕
- 第 40 号 (1979.11) 大学と地域社会の相互連関に関する調査研究 (I)
 —広島大学教員実態調査—
 …… 大学と地域社会プロジェクト (池田秀男)
- 第 41 号 (1979.12) 大学の国際交流に関する文献目録
 …… 「大学の国際化」プロジェクト〔編〕
- 第 42 号 (1979.12) 大学と地域社会の相互連関に関する調査研究 (II) —地域住民の大学観—
 …… 大学と地域社会プロジェクト (吉森 護)
- 第 43 号 (1980. 1) 日本の大学における外国人教員 —全国調査結果の概要—

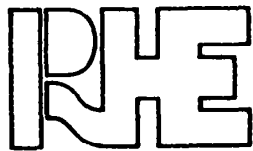
- 「大学の国際化」プロジェクト〔編〕
- 第 44 号 (1980. 7) 大学と地域社会の相互連関に関する調査研究 (III) —広島大学と地域社会—
..... 大学と地域社会プロジェクト (黒川正流)
- 第 45 号 (1980. 7) 大学農学教育に関する文献目録 山 谷 洋 二〔編〕
- 第 46 号 (1980. 9) 理科系学生に対する一般教育の現状と課題
..... 高等科学技術教育研究プロジェクト
- 第 47 号 (1980.11) 諸外国の大学における外国人教授の任用 —制度と実態—
..... 喜多村 和 之
- 第 48 号 (1981. 7) 大学医学教育に関する文献目録 川 崎 尚〔編〕
- 第 49 号 (1981. 8) 科学社会学の研究 新 堀 通 也〔編〕
- 第 50 号 (1981.10) 大学における教育機能 (Teaching) を考える
—第 9 回 (1980年度) 研究員集会の記録—
..... 大学教育研究センター〔編〕
- 第 51 号 (1982. 1) 19世紀における科学の制度化と大学改革 —フランス・ドイツ・英国—
..... 成 定 薫〔編訳〕
- 第 52 号 (1982. 2) 日本の大学院教育に関する留学生の意見調査
—全国調査結果の概要— 「大学の国際化」プロジェクト〔編〕
- 第 53 号 (1982. 3) 工学系大学・学部の教育改革に関する事例研究
—広島大学工学部改革調査— 高等科学技術教育研究プロジェクト
- 第 54 号 (1982.10) 大学における教授と学習 —第10回 (1981年度) 研究員集会の記録—
..... 大学教育研究センター〔編〕
- 第 55 号 (1982.12) 教師教育カリキュラムの研究(2) 教師教育プロジェクト〔編〕
- 第 56 号 (1983. 3) 日本の理工系大学教育の現状と将来像 —全国大学教員意見調査結果の概要—
..... 高等科学技術教育研究プロジェクト〔編〕
- 第 57 号 (1983. 8) 大学教育とカリキュラム —第11回 (1982年度) 研究員集会の記録—
..... 大学教育研究センター〔編〕
- 第 58 号 (1983.11) 高等教育に関する統計資料 —理工系分野を中心にして—
..... 前 川 力
- 第 59 号 (1984.10) 大学における教育と研究の接点を求めて
—第12回 (1983年度) 研究員集会の記録—
..... 大学教育研究センター〔編〕
- 第 60 号 (1985. 1) 外国大学における日本研究 新 堀 通 也〔編〕
- 第 61 号 (1985. 3) 明治初期専門教育成立に関する公文関係史料 ... 三 好 信 浩〔編〕
- 第 62 号 (1985. 3) 日本の大学教育の現状・課題・展望
—カリキュラムとティーチングを中心に—
... 「大学教育に関する全国調査」プロジェクト〔編〕
- 第 63 号 (1985.10) 新制大学の35年 —その功罪を考える—
—第13回 (1984年度) 研究員集会の記録—
..... 大学教育研究センター〔編〕
- 第 64 号 (1986. 3) 学生の体調とやる気

- …………… 石 桁 正 士・岩 崎 重 剛
- 第 65 号 (1986. 3) 研究者の流動性と研究能力の向上に関する研究
- …………… 小 林 信 一・塚 原 修 一・山 田 圭 一
- 第 66 号 (1986. 3) アカデミック・プロダクティビティの条件に関する国際比較研究
- …………… 有 本 章〔編〕
- 第 67 号 (1986. 8) 大学入試と教育改革 ―第14回 (1985年度) 研究員集会の記録―
- …………… 大学教育研究センター〔編〕
- 第 68 号 (1987. 3) 将来社会における研究者の需給予測に関する研究
- …………… 山 田 圭 一〔編〕
- 第 69 号 (1987. 3) アジアの高等教育 …………… 馬 越 徹〔編〕
- 第 70 号 (1988. 1) アジア 8 か国における大学教授の日本留学観 (上)
- …………… 権 藤 与 志 夫〔編〕
- 第 71 号 (1988. 1) 官学と私学 ―大学の設置形態と国公私立大学の将来―
- ―第15回 (1986年度) 研究員集会の記録―
- …………… 大学教育研究センター〔編〕
- 第 72 号 (1988.11) 大学と政府 ―高等教育における役割と責任―
- ―第16回 (1987年度) 研究員集会の記録―
- …………… 大学教育研究センター〔編〕
- 第 73 号 (1989.10) 臨教審と高等教育改革 ―第17回 (1988年度) 研究員集会の記録―
- …………… 大学教育研究センター〔編〕
- 高等教育研究叢書**
- 第 1 号 (1990. 3) 留学生受入れと大学の国際化
- ―全国大学における留学生受入れと教育に関する調査報告―
- …………… 江 淵 一 公〔編〕
- 第 2 号 (1990. 3) 大学教育改革の方法に関する研究 ―Faculty Developmentの観点から―
- …………… 関 正 夫〔編〕
- 第 3 号 (1990. 3) 近代日本高等教育における助手制度の研究
- …………… 伊 藤 彰 浩・岩 田 弘 三・中 野 実
- 第 4 号 (1990. 3) ファカルティ・デベロップメントに関する文献目録および主要文献紹介
- …………… 伊 藤 彰 浩〔編〕
- 第 5 号 (1990. 3) 大学教育の改善に関する調査研究 ―全国大学教員調査報告書―
- …………… 有 本 章〔編〕
- 第 6 号 (1990. 3) 「大学」外の高等教育 ―国際的動向とわが国の課題―
- …………… 阿 部 美 哉・金 子 元 久〔編〕
- 第 7 号 (1990.10) 大学評価 ―その必要性と可能性―
- ―第18回 (1989年度) 研究員集会の記録―
- …………… 大学教育研究センター〔編〕
- 第 8 号 (1991. 3) 中国高等教育関係法規 (解説と成文) …………… 大 塚 豊
- 第 9 号 (1991. 3) 学生の勉学のやる気の状態遷移の分析

- …… 石 桁 正 士・岩 崎 重 剛・横 山 宏
- 第 10 号 (1991. 3) 学術研究の改善に関する調査研究
—全国高等教育機関教員調査報告書—…………… 有 本 章〔編〕
- 第 11 号 (1991. 3) アジア 8 か国における大学教授の日本留学観 (下)
…………… 権 藤 与志夫〔編〕
- 第 12 号 (1991. 3) 諸外国のFD/SDに関する比較研究 …………… 有 本 章〔編〕
- 第 13 号 (1991. 3) ヨーロッパにおける留学生受入れのシステムと現状
—独・仏・英国現地調査報告— …………… 江 淵 一 公
- 第 14 号 (1991.10) 2005年に向けてのカリキュラム改革
—食料・農業科学の将来計画— …………… 山 谷 洋 二〔訳〕
- 第 15 号 (1991.11) 大学評価 —提案と批判—
—第19回 (1990年度) 研究員集会の記録—
…………… 大学教育研究センター〔編〕
- 第 16 号 (1992. 1) アジア 8 か国における大学教授の日本留学観
—総合的考察— …………… 権 藤 与志夫〔編〕
- 第 17 号 (1992. 2) 外国留学効果の評価に関する研究
—フルブライト計画によるアメリカ大学院留学体験者を対象とする
調査研究報告書—
…………… 小 林 哲 也・星 野 命〔編〕
- 第 18号 (1992. 3) 短期大学教育と現代女性のキャリア —卒業生追跡調査の結果から—
…………… 金 子 元 久〔編〕
- 第 19 号 (1992.10) アメリカの大学院評価
—大学院教育の専門分野別評価を中心に—
…………… 江 原 武 一・奥 川 義 尚
- 第 20 号 (1992.11) 高等教育改革の新段階 —大学審議会答申を踏まえて—
—第20回 (1991年度) 研究員集会の記録—
…………… 大学教育研究センター〔編〕
- 第 21 号 (1993. 3) 大学評価と大学教授職 —大学教授職国際調査〔1992年〕の中間報告—
…………… 有 本 章〔編〕
- 第 22 号 (1993. 3) イギリス近代社会と高等教育 —パーキン教授講演集—
…………… 有 本 章・安 原 義 仁〔編訳〕
- 第 23 号 (1993. 3) 市民大学に関する調査研究 …………… 池 田 秀 男〔編〕
- 第 24 号 (1993.10) 高等教育研究と大学教育研究センター —創立20周年記念—
—第21回 (1992年度) 研究員集会の記録—
…………… 大学教育研究センター〔編〕

執筆者紹介（☆は編者）

- ☆麻生 誠 大阪大学 人間科学部 教授
（教育社会学、教育計画論）
- ☆山内 乾史 広島大学 大学教育研究センター 助手
（教育計画論、文化社会学）
- 冠野 文 大阪大学 人間科学研究科 大学院生
（教育計画論、女性学）



現代日本におけるエリート形成と高等教育

（高等教育研究叢書 25）

1994（平成6）年3月30日 発行

編者 麻生 誠・山内 乾史

発行所 広島大学 大学教育研究センター
〒730 広島市中区東千田町1丁目1-89
電話（082）241-1221 内線（3706）

印刷所 鯉城印刷株式会社
〒730 広島市中区十日市町2丁目8-2
電話（082）232-8247

RHE